

末日聖徒イエス・キリスト教会・2011年10月号

リアホナ



モルモン書 —
イエス・キリストについての
もう一つの証^{あかし}



「^{たまもの}神の賜物と力により」 サイモン・デューイ画

ジョセフ・スミスによってもたらされたモルモン書は、古代の版からの翻訳であり、「戒めにより、また預言と啓示の霊により書き記されたもの——書き記され、封じられ、主に託され、損なわれることのないようにされたもの——神の賜物と力によりもたらされ、翻訳されるもの……

……これはイスラエルの家の残りの者に、主が彼らの先祖のためにどのような偉大なことを行われたかを示すものであり、また、彼らはとこしえに捨てられないという主の聖約を、彼らに分かるように示すものである。——また、ユダヤ人と異邦人に、イエスがキリストであ……ることを確信させるものである。」
(モルモン書タイトルページ)



特別号へようこそ

1冊の機関誌全体をささげるほどの価値あるテーマはそう多くはありませんが、モルモン書はそのようなテーマの一つです。今月号では、過去と現在の預言者たちと世界中の会員たちがこの独特な聖典について証^{あかし}しています。この聖典の起源は奇跡的なものです。それは、回復についての目に見える証拠であり、わたしたちの宗教のかなめ石です。そして、それはわたしたちの時代のために書かれたものであり、わたしたちの信仰を築き、家族を強めるために、キリストの教義を明確にそして簡潔に教えるものです。

いつもの『リアホナ』でおなじみのシリーズはお休みさせていただきますが、大管長会メッセージ(4ページ)と家庭訪問メッセージ(46ページ)は、今月号にも掲載されています。これらのメッセージもほかのすべての記事も、モルモン書からの証と教えを伝えています。

今月号を祈りをもってよく研究し、メッセージを心に留め、それらをモルモン書とともに人々に分かち合うことができますように。

メッセージ

4 大管長会メッセージ——
モルモン書の買い約束
トーマス・S・モンソン大管長

46 家庭訪問メッセージ——
疑わなければ

表紙

フォトイラストレーション/ジョン・ルーク。
「あなたが知ることができるように」ゲラリー・
カップ画、デビッド・ラーセン夫妻の厚意により
掲載、複写は禁じられています。「キリスト
の肖像」ハインリッヒ・ホフマン画、C・ハリソ
ン・コンロイ社の厚意により掲載



特集

6 預言者ジョセフ・スミス—— モルモン書の翻訳者

教育を受けていない若者が、神の力を通して、「この世で最も正確な書物」の靈感された翻訳者となりました。

10 神の愛についてモルモン書は 何を教えているのか

ラッセル・M・ネルソン長老
霊的に生まれ変わり、神を愛する力を得たいですか。モルモン書がその方法を教えてくれます。

16 モルモン書が伝える物語

この記事は、モルモン書の中の重要な物語を子供たちに教えるときに役立ちます。

20 モルモン書年表

紀元前 2200 年の
ヤレド人から
紀元 420 年の
ニーファイ人の
文明の終わりまでの
主要な人物を
視覚的に概観できます。



22 モルモン書を書いたのは だれですか？

靈感を受け、金属の版に言葉を刻んだ古代の預言者、靈感を受けた編さん者、末日の翻訳者がモルモン書をもたらしました。

24 モルモン書—— 聖書と並ぶ証の書

聖書とモルモン書の両方が教え、証している 14 の根本的な教義を紹介します。

28 モルモン書の研究方法

D・トッド・クリストファーソン長老
この独特な聖典を研究する 3 つの理由と 3 つの方法。

32 リーハイの夢—— 鉄の棒にしっかりつかまる

デビッド・A・ベドナー長老
リーハイの夢は神の言葉にしっかりとつかまる方法を教えてくれます。

38 モルモン書—— イエス・キリストに対する わたしたちの信仰を強めるもの

ニール・L・アンダーセン長老
モルモン書は、わたしたちや家族に主イエス・キリストを信じる信仰を持つよう勧め、それによってわたしたちが善い家族を築くことができるよう助けてくれます。

47 音楽——二千人の兵士たち

ボニー・ハート・マーレー、ジャニス・カップ・ペリー

48 わたしたちの時代のための教え 生ける預言者と使徒たちが今日のわたしたちを導くモルモン書の真理を伝えています。

52 モルモン書—— わたしたちの宗教のかなめ石

エズラ・タフト・ベンソン大管長
25 年前に語られたこの古典的な説教には、時代を超越したモルモン書についての証と忠告が含まれています。

59 神聖な書物

デビッド・A・ファイツ
さりげない一つの振る舞いを通して、神聖なモルモン書を敬うことについて教えられました。



60 ほんとうに知りたいのなら、分かるようになります

ウォルター・F・ゴンサレス長老
モルモン書が神の靈感を受けていることを知るための4つの方法。

65 ポスター——地の中から語る声

66 心に燃える火

マイケル・R・モリス
エドゥアルド・コントラスが読めるようになった日は、彼がモルモン書についての証を得た日となりました。

68 わたしの人生を変えたモルモン書

会員たちが、モルモン書を通してどのように答えを見つけ、慰めを得、改心したかについて証しています。

72 あらゆる国語の民、民族に

ライア・マクラナハン
世界中の末日聖徒にとって、自分の母語に翻訳されたモルモン書を持つことに比較できることはありません。



76 モルモン書に関するよくある質問

モルモン書について多くの人が尋ねる質問への簡単な答え。

80 証、聖約、証人

ジェフリー・R・ホランド長老
3人の証人と8人の証人とともにその場にいたかのごとく確かに、この書物が真実であることを証します。



今月号には、リーハイが受けたリアホナを描いた絵がたくさんあります。それは隠されているわけではありませんし、上の絵の中のリアホナとまったく同じ形ではないかもしれませんが、今月号の中に幾つのリアホナがあるか探してみましよう。

リアホナ 2011年10月号

第13巻10号 (09690 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌 (日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウーグトルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリール, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オックス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: ホール・B・パイパー

顧問: スタンレー・G・エリス, クリストフェル・ゴールドン・ジュニア, 菊地良彦

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ピンセント・A・ボン

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーグ

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: スーザン・バレット, ライアン・カー

編集スタッフ: フリタニー・ビートニー, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ラリー・ポーター・ガント, ラリー・ヒラー, キャリー・カステン, ジェニファー・マディー, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジョシュア・J・パーキー, チャド・E・ファレス, ジャン・ピンボロ, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, メリッサ・ゼンデ

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

主任デザイナー: C・キンボール・ボット, トーマス・S・チャイルド, コリン・ピンクレイ, エリック・P・ジョンソン, スコット・M・ムーイ

制作スタッフ: コレット・ネベカー・オズ, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・パーデット, レジナルド・J・クリステンセン, キム・フェンスタマー・カー, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, ギニー・J・ニルソン

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: エバン・ラーセン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み/配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

年間予約/海外予約 1,000円 (送料共)
普通号/大会号 150円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は下記の連絡先にお送りください。

Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。アルバニア語、アルメニア語、ビスマラ語、ブルガリア語、カンボジア語、セブアノ語、中国語、クオアチア語、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、エストニア語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、ハンガリー語、アイスランド語、インドネシア語、イタリア語、日本語、キリバス語、韓国語、ラトビア語、リトアニア語、マダガスカル語、マーシャル語、モンゴル語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ルーマニア語、ロシア語、サモア語、スロベニア語、スペイン語、スウェーデン語、タガログ語、タヒチ語、タイ語、トンガ語、ウクライナ語、ウルドゥー語、ベトナム語 (発行頻度は言語により異なります。)

©2011 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.orgにご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

October 2011 Vol. 35 No. 10. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

トーマス・S・
モンソン大管長



モルモン書の 貴い約束

何年も前のこと、わたしは生死をさまよう若い父親のベッドの傍らに立っていました。隣にはひどく動揺した様子の奥さんと、二人の子供が立っていました。彼はわたしの手を取り、懇願するような目で言いました。「ビショップ、わたしはもう死にます。死んだらわたしの霊はどうなるのか教えてください。」

心の中で天の導きを祈り求めると、ベッドのわきのテーブルに末日聖典合本があるのに気づきました。合本を手に取り、ばらばらと繰り返しました。ふと気がつくと、探したわけではありませんでしたが、モルモン書のアルマ書第40章を開いていました。そこで彼に読んで聞かせました。

「見よ、天使がわたしに知らせてくれたところによれば、すべての人の霊は、この死すべき体を離れるやいなや、……彼らに命を与えられた神のみもとへ連れ戻される。」

そして、義人の霊はパラダイスと呼ばれる幸福な状態、すなわち安息の状態、平安な状態に迎え入れられ、彼らはそこであらゆる災難と、あらゆる不安と憂いを離れて休む。」(アルマ40:11-12)

復活について読み続けていくうちに、その若い男性の顔は明るくなり、口もとに笑みが浮かびました。わたしは見舞いを終え、このすばらしい家族に別れを告げました。

次に奥さんと子供たちに会ったのは葬儀でのことでした。若い男性が真理を請い求め、モルモン書の中から、自分の質問に対する答えを聞いたあの晩のことを思い出します。

モルモン書には、ほかにも様々な貴い約束が記されています。「この地の神〔すなわちイエス・キリスト〕に仕えさ

えすれば」平和と自由と祝福を享受するという約束が記されています(エテル2:12)。

モルモン書には、「神の戒めを守る者」は「決して終わりのない幸福な状態」となり、「見よ、これらの者は物質的にも霊的にも、すべてのことについて祝福を受ける」という約束が記されています(モーサヤ2:41)。

モルモン書には、「神の御手に使われる者」となって神の貴い息子や娘を救助する者は「計り知れない喜び」を得るという約束が記されています(アルマ28:8;29:9)。

モルモン書には、散らされたイスラエルが集められるという約束が記されています。わたしたちは世界規模の大いなる伝道活動を通してその業に携わっています(3ニーファイ16章;21-22章参照)。

モルモン書には、イエス・キリストの聖なる名によって御父に祈るときに家族が祝福を受けるという約束が記されています(3ニーファイ18:21参照)。

モルモン書を研究することによって、預言者による次の約束が成就します。「皆さんの生活や家庭の中に、さらに豊かに主の御霊が注がれるようになるでしょう。そして、主の戒めに従って歩もうとする決意が強められ、神の御子が確かに生きておられることがさらにはっきりと分かるようになることでしょう。」¹

そしてモルモン書には、キリストを信じながら誠心誠意祈ることによって、これらの約束が真実であることを「聖霊の力によって」知ることができるというモロナイの約束が記されています(モロナイ10:4-5参照)。



わたしは末日のほかの預言者たちとともに、「この世で最も正確な書物」、すなわちイエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書が真実の書物であることを証します。² そのメッセージは地に広がり、読む人は真理を知るようになります。モルモン書によって人生が変わることを証します。どうかわたしたち一人一人がモルモン書を繰り返し読みますように。そして、そこに記されている貴い約束について、神のすべての子供たちに喜んで証を伝えることができますように。■

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー「力強い、真実の証」『リアホナ』2005年8月号、6
2. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』64

このメッセージから教える

「〔聖文の中には〕あらゆる家族と個人が遭遇する混乱や問題、ジレンマを解決する真理の原則を……見いだすことができます。」「〔教師、その大いなる召し』51) モルモン大管長のメッセージを家族の人たちと分かち合うとき、大管長が挙げているモルモン書の中の「貴い約束」に注意して耳を傾けてもらいます。モルモン書に記されている約束の中から、あなたにとって特に重要な意味を持つものを一つ紹介するとよいでしょう。

預言者 ジョセフ・ スミス

——モルモン書の
翻訳者



モルモン書は特異な聖典です。昔の預言者たちが書き記したものではありませんが、わたしたちが手にするようになった経緯は聖書のそれとは異なります。聖書は、旧世界で別々の書としておもに巻き物に記録されたもので、何世紀にもわたって筆写者や律法学者の手で書き写されていました。イエス・キリスト降誕後、紀元4世紀によくそれらの別々の書が合わされて、わたしたちが聖書と呼んでいる一巻の書となりました。

一方、モルモン書は新世界で昔の預言者たちが金属の版に残した記録を、紀元5世紀におもにモルモンという預言者（書名はこの預言者に由来しています）が短くまとめ、一つの記録として金版に記したものです。その後、金版はモルモンの息子のモロナイによって埋められてそのまま残り、1827年、復活したモロナイによってジョセフ・スミスという名の若者に渡されました。

以下は、今では『モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証』という書名が付けられている記録をジョセフがどのように受け取り、翻訳し、出版したかについての話です。救い主御自身、この書物が真実であることを証^{あかし}しておられます（教義と聖約17:6参照）。



1. 1820年、ニューヨーク州パルマイラの近くにジョセフ・スミスという名の14歳の少年が住んでいました。若年ではありましたが、ジョセフは神の前における自分の立場を知りたいと思っていました。また、キリスト教の様々な宗派が互いにほかの宗派の主張をけなすことで改宗者を得ようとしている状況に困惑していました。聖書から学んだ教えに動かされて、ジョセフは知恵を求めて「とがめもせず、に惜しみなくすべての人に与える」神に尋ねようと決意しました（ヤコブの手紙1:5）。そして祈るために、自宅近くの森に入ってきました。



2. ジョセフがひざまずいて祈ると、輝く光の柱がジョセフの上に降りて来ました。ジョセフはその中に二人の御方を見ました。天の御父が次のように言われました。「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい。」（ジョセフ・スミス—歴史1:17）主はジョセフに、どの教会も真実ではないのでどれにも加わってはならないと告げられましたが、「いつか将来（彼に）完全な福音が知らされる」ことを約束されました。¹



3. 3年の歳月が流れました。その間、ジョセフ・スミスは人々に自分の経験を話しましたが、そのために迫害を受けました。ジョセフは次のように述べています。「たとえ示現を見たと言ったことで憎まれ、迫害されたとしても、それは真実であった。そして、……わたしはこのように心の中で言うようになった。『真実を告げたことで、なぜわたしを迫害するのか。わたしは実際に示現を見た。どうしてわたしは神に逆らえようか。なぜ世の人々はわたしが実際に見たものを否定させようとするのか。』わたしは示現を見た。わたしはそれを知っていた。神がそれを御存じであることを、わたしは知っていた。わたしはそれを否定でき……なかった。」（ジョセフ・スミス—歴史1:25）

18 30年以來、無数の人がモルモン書を読み、そこに記されている救い主についての証のゆえに末日聖徒イエス・キリスト教会に加わってきました。モルモン書はまた、ジョセフ・スミスが

神の預言者であり、今日救い主が御自分の教会を導いておられることを示す証拠でもあります。これまでに無数の人が、正直に真理を求めるすべての人に対するモロナイの次の約束を試し、それが真実



4. 1823年9月21日、ジョセフが祈っていると屋根裏の寝室が光で満ちあふれ、モロナイという名の天使が現れました。モロナイはジョセフに、昔の預言者たちが書いた記録について語りました。金版に刻まれたその記録は、近くの丘に埋められていました。ジョセフは自分がその記録を翻訳することになると告げられました。



5. 1827年9月22日、ついにジョセフは版を託されました。ニューヨーク州パルマイラの近くにある丘で、大きな石の下に埋められていた石の箱から版を取り出しました。



6. 当時の農村地域では多くの人がそうであったように、ジョセフ・スミスはほとんど教育を受けていませんでした。ジョセフが翻訳するのを助けるために、神は「ウリムとトンミム」と呼ばれる昔の翻訳の道具をジョセフにお与えになりました。また、ジョセフは翻訳の際に自分が述べることを書き記す筆記者の助けにも恵まれました。筆記者を務めた人の中には、ジョセフの妻のエマ、裕福な農場主であったマーティン・ハリス、そして学校の教師であったオリバー・カウドリがいました。翻訳作業の大部分はオリバーが筆記者を務め始めてから3か月足らずで完了しました。

エマはジョセフの筆記者として働いたときのことを次のように述べています。「靈感を受けていたのでなければ、だれもあのような原稿を口述することはできません

であることを見だしています。「これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実で

あることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてください。」
(モロナイ 10：4)



でした。……というのも、〔わたしが〕記者を務めていたとき、〔ジョセフ〕はわたしに何時間も口述しました。そして食事やほかの用のために中断しても、戻って来ると中断したその箇所からすぐに次へ進んだからです。それまでの原稿に目を通したり、一部を読んでほしいとわたしに言ったりしたことは一度もありませんでした。』²

ジョセフはモルモン書が世に出ることの重要性を次のように説明しています。「神の力によって、わたしは象形文字から、それを読み解く知識が世から失われたその文字から、モルモン書を翻訳しました。そのすばらしい出来事の中で、無学な若者であるわたしはたった独りで立ち、この新たな啓示を携えて、この世の知恵と、そして 18 世紀の間蓄積された無知と闘ったのです。』³

7. ジョセフが版を持っていた 18 か月の間、ジョセフのほかにも版を見たり、版に触れたりした人がいました。3 人の人物（オリバー・カウドリ、デビッド・ホイットマー、マーティン・ハリス）が天使モロナイから金版を見せられたことを公式に証して、その版が「神の賜物と力によって翻訳されたこと〔を〕知っている。神の声がわたしたちにそのことを宣言されたからである」と宣言しています。また、ほかに 8 人の人物が金版を見て、版に手で触れたことを証しています。⁴

8. 1829 年 8 月までには、ジョセフはニューヨーク州パルマイラ出版業者エグバート・B・グランドインとの間でこの書物の印刷の契約を交わしていました。マーティン・ハリスが印刷代を支払うために自分の農場を抵当に入れ、1830 年 3 月 26 日にモルモン書は購入が可能になりました。

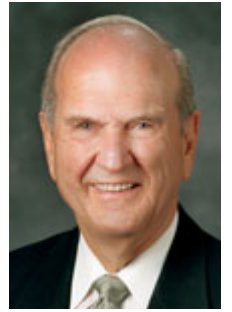
9. 1830 年 4 月 6 日、約 60 人の人たちがニューヨーク州フェイエットにある丸太造りの家に集まりました。その家で、主イエス・キリストの指示に従って、ジョセフ・スミスは救い主の教会を正式に組織しました。神に代わって語る権能を与えられた使徒と預言者によって最初に組織され、導かれたときと同じ状態で、主の教会が回復されたのです。後にジョセフ・スミスに与えられた啓示によって、教会は末日聖徒イエス・キリスト教会と名付けられました（教義と聖約 115：4 参照）。■

注

1. ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第 4 巻, 536
2. ジョセフ・スミス 3 世によるエマ・スミスのインタビュー, 1879 年 2 月, *Saints' Herald*, 1879 年 10 月 1 日付, 290
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』60 参照
4. モルモン書の序文にある「三人の証人の証」および「八人の証人の証」参照

左から——ジョセフ・スミスに預けられた大管長オリバー・カウドリ、デビッド・ホイットマー、マーティン・ハリスの証言の場面（ジョセフ・スミスの日記、1829 年 10 月 1 日）





神

の愛について

モルモン書は何を教えているのか

主の愛についての最も崇高な幾つかの模範が
モルモン書に記されています。

ほとんどのクリスチャンは聖書に記録されているイエス・キリストの属性に精通しています。人々はイエス・キリストが貧しい人、病気の人、虐げられた人にお示しになる愛に驚きます。自らをイエス・キリストの弟子と考える人は、主の模範に倣おうと努力し、主がお愛しになったあの使徒の与えた勧告に従おうとします。「わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。……神は愛である。」(1ヨハネ 4:7-8)

この概念はモルモン書に明らかにされています。モルモン書には、いかに人が神から生まれ、またいかに人が神のように愛する力を得るのかが書かれています。神の愛の力をわたしたちの生活の中にもたらす3つの核となる原則をモルモン書の中に確認することができます。

第1に、モルモン書はキリストに信仰を持ち、戒めを守るために主と聖約を交わすことが、

霊的に生まれ変わるための鍵であると教えています。モルモン書に出てくる、そのような聖約を交わした人々に向けて、ベニヤミン王は次のように述べています。「さて、あなたがたが交わした聖約のために、あなたがたはキリストの子と呼ばれ、キリストの息子および娘と呼ばれる。見よ、それは、今日キリストが霊的にあなたがたを子としてみなしてもうけられたからである。あなたがたは、キリストの御名を信じて心が改まったと言う。だから、あなたがたはキリストから生まれ、キリストの息子および娘となったのである。」(モーサヤ5:7)

第2に、救い主御自身が、キリストのようになるための力は福音の儀式を受けることによって得られると教えておられます。「さて、戒めは次のとおりである。地の果てに至るすべての者よ、悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を受けて聖められ、終わりの日にわたしの前に染みのない状態で立てるであろう。」(3ニーファイ 27:20)

第3に、主はわたしたちにキリストの模範に従うようにと強く勧告しておられます。「あなたがたはどのような人物であるべきか」という問いを主は投げかけられます。そして次のように答えておられます。「まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならぬ。」(3 ニーフアイ 27:27) まことにわたしたちがキリストのようになることを主は望ん

でおられます。

主の愛についての最も崇高な幾つかの模範がモルモン書に記されています。これらの模範は、さらに主のようになろうと努めるときに生活の中に取り入れることができます。

リーハイとその家族が約束の地、すなわちアメリカ大陸へ導かれ、そこで栄えたのは、主が彼らを愛され、彼らが主を愛したからです。¹

わたしたちを愛するがゆえに、神は何世紀も前のニーフアイ人の預言者たちに当時の民の神聖な記録をつけるように命じられたのです。この記録から得られる教訓は、わたしたちの救いと昇栄にかかわるものです。これらの教えはモルモン書の中に記されています。この神聖な文書は、神が世界中にいる御自身のすべての子供たちを愛しておられることを示す目に見える確かな証拠です。²

キリストは、「他の羊」を愛しているがゆえに新世界に来られたのです。³ モルモン書から、主が旧世界でお亡くなりになった後に、新世界では大きな自然災害が起こり、暗闇が3日間地を覆ったことが分かります。それから、栄光を受けて復活した主が天より降りて



預言者は証する

「モルモン書は神の賜物と力によりもたらされました。それは地から叫ぶ声のように、神の御子を証しています。イエス・キリストの降誕、務め、十字架の刑と復活、またアメリカ大陸のパウンティフルという地に住んでいた義人たちに御姿を現されたことについて書かれています。」

手に取り、読み、そして試してみることで、形あるものです。その中には神からの約束が書かれています。何百万という人がそれを試して、真実の神聖な書物であることを知りました。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長 (1919 - 2008 年)
「神が啓示された偉大な事柄」『リアホナ』2005 年 5 月号, 81 - 82

知ることは、愛を知ることです。

わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の新しい会員です。わたしにとって、モルモン書はただの本ではありません。これは天の御父がわたしたちを愛しておられるという揺るがない証です。初期の聖徒たちがわたしたちを愛しており、わたしたちに戻って来てほしいと願っている証拠です。神の幸福の計画が存在し、それが完全であるということの証明です。

この書物が真実であると知ることは、天の御父と御子が生きておられることを知ることで、人生が美しいものであり、永遠であると知ることで、最善の自分であろうと努力し続け、誘惑に負けることがあっても悔い改めるかぎり、必ず赦されるということを知ることで、真の家族の意味を知ることです。亡くなった愛する人々はわたしたちを待っており、彼らを決して失うことはないことと知ることです。天の御父の恵みを知ることです。どのような嵐が来ても、それに立ち向かうことができ、それがわたしたちの益となるという慰めを経験することです。聖霊が常に伴侶でいてくださると知ることです。本質的に、すべての出来事や事柄の中に愛があると知ることです。

エマ・アデサンヤ (アイルランド)



来て、新世界の人々を教え導かれました。

「見よ、わたしは世の光であり命である」と主は彼らに言われました。「わたしは、父がわたしに下さったあの苦い杯^{さかずき}から飲み、世の罪を自分に負うことによって父に栄光をささげた。」(3 ニーファイ 11:11)

それから主は、主と人間との関係でこれ以上ないほど親密な経験を彼らに与えられました。主は彼らと呼び寄せ、御自身のわきに手を差し入れ、両手と両足の釘の跡に触れさせられました。そうすることで、御自身が「イスラエルの神であり、全地の神であること、そして世の罪のために殺された」御方であることを彼らが確かに知ることができるようにされたのです(3 ニーファイ 11:14)。

イエスはそれから弟子たちに権能を授け、彼らがバプテスマを施し、聖霊の賜物^{たまもの}を授け、聖餐を執行できるようになさいました。また主の教会、すなわち十二弟子によって導かれ

る教会を民の中に設立する力を弟子たちに与えられました。

主は彼らに旧世界にいる御自分の弟子たちに与えた基本的な教えの幾つかを説かれました。主は病人を癒^{いよ}されました。主はひざまずき、天の御父に祈^{いのち}られましたが、その言葉は書き記せないほど力強く神聖なものでした。主の祈りは大変力強かったので、その祈りを聞いた人々は喜びにのみ込まれました。民に対する御自身の愛に圧倒され、御自身に対する民の信仰に圧倒されたイエスは、涙を流されました。主は、約束された御自身の再臨に至るまでの何世紀にも及ぶ神の業について預言されました。⁴

それから主は人々に子供たちを御自分のもとに連れて来るようにと言われました。

「また、イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られた。

そして、イエスはこれを終えると、また涙を流された。

救い主御自身が、神のようになる力は福音の儀式を受けることによってもたらされると教えておられます。

そして主は
子供たちを
御自分のもとに
連れて来るようにと
言われました。
「また、イエスは
幼い子供たちを
一人一人抱いて祝福し、
彼らのために
御父に祈られた。」

また、イエスは群集に語って、『あなたがたの幼い子供たちを見なさい』と言われた。

そこで彼らは、見ようとして天に目を向けたとき、天が開くのを見た。そして、天使がまるで火の中にいるかのような有様^{ありさま}で天から降^{くだ}って来るのを見た。天使は降って来ると、幼い子供たちを取り囲み、……そして、天使は幼い子供たちに恵みを施した。」(3 ニーファイ 17:21 - 24)

モルモン書に明らかにされているように、神の愛はそれほどまでに清く力強いのです。

この末日に、モルモン書を持ち、主の教会の会員であり、福音を与えられ、戒めを守る特権にあずかっているわたしたちは、神の無限の愛について知っています。神の愛をどのようにすれば自分のものにするができるのかわかっています。神の真の弟子となるときに、神のような愛の力が得られます。神の戒めを守るときに、神のようになることができます。すべての国民、部族、国語の民に手を差し伸

べようとするとき、わたしたちは個人として愛の輪を広げていくことができます。

主の模範的な生涯に深い感謝の念をもって、わたしたちはこの聖句をわたしたちの標準とすることができます。「あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、また神の子となれるように、熱意を込めて御父に祈りなさい。また、御子が御自身を現^みされるときに、わたしたちはありのままの御姿^{みすがた}の御子にまみえるので、御子に似た者となれるように、……熱意を込めて御父に祈りなさい。」(モロナイ 7:48) ⁵ ■

注

- 1.1 ニーファイ 17:35 - 44; モーサヤ 7:20; アルマ 9:9 - 11; 3 ニーファイ 5:20 - 22 参照
2. モルモン書のタイトルページ: 1 ニーファイ 13:35 - 41; 2 ニーファイ 33:4; モーサヤ 1:2 - 7; モロナイ 8:13 - 41 参照
3. ヨハネ 10:16; 3 ニーファイ 15:11 - 24 参照
4. 3 ニーファイ 11 - 14 章; 18 - 20 章参照
5. 1 ヨハネ 3:1 - 3 と比較

主の愛の力が分かるとき

大学1年生で教会に入ったとき、自分の生活様式にもたらされた変化に良い気持ちを感じ、福音がわたしの人生をどれほど良いものに変えてくれたかを目の当たりにしました。しかしながら、間もなくして、自分の過去が妨げとなって、思うように進歩できないと感じるようになりました。これほどひどい選択をしてきたわたしを、天の御父は主の王国を建設するうえでどのように使ってくださるのでしょうか。

ある日、わたしはモルモン書の最後のページを開いて、モロナイの別れの言葉を読みました。「まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。……もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。そしてあなたがたは、神の恵みによりキリストによって完全になれば、決して神の力を否定することができない。」(モロナイ 10:32)

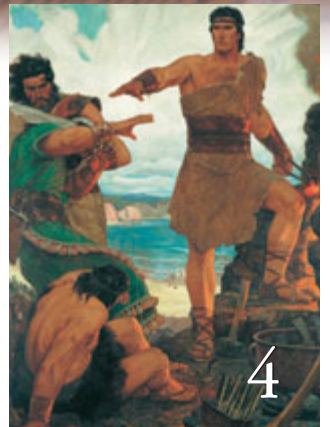
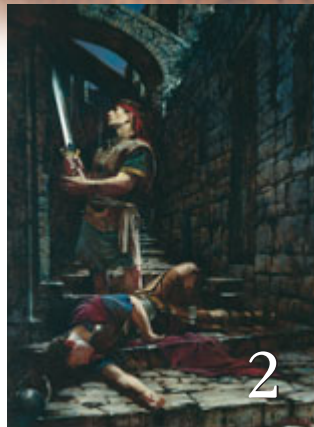
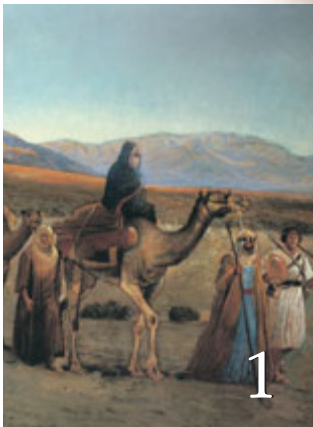
それ以来、わたしは「神の力を否定」しないで、自分の過去を受け入れ、将来を楽しみに待とうと決意しました。過去にではなく、自分の未来に焦点を当て、イエス・キリストの聖^まめの恵みに信頼を置けば置くほど、救い主のわたしに対する愛を感じ、自分に対して満足できるようになりました。

クリスティ・ベティ (アメリカ合衆国、ワシントン州)



モルモン書が 伝える物語

モルモン書にはどんな出来事が
収められているのでしょうか。
これらの絵を使って、
この驚嘆すべき聖典が伝える
預言者や物語について
学んでください。



モルモン書に登場する最初の預言者はリーハイです。リーハイはエルサレムの邪悪な民に悔い改めるよう警告しましたが、民は耳を傾けようとしませんでした。主はリーハイに、妻サラリアをはじめ息子のレーマン、レムエル、サム、ニーファイを連れて、荒れ野に出て行くよう命じられました（1ニーファイ1-2章参照）。

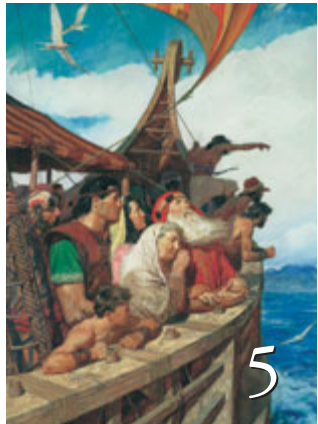
リーハイは息子たちをエルサレムに戻し、真鍮の版に記録された聖文を手に入れました。これらの版には、先祖の記録のほか主が記録するよう命じられた事柄が収められていました。リーハイとニーファイはこれらの版を大切に扱いました。そして彼らもまた、自分たち家族が経験した事柄を金属の版に記録しました（1ニーファイ3-5章参照）。

主はリーハイにリアホナと呼ばれる羅針盤を与え、荒れ野を越えて約束の地へとリーハイの家族を導かれました（1ニーファイ16章参照）。

主はニーファイに、家族を連れて約束の地へ行くために1隻の船を造るよう命じられました。ニーファイは父親と主に従いましたが、レーマンとレムエルは従おうとしませんでした（1ニーファイ17章参照）。

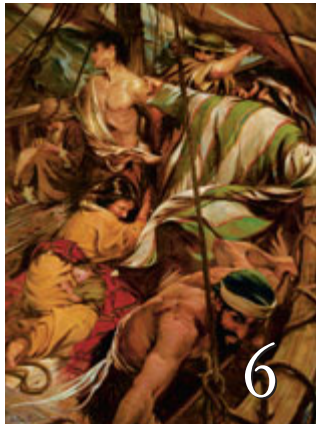
左—フォトグラストレーション/ロバート・ケイシー—紅海を航行するリーハイの一行。アート・フリバク画 ©1961年。右—「約束の地に到着したりーハイの一行」アート・フリバク画 ©1961年。「密にはげなげな教えをわたすを拒んだウオルター・レン画」金版印刷を複製して「リーファイ」ホル・マン画 ©1988年。「わたしはほかに聞く者に大きな声を上げたウオルター・レン画」「あなたの神に代えてウオルター・レン画」フア王の肥立ウツヒナタダの部アート・フリバク画 ©1961年。「神の羊の群れに入社」ウオルター・レン画。「立ちかえるアルマでウオルター・レン画」ウオルター・レンによる絵は教義史博物館の厚層により複製された。『批判的検証』を複製する「リーファイ」アート・フリバク画 ©1961年。フリバク画 ©1961年。『わたしはほかに聞く者に大きな声を上げたウオルター・レン画』

リーハイとその家族は、自分たちが造った船に乗り込み、約束の地を目指して船出しました(1ニーファイ18章参照)。



5

レーマンとレムエルは相変わらず父親と主に不従順でした。二人の子孫はレーマン人として知られています。ニーファイは常に父親と主に従順でした。ニーファイの子孫はニーファイ人と呼ばれています(2ニーファイ4-5章参照)。



6

リーハイとニーファイの死後、ニーファイの弟ヤコブをはじめそのほかの人々が、重要な教えや出来事を版に記録する責任を引き継ぎました(ヤコブ1章参照)。

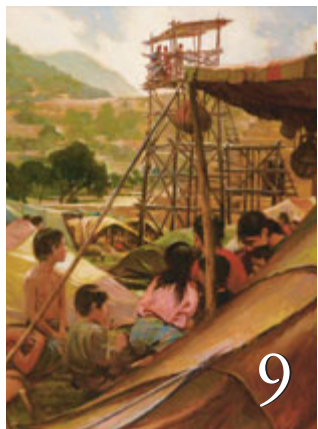


7

エノスは罪の赦しを求めて祈り、赦しを得ました(エノス1章参照)。

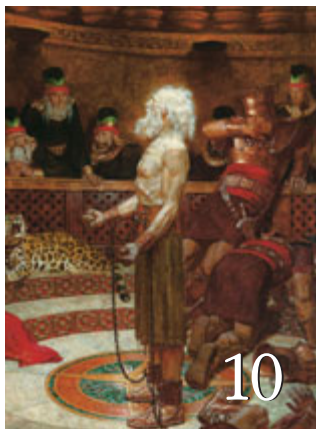


8



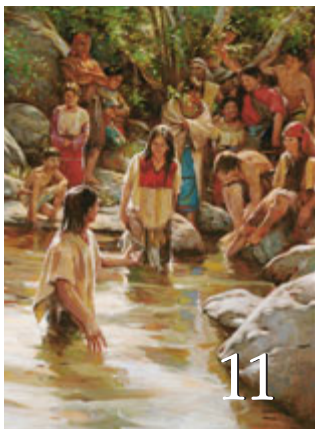
9

ベニヤミン王は、自国の民に福音を教えるためにやぐらを建てました(モーサヤ2-6章参照)。



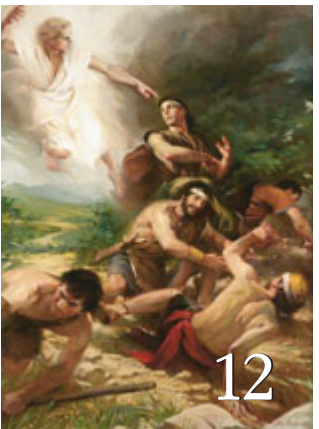
10

ノアという名の邪悪な王は、預言者アピナダイを死に追いやりました。しかしアピナダイの教えによって、ノアの祭司の一人だったアルマが改心しました(モーサヤ11-17章参照)。



11

アルマはノア王の宮殿から逃れた後、ほかの人々に福音について教え、バプテスマを施しました(モーサヤ18章参照)。



12

アルマの息子アルマは従順ではありませんでした。息子アルマとその仲間であったモーサヤの息子たちは悪行を重ねていました。そのため、一人の天使が彼らに悔い改めるよう告げました。アルマとモーサヤの息子たちは悔い改めた後、生涯にわたり福音を宣べ伝えました(モーサヤ27-28章参照)。

モーサヤの息子アンモンは、ラモーナイ王の家畜の群れを守りラモーナイの信頼を得ることで、多くのレーマン人を改心させました(アルマ 17-19 章参照)。



13

司令官モロナイは自由の旗の言葉を書き、民の自由を守るために戦いました(アルマ 46, 48 章参照)。



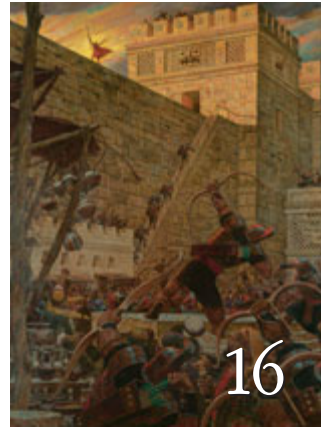
14

ヒラマンは、義にかなった 2,000 人の若者から成る軍勢を導きました(アルマ 53, 56-58 章参照)。



15

レーマン人の預言者サムエルは、イエス・キリストの降誕が近づいていると預言しました(ヒラマン 13-16 章参照)。



16



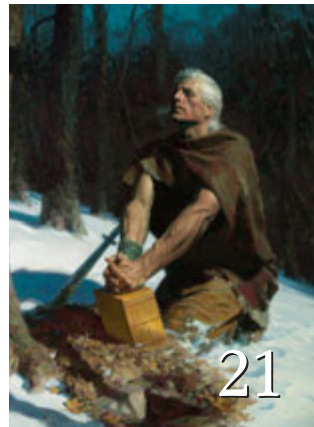
19

モルモンという名の 10 歳の少年は、成長したとき版に記録するよう選ばれました。24 歳のとき、モルモンはすべての記録から特に重要な出来事を選んで一組の金属版にまとめ始めました(モルモン 1 章参照)。



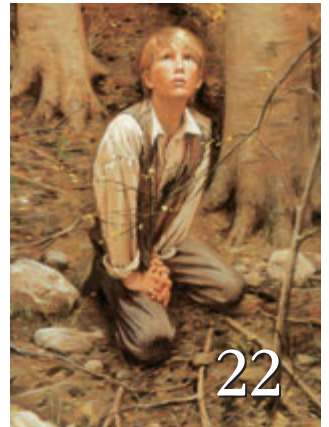
20

モルモンは死ぬ前に、まとめた版を息子モロナイに託しました。モロナイは軍の総司令官であり、レーマン人とニーファイ人の中で起きた壮絶な戦いを生き抜いた最後のニーファイ人でした(モルモン 6, 8 章参照)。



21

モロナイは死ぬ前に、受け継いだ版をクモラと呼ばれる地に埋めました。モロナイが版を埋めてからおよそ 1,400 年後に、ジョセフ・スミスという 14 歳の少年がどの教会が正しいかを知るために祈りました(ジョセフ・スミス—歴史 1:5-16 参照)。

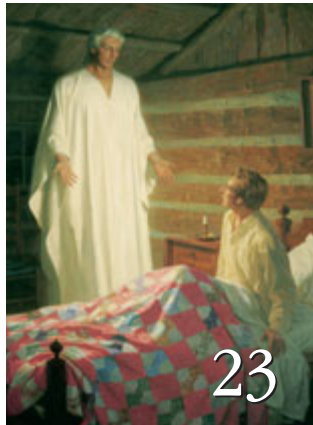


22

天の御父とイエス・キリストがジョセフ・スミスを訪れ、真実で完全な教会はこの世に存在しないと告げられました。ジョセフは真のイエス・キリスト教会を回復する仲立ちとなるよう定められていたのです(ジョセフ・スミス—歴史 1:17-20 参照)。

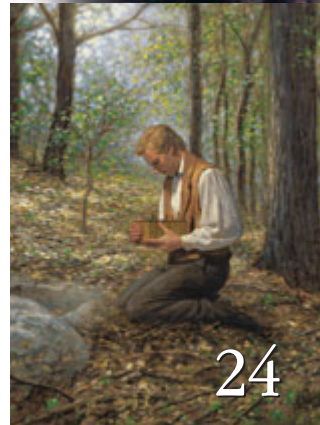
右「まほみがえられた」デル・バイン画。左「モロナイの家畜をみるアムナ」アール・ド・フリーバーク画。上「モロナイが版を埋めた」ジョセフ・スミス画。下「モロナイが版を埋めた」ジョセフ・スミス画。右「二人の兄弟」ウォルター・レーン画。教団歴史博物館の扉にあり。下「わたしの心の形」ウォルター・レーン画。

遠く離れたベツレヘムの地で、イエス・キリストがお生まれになりました。イエスは御自身の福音を教え、民を癒し祝福されました。また御自身の教会を設立されました。そして十字架にかけられた後、復活されました(3ニーファイ1、8-10章参照)。



モロナイがジョセフ・スミスを訪れ、埋められている版について告げました。ジョセフ・スミスはさらに成長してからその版を手に入れ、翻訳することになっていました(ジョセフ・スミス一歴史1:27-54参照)。

復活の後、イエスは義になつたニーファイ人とレーマン人を訪れられました。そして、エルサレム周辺の地で行われたと同様に、人々に福音を教え、癒し、祝福されました(3ニーファイ11-28章参照)。

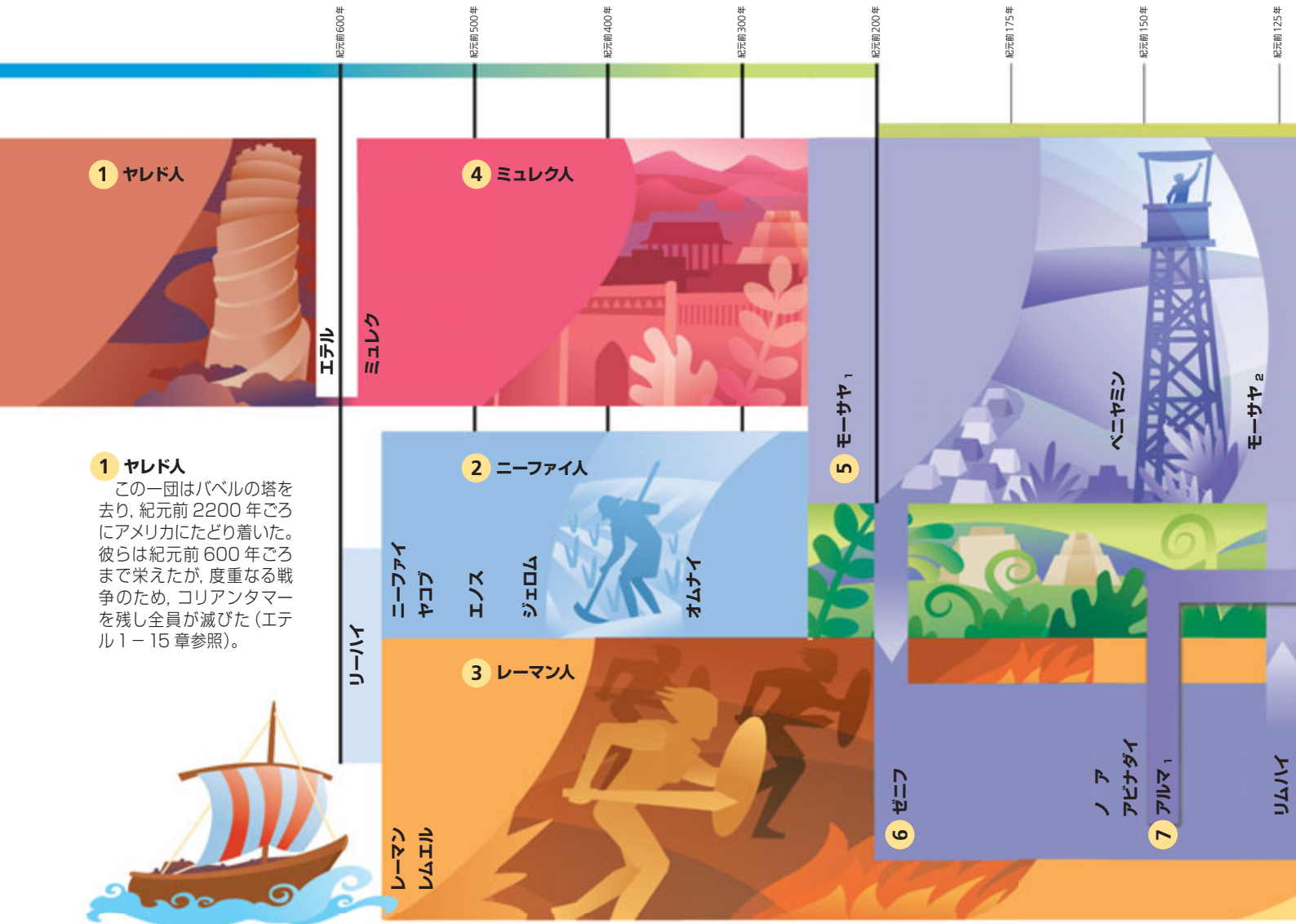


ジョセフ・スミスは21歳のとき、クモラの丘に行き、モロナイが埋めた場所から版を取り出しました(ジョセフ・スミス一歴史1:59参照)。



ジョセフ・スミスは神の力を通して版に書かれた文字を翻訳し、出版しました。それが、モルモン書と呼ばれる書物です(モルモン書のタイトルページおよび序文参照)。

モルモン書



1 ヤレド人

1 ヤレド人

この一団はバベルの塔を去り、紀元前 2200 年ごろにアメリカにたどり着いた。彼らは紀元前 600 年ごろまで栄えたが、度重なる戦争のため、コリアンタマーを残し全員が減じた(エテル 1 - 15 章参照)。

2 ニーファイ人

リーハイが率いる一行は紀元前 600 年ごろエルサレムを去り、アメリカ大陸へやって来た。リーハイの子孫は次第に分離するようになり、リーハイの死後、義にかなった人々はリーハイの息子のニーファイに従って北方へ向かった。彼らはニーファイ人として知られるようになった(1 ニーファイ 1 - 22 章; 2 ニーファイ 1 - 5 章参照)。

3 レーマン人

リーハイの死後、邪悪な人々はリーハイの息子のレーマンとともにとどまり、レーマン人として知られるようになった(2 ニーファイ 5 章参照)。

4 ミュレク人

ゼデキヤ王の息子ミュレクは紀元前 587 年ごろ、一団を率いてエルサレムからアメリカ大陸へやって来た後、コリアンタマーを見つけた(オムナイ 1 : 14 - 21 参照)。

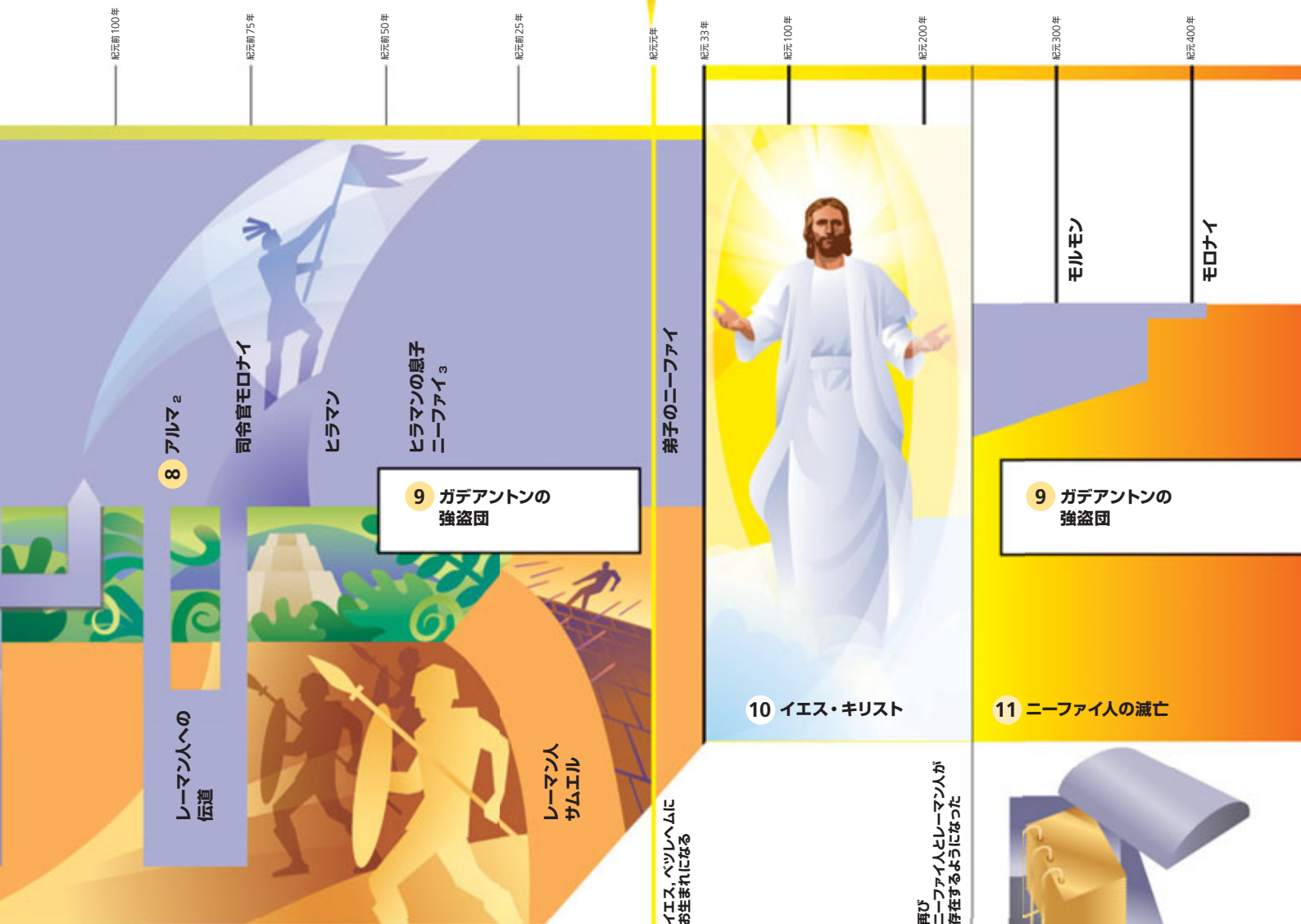
5 モーサヤ₁

紀元前 225 年ごろ、ニーファイ人は邪悪な民になっていた。そこでモーサヤ₁は義にかなったニーファイ人の一団をゼラヘムラへ導き、ミュレク人と連合した。彼らは自らをニーファイ人と呼び、モーサヤ₁は義にかなった王となった。ベニヤミン王はモーサヤ₁の息子であった(オムナイ 1 : 12 - 23 参照)。

6 ゼニフ

紀元前 200 年ごろ、ニーファイ人ゼニフはニーファイの地を取り戻すために一団を率いて南に向かった。ニーファイの地に着いたゼニフの一団を、レーマン人は奴隷にした。後に、モーサヤ王₂はニーファイの地へ戻った人々を見つけるためにアンモンを遣わし、アンモンはリムハイ王を改宗させた(モーサヤ 7 : 9 - 22 参照)。

年表



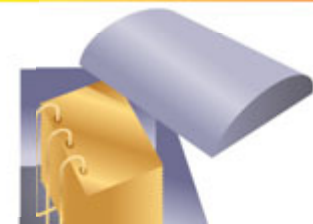
7 アルマ₁
ゼニフの民の間に生まれたアルマ₁は、邪悪な王ノアの祭司の一人になった。預言者アビナダイはノア王に悔い改めるよう呼びかけたため殺された。しかし、アルマ₁はアビナダイの教えを信じたのでアルマの言葉を信じる人々とともに逃げ出し、最終的にニーフアイ人に加わった(モーサヤ11章：17-18章；23-24章参照)。

8 アルマ₂とモーサヤの息子たち
アルマ₂とモーサヤ王₂の息子たちは、青年のころ教会を滅ぼそうとしたが、一人の天使が叱責したところ、彼らは悔い改めた。アルマ₂は義にかかった指導者になり(モーサヤ27-29章参照)、モーサヤ王の息子たちは宣教師となってレーマン人のもとへ出向いた。多くの成功を収めた後、モーサヤ王の息子たちはアルマ₂と再会し、喜び合った(アルマ17-26章参照)。

9 ガデアントンの強盗団
この残忍な秘密結社は、民が罪悪にふけているとき最も強く影響を及ぼし、民が義に従うとき最もその影響力を弱めた。紀元350年ごろには、この強盗団は民全体の安全を脅かすようになっていた(ヒラマン2章：6章；4ニーフアイ1：42-46参照)。

10 イエス・キリスト
救い主はエルサレムで復活した後、アメリカ大陸に御姿を現された。そして民を教え導き、福音を教え、御自身の教会を組織された。イエスの訪れから200年の間、人々は平和のうちに暮らした(3ニーフアイ11-28章参照)。

11 ニーフアイ人の滅亡
次第に、民の間に再び悪がはびこるようになり、戦争が激化した結果、ニーフアイ人は滅びた。唯一生き残ったモロナイは、ニーフアイ人の記録をつけ、死ぬ前に地中に埋めた(4ニーフアイ1：24-28；モルモン8：1-8；モロナイ10章参照)。





モルモン書を書

古代の預言者や歴史家、指導者は、
自分たちの証^{あかし}や歴史を金版に刻みました。
後に、預言者ジョセフ・スミスが神の賜物^{たまもの}と力によって、
それらの原版を抄録した版を翻訳しました。



古代の記録者または その記録の原本

ニーファイ¹、ヤコブ、エノス、
ジェロム、オムナイ、その他

モルモン

ラバンが所有していた真鍮^{しんちゆう}の版
(1ニーファイ 5:10 - 14 参照)

ゼニフ

リーハイ (2ニーファイ 1:1 - 4, 11; 教義と聖約 3章, 章の序文);
ベニヤミン (オムナイ 1:12 - 23; モルモンの言葉 1:16 - 18;
モーサヤ 1 - 6章参照); モーサヤ²
(オムナイ 1:23 - 25; モーサヤ
6:3 参照); 息子アルマ, モーサヤ
の息子たち, ヒラマン², パホー
ラン, 司令官モロナイ, ニーファイ³,
ニーファイ⁴

モルモン

24枚の版に刻まれた,
エテルの記録を含むヤレド人の記録
(エテル 1:1 - 5 参照)

モロナイ

版を構成する記録

ニーファイの小版
(霊的な事柄にかかわる記録;
およそ紀元前 600年から
紀元前 130年)

モルモンの言葉
(ニーファイの小版と,
大版を短くまとめた版をつなぐ;
1 - 18節参照)

ニーファイの大版
(世俗的な事柄の記録と
宗教にかかわる歴史;
およそ紀元前 130年から
紀元 321年)

モルモンの記録
(およそ紀元 345年から
紀元 385年)

エテル書,
抄録されたヤレド人の記録
(およそ紀元前 2400年から
紀元前 600年)

モロナイの記録
(モルモン 9:30 - 37 参照;
およそ紀元 385年から
紀元 421年)

いたのはだれですか？



1823年9月21日の夜、天使モロナイが青年ジョセフ・スミスに現れ、モルモン書として翻訳されることになる金版について告げた。4年後、ジョセフは金版を翻訳するために取り出すことを許された(ジョセフ・スミス—歴史 1:27-54 参照)。



1827年9月22日に
天使モロナイから預言者ジョセフ・スミスに
与えられた金版



モルモン書

モルモンの版
(モルモンとモロナイが
編さんし、短くまとめた記録)

タイトルページ*
1 ニーフアイ
2 ニーフアイ
ヤコブ
エノス
ジェロム
オムナイ
モルモンの言葉
モーサヤ
アルマ
ヒラマン
3 ニーフアイ
4 ニーフアイ
モルモン
エテル
モロナイ

封じられた部分
(未翻訳)



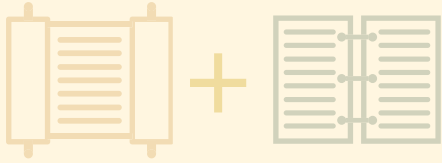
*ジョセフ・スミスは次のように説明している。「モルモン書のタイトルページは、本のようにとじられたあの版の、最後の1枚の左側にあった文章を一語一語そのまま翻訳したものです。」(History of the Church, 第1巻, 71)

1829年に最初の翻訳原稿が完成し、1829年から1830年の間に印刷用の原稿が完成した。そして1830年にモルモン書の初版5,000部が出版された。

この図表にある情報は、モルモン書の序文および本文を基に編集されました。



左から—写真/シエド・クラウク、「モルモンが版を鋳造する」トム・ラベル画
「ジョセフ・スミスに現れる天使モロナイ」トム・ラベル画、写真は禁じられています。写真/エミリー・リシュマン、フォトグラフィシオン/ジョン・ジョン・ルーク
「金版を渡すモロナイ」ゲリー・カフ画、写真は禁じられています。



モルモン書—— あかし 聖書と並ぶ証の書

モルモン書と聖書はどちらも、イエス・キリストについて証し、主の福音の原則を教えています。これは、「すべての事がらは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する」という聖書の律法と一致しています(2コリント13:1)。十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老はこのように教えています。「聖文の証は互いの真実性を立証し合っています。この考え方ははるか昔に、モルモン書について書いた預言者の次のような言葉に説明されています。『[モルモン書]

を書き記しているのは、[聖書]をあなたがたに信じさせるためである。また、あなたがたは[聖書]を信じるならば、[モルモン書]も信じるであろう。』[モルモン7:9] それぞれの書が互いについて言及し合っています。そしてそれぞれが、神が生きておられ、預言者への啓示を通じて神の子供たちに話しかけておられる証拠としての役割を果たしています。』¹

以下に挙げるのは、聖書が教える基本的な教義の中で、モルモン書によってさらに証が加えられている事柄です。

わたしたちのための 神の計画

聖書とモルモン書は神がわたしたちの天の御父であられると教えています。それゆえに御父は、わたしたちがイエス・キリストの贖罪しよくざいを通して救われるように「救いの計画」を用意してくださっています(アルマ24:14)。

愛に満ちた天の御父

聖書——「われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。あなたがたのある詩人たちが言ったように、『われわれも、確かにその子孫である。』」(使徒17:28。詩篇82:6;ヘブル12:9も参照)

死と霊界

聖書——「ちりは、もとのように土に帰り、霊はこれを授けた神に帰る。」(伝道12:7。1ペテロ3:19-20;4:6も参照)

復活

聖書——「わたしの皮がこのように滅ぼされたのち、わたしは肉を離れて神を見るであろう。」(ヨブ19:26。エゼキエル37:12;1コリント6:14;15:54も参照)

モルモン書——「わたしは、神がその子供たちを愛しておられることは知っています……。」(1ニーファイ11:17。1ニーファイ17:36も参照)

モルモン書——「すべての人の霊は、この死すべき体を離れるやいなや、まことに、善い霊であろうと悪い霊であろうと、彼らに命を与えられた神のみもとへ連れ戻される。」(アルマ40:11。12-14節も参照)

モルモン書——「わたしに分かるのは、わたしたちの肉体は必ず衰えて死ぬけれども、将来わたしたちが肉体にあって神にまみえることを、あなたがたが知っているということである。」(2ニーファイ9:4。2ニーファイ9:12;アルマ11:43-45;40:23も参照)

指針となる戒め

聖書の教えによると、神は戒めを与えておられ、それらに従うときにわたしたちを祝福してください。モルモン書の預言者もまた戒めを記録し、それに従いました。



預言者の証

「自分自身を過信しないで最良の書物である聖書やモルモン書を学んでください。そこから皆さんに役立つあらゆる知識を得て、神に堅くついて離れず、あらゆる種類の不正と汚れから遠ざかってください。そうすれば、いと高き御方の祝福が皆さんとともにあるでしょう。」

ジョン・テラー大管長
(1808 - 1887 年)
『歴代大管長の教え —
ジョン・テラー』148 - 149

従順による祝福

聖書——「そして主はこのすべての定めを行えと、われわれに命じられた。これはわれわれの神、主を恐れて、われわれが、つねにさいわいであり、……主がわれわれを守って命を保たせるためである。もしわれわれが、……このすべての命令を……守って行うならば、それはわれわれの義となるであろう。」(申命 6:24 - 25。箴言 4:4; ヨハネ 14:21 も参照)

十戒

聖書——主はモーセに十戒を明らかにされました(出エジプト 20:1 - 17 参照)。

什分の一

聖書——「わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。」(マラキ 3:10。レビ 27:30 も参照)

バプテスマと聖霊

聖書——「だれでも、水と霊とから^{うま}生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ 3:5。マルコ 16:16; 使徒 2:36 - 38 も参照)

モルモン書——「神は、戒めを守るならばこの地で栄えると約束してくださっている。神は一度言われたことは決して変更されないので、あなたがたが神の戒めを守れば、神はあなたがたを祝福し、栄えさせてくださる。」(モーサヤ 2:22。2 ニーファイ 1:20 も参照)

モルモン書——アビナダイはノア王の祭司たちに十戒を教えました(モーサヤ 12:33 - 36; 13:12 - 24 参照)。

モルモン書——「アブラハムが什分の一を納めた相手はこのメルキゼデクであった。まことに、わたしたちの先祖アブラハムは、彼の所有したすべてのものの十分の一をこの人に納めたのである。」(アルマ 13:15。3 ニーファイ 24:8 - 10 も参照)

モルモン書——「地の果てに至るすべての者よ、悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を受けて^{きよ}聖められ、終わりの日にわたしの前に染みのない状態で立てるであろう。」(3 ニーファイ 27:20。2 ニーファイ 9:23; 31:5 - 9 も参照)

イエス・キリストの使命

聖書とモルモン書は神の御子イエス・キリストとその贖罪について証しています。二つの聖典は、救い主がわたしたちの罪を御自身の身に負い、死を克服されたことを教えています。



預言者の証

「モルモン書は……聖書が真実であると宣言し、そのことを証明しています。そしてこの二つの書物は互いに他方が真実であることを証明し合っています。」

ブリガム・ヤング大管長
(1801 - 1877 年)
『歴代大管長の教え——
ブリガム・ヤング』135

神の独り子

聖書——「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子^{みこ}を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3:16。マタイ 16:16; ヨハネ 6:69 も参照)

わたしたちの罪^{あがな}を贖われた

聖書——「これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である。」(マタイ 26:28。ヘブル 9:28; 1 ペテロ 3:18 も参照)

わたしたちの悲しみを負われた

聖書——「まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。」(イザヤ 53:4。ヘブル 2:18 も参照)

死に打ち勝たれた

聖書——「しかし事実、キリストは眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえったのである。」(1 コリント 15:20。ヨハネ 14:19; 使徒 26:23 も参照)

モルモン書——「わたしはイエス・キリストが将来来られることを知っている。イエス・キリストは御子、すなわち御父の独り子で、恵みと憐れみと真理に満ちておられる。」(アルマ 5:48。1 ニーフアイ 11:16 - 21; モーサヤ 3:5 - 8 も参照)

モルモン書——「見よ、メシヤは律法の目的を達するため、打ち砕かれた心と悔いる霊を持つすべての人のために、罪に対する犠牲として御自身をささげられる。」(2 ニーフアイ 2:7。1 ニーフアイ 11:33; アルマ 34:8 - 10; 3 ニーフアイ 11:14 も参照)

モルモン書——「そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。……御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」(アルマ 7:11 - 12。モーサヤ 14:3 - 5 も参照)

モルモン書——「イエス・キリストは神の御子であり、またイエス・キリストはユダヤ人によって殺され、御父の力によって再びよみがえって墓に対して勝利を得られた。」(モルモン 7:5。モーサヤ 16:7 - 8; ヒラマン 14:17 も参照)

古代における イエス・キリストの 教会

主はエルサレムとアメリカ大陸に御自身の教会を設立されました。聖書とモルモン書は、主が預言者や使徒を通して民を組織し、導かれることを証しています。

預言者

聖書——「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事もなされない。」(アモス3:7。エレミヤ1:7; 7:25も参照)

十二使徒

聖書——「弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び出し、これに使徒という名をお与えになった。」(ルカ6:13。エペソ2:19-20; 4:11-14も参照)

神権の権能

聖書——「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであ[る]。」(ヨハネ15:16。マタイ16:19; ルカ9:1-2; ヘブル5:4も参照)

モルモン書——「すべてのことは御霊^{みたま}によって預言者たちに知らされ[る]。」(1ニーファイ22:2。モルモン書ヤコブ4:4-6も参照)

モルモン書——「わたしがあなたがたの中から選んで、あなたがたを教え導[く]……ようにしたこの十二人の言葉に注意を払うならば、あなたがたは幸いである。」(3ニーファイ12:1。1ニーファイ11:29も参照)

モルモン書——「アルマは……神の位に従って、按手^{あんしゆ}により、教会を管理し見守る祭司たちと長老たちを聖任した。」(アルマ6:1。2ニーファイ6:2; モロナイ3章も参照)



預言者の証

「多くの人々がこの世の哲学と聖書の神聖な言葉を混ぜ合わせ、聖書の真の意味を無にしてきたことで、今日聖書は軽んじられています。御自身の子供たちの霊的な幸福をいつも心にかけておられる永遠の父なる神が、聖書と並ぶ聖典を与えてくださったことは何と幸せなことでしょうか。モルモン書として知られるこの聖典は、主の指示に従って預言者が記録し、語った、聖書の真理を擁護する書物です。……

……この第2の証により、古代の預言者の教えの意味をさらに明確に知ることができ、実に、主とその弟子たちが地上におられたときに人々に授けられた教えの意味をもっと明確に知ることができるのです。この事実から、心から真理を探究するすべての人は、この2冊の聖典を1冊の書物として学ぶように促されることでしょう。そして、わたしたちと同様に彼らも、この2冊の神聖な書物の真の関係を理解することでしょう。」

ハロルド・B・リー大管長 (1899 - 1973年)

Ye Are the Light of the World (1974年), 89, 91

学習を深めるために

この表はすべてを網羅したものではありません。個人や家族の聖文学習の一環として、この表に参照聖句を付け足したり、モルモン書や聖書が教えている他の原則をさらに調べたりしてもよいでしょう。その際、『聖句ガイド』や scriptures.lds.org/jpn のオンライン学習支援資料を活用できます。

注

1. ラッセル・M・ネルソン「聖文の証」『リアホナ』2007年11月号, 43



十二使徒定員会
D・トッド・
クリストファーソン長老

モルモン書の研究方法

25年前、エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 - 1944年）は「末日聖徒はモルモン書を生涯にわたって研究する必要がありますが、それには3つの大きな理由があります」と語りました。¹ その理由とは次の3つです。

- 第1に、モルモン書はわたしたちの宗教のかなめ石です。すなわちイエス・キリストに対するわたしたちの証の^{あかし}かなめ石であり、わたしたちの教義のかなめ石であり、わたしたちの証のかなめ石です。
- 第2に、モルモン書はわたしたちの時代のために書かれました。
- 第3に、モルモン書はわたしたちを神に近づけます。

モルモン書を研究するこれらの理由から、この独特な聖典をどのような方法で研究するかについてもヒントが得られます。

わたしたちの宗教のかなめ石

モルモン書はキリストに対する証と完全な福音に対する証のかなめ石です。ですから、この書物を研究する際、そこに記されている救い主の数々の教えや証に特に注意を払うことが重要です。そうするために、廉価なモルモン書を新たに入手し、救い主やその務め、主の使命について書かれている、あるいは教えているすべての聖句に印を付けるという方法を取った人もいます。それによってイエスが神の御子であられるという証を深め、主がわたしたちのために行ってくださいましたこと、また今も続けて行ってくださっている事柄に対して、感謝を新たにすることができるのです。

わたしたちの時代のために書かれた書物

モルモン書を書き記した人たちは、将来の人々、特に末日の人々を念頭に置いて記しました。ニーファイ人の記録を短くまとめるに当たり、モルモンは「百分の一」も載せることができないと書きました（3 ニーファイ 5：8 参照。モルモンの言葉 1：5 も参照）。モロナイは次のように記しています。「わたしはあなたがたがここにいるかのように語っているが、あなたがたはまだこの世にいない。しかし見よ、イエス・キリストがわたしにあなたがたを見せてくださったので、わたしはあなたがたが行うことを知っている。」（モルモン 8：35）この二人を含め、記録者たちは靈感を受けて行動し、この末日のわたしたちにとって最も益となる事柄を書き記したのでした。

ですからわたしたちは、次のような問いかけをしながら研究すべきです。「なぜこのことが書かれているのだろうか。これは今日の時代やわたしにどのように当てはまるだろうか。」例えばベンソン大管長は、モルモン書には救い主の再臨に備えるための規範が書かれていると述べています。わたしたちはモルモン書を読むことにより、キリストの弟子は戦争の時代をどのように生きるべきか、迫害や背教に対処する方法、伝道をどう進めたらよいか、物質主義の危険にどう対処したらよいかについて学びます。² 研究する際、わたしたちもニーファイと同じように、聖文を自分たちに「当てはめ」るべきです。それはつまり、モルモン書の中で見つけたことをどのように応用したらよいかを見いだそうとすることです（1 ニーファイ 19：23 参照）。



学び続けるために、研究し続ける

わたしは初めてモルモン書を読んだとき、まだ教会員ではありませんでした。当時16歳だったわたしは、1週間で読み終わりました。読み終わる少し前に、キリストの教会であるならキリストの名前が付いているはずだと断言する聖句を見つけました（3ニーファイ27：8参照）。そのとき涙が頬を伝いました。モルモン書が真実だと分かり、バプテスマを受ける決心をしました。

バプテスマの後で再びモルモン書を読みましたが、今度は蛍光ペンを買って、靈感を与えてくれた節に印を付けました。その後も同じことを続けましたが、今度は印を付けた聖句について感じたことや学んだことを余白に書くことも始めました。次に読んだときには、モルモン書だけでなくほかの標準聖典からも、参照聖句を書き加えました。

その後、ある年の初めに新しい聖典を買いました。それまで使っていた聖典は、特に伝道中それを使ってたくさんのレッスンを準備したので、あらゆる箇所に印を付けていました。このときはテーマ別に研究して印を付けることにしました。例えば、信仰にはオレンジ色、悔い改めには緑といったように、特定のテーマに色を決めました。

これらの様々な方法を使いながらモルモン書を研究し続けることによって、一度モルモン書を読むだけでは足りないことがわかりました。研究を続けるにつれて、教えに教えを加えられて学んでいくのです。また、何度読んだとしても、「なぜ前には気づかなかったのだろう。そこに書かれていたはずなのに」という気持ちになることも知りました。

聖文、特にモルモン書は、イエス・キリストについて、また天の御父について教えてくれます。わたしは聖文を研究して、御二方に近づくことができました。

クリスティーナ・ベルガラ・ラミレス（チリ）

神に近づく

再びベンソン大管長の言葉を引用します。「モルモン書は確かに真理を教えています、それだけではありません。モルモン書は確かにキリストを証していますが、それだけでもありません。それ以上のものがあるのです。モルモン書には力があって、真剣に読み始めるやいなやその力は読む者の人生に流れ込み[ます。]」³

確かに、モルモン書を研究することは御霊



預言者の証

「わたしは執事の年齢に達する前にモルモン書を読み始め、それ以来、読み続けています。わたしはモルモン書が真実であることを知っています。……

……この教会の会員はだれでも、何度も繰り返してモルモン書を読み、十分に深く考え、それが

確かに神の靈感によって書かれた記録であり、その歴史は真実であると証できるまでにならなければ、決して満足を得られないでしょう。わたしにはそう思えるのです。」

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長（1876 - 1972年）
Conference Report, 1961年10月, 18

を招き、御霊は啓示をもたらします。このことから、聖文を読むときは、深く考え、祈り、また恐らくメモを取りつつ、思索と冥想にふけりながら読むとよいことが分かります。こうすることによって、研究している事柄だけでなく、ほかの事柄についても、さらなる光と理解が得られます。時には比較的短期間にモルモン書を読み通すことで物語とメッセージの全体像をつかむのに役立つ場合もあります。毎日何章何ページと決めて読むのもいいですが、通常は毎日十分な時間を取ってモルモン書を研究するのが最も良い方法です。

学習支援資料

今は恵まれてモルモン書の研究を助ける多くの資料があります。英文聖典の「項目別索引」(Topical Guide), 「聖書辞典」(Bible Dictionary), インデックス, また他言語の聖典の「聖句ガイド」など、聖典にとじ込まれているものもあります。また、末日聖徒版の聖典には、すべてのページに数多くの脚注や参照聖句が載っています。

そのほか、印刷した学習支援資料として、日曜学校生徒用学習ガイドやセミナー生徒用資料、インスティテュート生徒用資料などがあります。わたしたちの時代には新たに、31ページの補足記事で説明されているような電子ツールがどんどん増えています。

改心の道具

モルモン書は比類ない宝であり、主がこの神権時代のために用意し与えられた改心の道具です。モルモン書は、イエス・キリストに対する証と、ジョセフ・スミスが預言者として召されたことに対する証、そして末日聖徒イエス・キリスト教会が「地上に再び設立された主の王国」であることに対する証の土台であるとわたしは感じています。⁴「あなたがたの主、あなたがたの神が生きているように確かに、その書は真実である」というイエス・キリストの証に自分の証を添えられることをうれしく思います(教義と聖約17:6)。皆さんが生涯にわたってモルモン書を研究し、さらに深く改心し、永遠の命に至るまっすぐな道を進むことができますように。■

注

1. エズラ・タフト・ベンソン「モルモン経——わたしたちの宗教のかなめ石」『聖徒の道』1987年1月号, 4-7参照。この名説教は、今月号の52-58ページに再び掲載されています。
2. エズラ・タフト・ベンソン『聖徒の道』1987年1月号, 6参照
3. エズラ・タフト・ベンソン『聖徒の道』1987年1月号, 6
4. モルモン書の序文

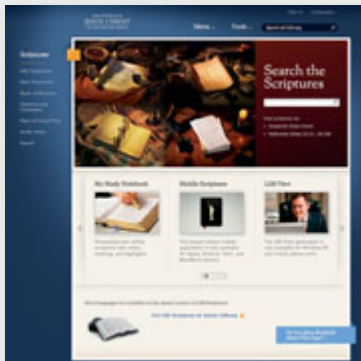
インターネット版の聖典と携帯端末

インターネット版の聖典 (scriptures.lds.org) と携帯端末版の聖典 (mobile.lds.org) では、キーワード検索や相互参照聖句に加え、個人学習に役立つ新しい機能が備わりました。



My Study Notebook (わたしの学習帳: 日本語ではまだ使えません) (notebook.lds.org)

このオンライン学習帳では、聖句に色を塗る、メモを取る、ほかの聖句を参照する、といった従来の研究で皆さんが使ってきたのと同じ方法も数多く提供していますが、それを電子データとして使い、保存することができます。それに加え、「タグ」を付けて、メモやそのほか今後利用可能になるコンテンツを分類することもできます。LDS アカウントを入力して My Study Notebook にログインするので、どれだけ多様なデバイスを使ってアクセスしても、内容を最新の状態にしておくことができます。これらのツールによって、あなただけの学習記録が項目別に保存できるので、福音を研究したり、教えたりするのに役立てることができます。



聖典の形式と言語 (scriptures.lds.org: 日本語版は scriptures.lds.org/jpn)

聖典の電子テキストと録音データは、現在 LDS.org と携帯デバイスで多くの言語で利用でき、ほかにも多くの言語で準備が進められています。

オンラインで聖文を読んだり聞いたりできるほか、録音データや ePub, PDF ファイルをオフラインでダウンロードすることもできます。教会の最新のオンライン聖典サイトでは、電子メールやソーシャルメディア・ツールを通して、聖句や個人的なメモを人と簡単に共有することができます。

LDS.org の聖典は現在 21 の言語で使用できます。また、携帯端末アプリケーションは、プラットフォームにもよりますが、およそ 10 の言語で使用できます。



LDS Scripture Citation Index (LDS 聖典引用索引) (scriptures.byu.edu)

ブリガム・ヤング大学の二人の教師が英語で開発したもので、聖句と近代の預言者や使徒の言葉を結びつけることができます。例えば、総大会で 1 ニーファイ 3 : 7 をだれが引用したかを知りたいければ、画面左側のモルモン書のリンクをクリックし、スクロールして 1 ニーファイ 3 章に合わせるだけで見つけることができます。



General Conference Topics Index (総大会テーマ別索引: 日本語ではまだ使えません) (conference.lds.org)

聖文研究と生ける預言者の言葉を結びつけるもう一つのリソースが conference.lds.org です。これは総大会説教が大会ごとにテーマ別にまとめられています。例えば、聖文で「贖罪」について学んでいるとしたら、2011 年 4 月の総大会では、そのテーマについて 5 つの説教を見つけることができます。



リーハイの夢

鉄の棒にしっかりつかまる

リーハイの示現には、キリストのもとへ来るようすべての人を招くという
モルモン書全体のテーマが非常によく表れています。



十二使徒定員会
デビッド・A・
ベドナー長老



わ たしはモルモン書が大好きです。福音にまつわる記憶の中でいちばん古いものは、母がエマ・マー・ピーターセン著『末日聖徒の子供たちのためのモルモン書物語』(Book of Mormon Stories for Young Latter-day Saints)を読み聞かせてくれたことです。そんな子供のころの経験や生涯続けてきた学習と祈りを通じて、モルモン書が神の言葉であることを聖霊がわたしの心に何度も証していただきました。

モルモン書がイエス・キリストについてのもう一つの証であると証します。預言者ジョセフ・スミスが神の力によってモルモン書を翻訳したことを知っています。また、モルモン書は「この世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石」です。「そして、人はその教えを守ることによ

り、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる」と証します。¹

リーハイの夢に出てくる重要な象徴

リーハイが見た命の木の示現では数か所で、聖文全般を、特にモルモン書を、読み、学び、調べ、深く考えることの大切さが強調されています(1ニーファイ8章参照)。

リーハイの夢の中心となっているのが「神の愛」を表す命の木です(1ニーファイ11:21-22参照)。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16) このように、子らに対する御父の愛を最も端的に表しているのが主イエス・キリストの



預言者の証

「モルモン書が確かに神の言葉であると証します。また、天と地との交流が再開したこと、キリストのまことの信者が必要な知識や祝福を受けられる正しい方法が、地上の人々に示されたことを証します。」

デビッド・O・マッケイ大管長
(1873 - 1970 年)
"Marks Pointing to
Authenticity of Book of
Mormon," *Instructor*,
1952 年 10 月号, 318

生誕と生涯、およびその^{あがな}贖いの犠牲です。ニーファイが証したように、この愛は「どんなものよりも好ましいもの」であり、天使がニーファイの示現の中で言明したように「人にとって最も喜ばしい」ものです (1 ニーファイ 11:22 - 23。1 ニーファイ 8:12, 15 も参照)。ニーファイ第一書の第 11 章の中で、命の木は御自身を低くしてお生まれになった救い主の生涯、務め、そして犠牲の象徴であることが詳細に説明されています (1 ニーファイ 11:16)。

木の実^{しよくざい}は贖罪の祝福を象徴しています。その実を食べることは、儀式と聖約を受けて、贖罪が生活の中で完全に有効になることを指します。その実は「人を幸せにする好ましいもの」であって (1 ニーファイ 8:10)、大きな喜びをもたらし、その喜びを人と共有したいという望みを抱かせると記されています。

重要なのは、リーハイの示現には、キリストのもとへ来るようすべての人を招くというモルモン書全体のテーマが非常によく表れていることです。特に興味深いのは木へと導く鉄の

棒です (1 ニーファイ 8:19 参照)。鉄の棒は神の言葉です。

鉄の棒に「すぎる人」と「常にしっかりつかまる人」

父リーハイは示現の中で 4 つのグループの人々を見ました。3 つのグループは木とその実を手に入れようと、細くて狭い道を押し進んでいました。4 つ目のグループは木を求めようとはせず、大きく広々とした建物を最終的な行き先にするのを望みました (1 ニーファイ 8:31 - 33 参照)。

ニーファイ第一書第 8 章 21 から 23 節では、1 番目のグループの人々が押し進んで来て、木に通じる道を歩き始めたことが記されています。その人たちは「悪魔の誘惑」を表す暗黒の霧に遭遇し (1 ニーファイ 12:17)、道を見失い、迷って姿が見えなくなってしまいました。

ここの聖句には鉄の棒について何も書かれていないことに注目してください。神の言葉を無視したり、軽んじたりする人は、救い主のも

気に留めない

生涯を通して、「わたしたちは、……気に留めなかった」という言葉から霊的な力を受けてきました (1 ニーファイ 8:33)。第 1 ニーファイでは、命の木にたどり着き、あざけりの声を気に留めなかった人々がいました。彼らは指さしてあざけり笑う声に負けませんでした。耳を傾けませんでした。同じように、今のわたしたちには声高に誘惑する声が数多く聞こえてきます。時には、そんな声を気に留めないようにするのがほんとうに難しいこともありますが、リーハイはそれが可能なことを示してくれました。

神殿に参入し、聖文を読み、教会の集會に出席して、預言者に従えば、この世的な声を消せることが分かりました。このような簡単なことをするとき、聖霊の声が聞こえるようになります。その声こそ聞く価値のある声です。そして、御^{みたま}霊の声に聞き従うとき、もっと強くなって、誘惑に耐えることができるようになります。

リーハイの模範に従い、「気に留めない」ことで、細く狭い道にとどまることができ、常に神の愛を受けることができます。

メリッサ・ヒートン (アメリカ合衆国, ユタ州)



とへ通じる道を指し示す神聖な羅針盤を利用することができません。このグループが道にたどり着き、押し進んでいたことを考えてみてください。キリストを信じる信仰と霊的な確信をある程度示していたのに、悪魔の誘惑のために道をそれ、姿が見えなくなってしまったのです。

ニーファイ第一書第8章24から28節には、命の木に通じる細く狭い道に進んだ別のグループの人々について記されています。この人々は「鉄の棒にすがりながら暗黒の霧の中を押し進み、ついに進んで来てその木の実を食べ」ました(24節)。しかし、大きく広々とした建物にいる非常に華やかな衣服を身に着けた人々にあざけり笑われると、「恥ずかしく思い、禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなって」しまいました(28節)。この人々が「鉄の棒にすがりながら」進んでいたと記されていることに注目してください(1ニーファイ8:24。強調付加)。

重要なのは、2番目のグループの人々が信仰と決意をもって押し進んだことです。この人々

にも鉄の棒という祝福があり、それにすがっていたのです!しかし、迫害や逆境に遭うと、禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなってしまいました。信仰と決意と神の言葉がありながら最終的に姿が見えなくなってしまったのは、聖文を時折読んだり、研究したり、調べたりするだけだったからかもしれません。鉄の棒にすがるとは、一貫して継続的に神の言葉に没頭するのではなく、むしろ時々「突発的に」勉強したり、不定期にほんの少し読んだりする程度のようにわたしには感じられます。

30節には、「しっかり鉄の棒につかまりながら道を押し進み、ついにやって来ると、ひれ伏して木の実を食べた」3番目のグループの人々について書かれています。この節で重要なのは、しっかり鉄の棒につかまりながらという言葉です。

3番目のグループも信仰と確信をもって押し進みました。しかし、彼らが道をそれたり、禁じられた道に踏み込んだり、姿が見えなくなったりしたとはどこにも書かれていません。

信仰と決意と
神の言葉がありながら、
最終的に
2番目のグループの
人々の姿が
見えなくなって
しまったのは、
細くて狭い道を
鉄の棒にすがって
押し進んでいた彼らが
聖文を時折読んだり、
研究したり、
調べたりするだけだった
からかもしれません。



鉄の棒にしっかり
つかまるといのは、
おもに、聖文を
よく祈って、常に、熱心に
用いることを指します。
聖文は、
啓示された真理の
確実な源であり、
また命の木へ、すなわち
主イエス・キリストの
もとへ続く
細くて狭い道を
旅するための
信頼できる案内書です。

たぶんこの人々は常に聖文を読み、研究し、調べていたのかもしれませんが。恐らく、一見「小さな、簡単なこと」に対する勤勉で献身的な態度がこのグループの人々を破滅から救ったのでしよう(アルマ 37:6)。忠実に聖文を研究することで「主を知〔り〕」「真理を知るようになっ〔て〕」、謙遜^{けんそん}という霊的な賜物^{たまもの}を得ることができたのでしよう(アルマ 23:5, 6)。「ひれ伏して木の実を食べた」ことに彼らの謙遜さが表れています(1ニーファイ 8:30。強調付加)。たぶんこのグループは継続的に「キリストの言葉をよく味わ〔う〕」ことによって霊が養われ、強くなったので(2ニーファイ 31:20)、大きく広々とした建物にいる人々があざけり笑っても気に留めずに済んだのでしよう(1ニーファイ 8:33 参照)。このグループこそ、皆さんとわたしが属するように努力すべきグループです。

ニーファイの兄たちは「あの木の所に通じている、父が見た鉄の棒は何を意味するのか」と尋ねました。

「〔ニーファイ〕は兄たちに、それは神の言葉

であって、だれでも神の言葉に聞き従って、それにしっかりつかまる者は、決して滅びることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはないと言った。」(1ニーファイ 15:23 – 24。強調付加)

それでは、鉄の棒にすぎると、しっかりつかまるにはどのような違いがあるのでしょうか。鉄の棒にしっかりつかまるといのは、おもに、聖文をよく祈って、常に、熱心に用いることを指すと思います。聖文は、啓示された真理の確実な源であり、また命の木へ、すなわち主イエス・キリストのもとへ続く細くて狭い道を旅するための信頼できる案内書です。

「そしてわたしは、父の見た鉄の棒が生ける水の源、すなわち、命の木に導く神の言葉であること……を知った。」(1ニーファイ 11:25)

モルモン書は現代のわたしたちのために書かれた

モルモン書はわたしたちの時代と状況にかかわる、最も重要な真理を示しています。モロ

ナイは次のように、わたしたちの生活にモルモン書が霊的に、また実用的に関連があることを強調しています。「見よ、わたしはあなたがたがここにいるかのように語っているが、あなたがたはまだこの世にいない。しかし見よ、イエス・キリストがわたしにあなたがたを見せてくださったので、わたしはあなたがたが行うことを知っている。」(モルモン 8:35) モルモン書のおもだった記録者たちは神の先見の明を通してわたしたちの時代と状況を目にし、末日の世の住民たちに最も重要な話題と例を明確に盛り込んだのです。

どうぞ次の質問を注意深く、よく祈って考えてみてください。リーハイの命の木の示現と、常に鉄の棒にしっかりとつかまるといふ原則から、わたしは、今日の世で霊的に断固たる態度を取れるようにしてくれるどのような教訓を学ぶことができるでしょうか。また学ぶべきでしょうか。

熱心に取り組み、靈感を求めてこの重要な質問の答えを見つける努力をするときに、聖霊の力によって鉄の棒に常にしっかりとつかまるとの大切さを、心にも思いにも、よりいっそう完全に理解できるようになります。そうすれば祝福され、個人の生活と家庭において、信仰をもって熱心にその教訓を生かすことができるようになるでしょう。

わたしたちに見る目と聞く耳があって、リーハイの示現からより多くの教訓を学び、「キリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進〔む〕」ことができますように。「そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる」でしょう(2 ニーファイ 31:20)。■

注

1.『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』64

道を外れてはならない!

姉

に教会を紹介され、とても気に入ったので、すぐにバプテスマを受けました。

文字が読めなかったのですが、よくモルモン書を開いてページをめくっていました。そこに書かれている言葉を読めるようになりたいと強く願いました。夫はずっと後になるまでバプテスマを受けなかったのですが、当時、座って本を見ているわたしを不思議に思ったようで、時間の無駄だと言っていました。

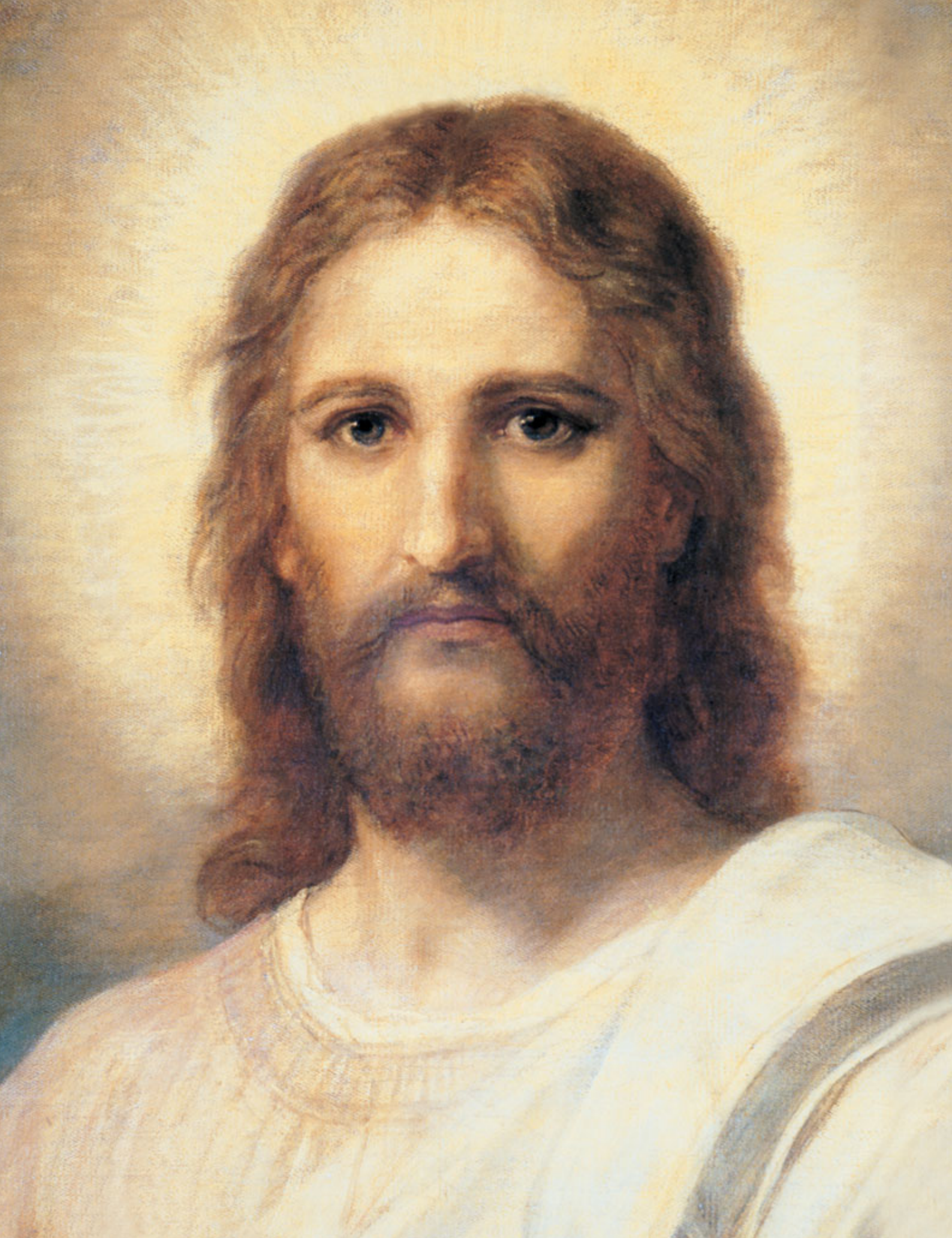
大変難しいことでしたが、扶助協会の姉妹たちや子供たちの助けにより、少しずつ読む努力を始めました。モルモン書を読むのがずっと目標でした。

特につらくて悲観的になっていたとき、こういう言葉がはっきり聞こえました。「道を外れてはならない!」だれかいるのかと辺りを見回しましたが、だれもいませんでした。

ある日、娘に自力で読めるようになってきたと話しました。娘は信じず、読んでみるように言いました。読むと、娘はとても喜んでくれました。

目標はモルモン書を読み通すことです。読むのは遅いですが、理解できますし、何よりも、このすばらしい書物を通して御霊を感じるすることができます。

エディット・フェリシアノ・デ・パウラ (ブラジル, サンパウロ)



十二使徒定員会
ニール・L・
アンダーセン長老



モルモン書—— イエス・キリストに対する わたしたちの信仰を強めるもの

モルモン書は、わたしたちや家族に
主イエス・キリストを信じる信仰を持つよう勧め、わたしたちが良い家族を築くことができるよう、
それを助けるための様々な原則を教えています。

数 世紀にわたる預言者たちの教えを編
さんした書物であるモルモン書は、将
来のある時のために書かれました。
その時とは、神権の鍵が回復され、イスラエルの
家の大いなる集合が行われて、救い主の地上へ
の再臨に世を備えさせる時のことです（2ニー
ファイ 25 章；27 章；3 ニーフアイ 21 章参照）。
ニーフアイはその神聖な言葉を「地から叫ぶ者の
声」と書き記しました（2 ニーフアイ 33：13）。ま
た、モロナイは「見よ、わたしはあなたがたがここ
にいるかのように語っているが、あなたがたはまだ
この世にいない。しかし見よ、イエス・キリスト
がわたしにあなたがたを見せてくださった」と
宣言しています（モルモン 8：35）。

モルモン書は、わたしたちの時代と将来の時
代のために書かれたものです。福音が回復され
てから最初の 100 年間でおよそ 100 万部のモル
モン書が出版されました。この期間に 15 の言語
で出版されました。これは驚くべき大事業です。
その後の 50 年間（1930 - 1980 年）では、2,500
万部以上のモルモン書が 41 の言語で出版され、
その後の 30 年で、モルモン書の抜粋版を含め

107 の言語でさらに 1 億 2,500 万部が出版され
ています。神の王国があらゆる国々、民族、国語
の民、国民にもたらされていくとき、モルモン書は
今後も変わらず影響と衝撃を与え続けていくこと
でしょう。

モルモンの書いたタイトルページには、この書
物の主たる目的が書かれています。第 1 の目的
は、特にリーハイの子供たちの子孫に向けられて
います。最終的な目的は「〔あらゆる人々に〕
イエスがキリストであり、永遠の神で〔あられる〕
ことを確信させる」ことにあります（モルモン書
タイトルページ）。

わたしたちの時代にとって大切なこと

イエス・キリストのもう一つの証^{あかし}がわたしたち
の時代にとって大切なのはなぜでしょうか。聖
書という力強い宣言があるのに、さらにそれを強
めるために主がもう一つの証を持ち出されたの
はなぜなのでしょう。

わたしたちの生きる時代はほかのどの時代と
も異なっています。科学の発展のおかげで、医
療や輸送が進歩し、快適さや利便性はかつての



現在の世界では、反キリストである
 コリホルの
 傲慢な考え方ごうまんに
 耳を傾ける人が
 多くなっています。
 しかし、
 イエス・キリストを
 信じる信仰は、
 わたしたちの心に
 強い根を
 下ろしたとき、
 真の改心を
 もたらしめます。

世代の想像をはるかに超えています。地球は情報や科学技術であふれ、家族歴史の業や福音を分かち合う業は進んでいるものの、同時に、ポルノグラフィや暴力的なビデオゲームが急増し、「陰謀を企てる人々の心の中に……ある悪ともくろみ」(教義と聖約 89:4)は激増しています。世界の大半では、人は強い物欲に引かれる時代を生きているのです。

こうした情勢は、注意を払っていないと、あらゆる世代にとって永遠で真実のはずの原則からわたしたちをそらせてしまいます。

1970年代の初め、わたしがヨーロッパで若い宣教師として奉仕していたころ、最初のレッスンはほとんどいつも背教に関する説明から始めていました。当時はイエス・キリストの神性は広く受け入れられていたからです。しかし、20年後に今度は伝道部会長として戻ったときには、レッスンの導入はまったく異なっていました。イエス・キリストが神の御子であって、わたした



預言者の証^{あかし}

「天の下のあらゆる人の知恵を結集しても、モルモン書のような書物を創作して世に出すことはできません。モルモン書に記されている原則は神聖なものです。神からのものです。モルモン書は、詐欺師や小説家が創作したものでは決してありません。そう断言できるのは、モルモン書に書かれている約束や預言が、全地の人々の目の前で現在成就しつつあるからです。」

ウィルフォード・ウッドラフ大管長 (1807 - 1898年)
 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』119

ちの罪のために命をささげ、3日目によみがえられたという信仰が、目に見えて弱まっていたからです。

現在の世界では、反キリストであるコリホルの^{ごうまん}傲慢な考え方に耳を傾ける人が多くなっています。

「あなたがたはどうしてキリストを待ち望んでいるのか。だれも将来起こることを知ることはできない。

見よ、あなたがたが預言と呼〔んで〕いるこれらのことは、見よ、あなたがたの先祖の愚かな言い伝えである。

……あなたがたはまだ見ていない物事を知ることはできない。……

……人は皆自分の素質に応じて栄え、自分の力に応じて勝利を得る……。」(アルマ 30:13 - 15, 17)

わたしたちは皆、主イエス・キリストを信じる揺るぎない確固とした信仰を持つ必要があります。そしてその信仰が子供や孫の心に注ぎ込まれるよう、家族を強めるための助けが必要です。イエス・キリストを信じる信仰は、わたしたちの心に深く根を下ろしたとき、真の改心をもたらします。その目覚めがあればこそ、人は悔い改め、真の弟子となり、奇跡や霊的な賜物を経験し、義にかなって堪え忍ぶことができるようになります。これこそモルモン書の神聖な使命が持つ重大な役割の一つなのです。

若い宣教師だったわたしは、ある牧師と非常に興味深い話し合いをする機会がありました。その牧師が言うには、自分がモルモン書を受け入れられないのは、イエス・キリストの降誕の数百年も前に、その御名や生涯の出来事を使って、イエス・キリストのことをあからさまに語っているからだと言うのです。モルモン書の記述に見られるこの明確な表現方法は、救い主のこともっとらえ難い存在として記述している旧約聖書とは、その書き方の特徴がまったく異なる、ということでした。

わたしにとっては、イエス・キリストについて大胆に宣言することこそまさにモルモン書の持つ力にほかなりません。もちろんわたしたちはこの書物が神からもたらされたものであるという霊的な証を得る必要があります。しかし、一度その証を得たら、キリストの目的、キリストが現実に生まれ復活されたこと、キリストに従いキリストのもとで永遠の命にあずかるために何が必要かという明確な教え、そういったものが、誤解のしようがないほど明らかになっているのです。

イエス・キリストについての証

聖霊の力を受けながら、モルモン書に書かれているイエス・キリストに関する偉大な説教を読み、深く考えると、その教えが真実であるという確かな証がもたらされます。わたし自

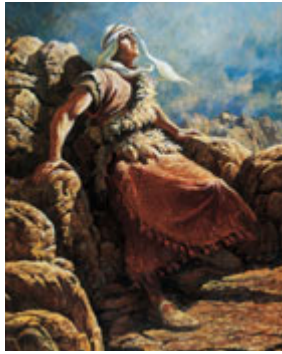
皆モルモン書のおかげで

バプテスマを受けてから6か月たっていましたが、わたしにはまだモルモン書に対する確固たる証がありませんでした。ある日、聖文を読みたいという気もなかったのですが、福音の原則クラスの教師の言葉が頭に浮かんできました。「聖文を読みたい気持ちにならないときは、サタンが読んでほしくないと思っているからです。」その警告を思い出して、モルモン書を開くと、こんな聖句が目飛び込んできました。「神はわたしたちを恐ろしい、罪深い、汚れた状態から救い出してください。神がそのような憐れみ深い御方であることを、だれが想像できただろうか。」(アルマ 26:17) わたしの心はその言葉のおかげで喜びでいっぱいになりました。イエス・キリストの真の教会の会員になる前の自分の状態を思い出したからです。主の御霊がわたしの心にモルモン書が真実であることを証してくださいました。

わたしは専任宣教師になることを望んでいませんでした。しかし、あの日を境に、あらゆるものが変わったのです。世界の人々も真理を知る必要があると、非常に強く感じるようになりました。そして備え始めたのです。指導者のもとに行き、奉仕したいという望みを伝えました。両親にも説明しました。両親は別の町に住んでおり、教会員ではありませんでした。それからわたしは持ち物をすべて売り払い、伝道用の服を買いました。こうして2003年から2005年まで伝道しました。

現在、わたしと家族、つまり妻と娘は、永遠に結び固められています。この祝福もまたモルモン書の証のゆえに与えられたものです。わたしはモルモン書が真実の書物であることを知っています。それは、この書物が主イエス・キリストについて証しているからであり、この神聖な記録を読むときに神に近づけるからにほかなりません。

アジルソン・ルセロ・ドス・サントス(ブラジル、パラナ)



ニーファイの示現



リーハイの証



ベニヤミン王の説教



アビナダイの証

モルモン書に書かれているイエス・キリストに関する偉大な説教を読み、深く考えると、その教えが真実であるという確かな証がもたらされます。

身は、キリストの力強い教義を深く味わいながら、モルモン書を読む時間が好きです。たとえば、ニーファイの命の木の示現と「神が御自身を低くされることがあなたに分かるか」と問う天使の言葉（1 ニーファイ 11：16）。「贖いは聖なるメシヤによって、またメシヤを通じてもたらされる。それはメシヤが恵みと真理に満ちておられるからである」と語るリーハイの証（2 ニーファイ 2：6）。それに加えてヤコブの、その御方は「門を守る者……である。……ここには僕を使われない」という証（2 ニーファイ 9：41）などがそうです。

次にわたしたちは、主の弟子の特質について教えるベニヤミン王が、次のような揺るぎない宣言をする場面に出会います。「キリストの御名のほか、またその御名を通じてでなければ、どのような名も道も方法も、人の子らに救いをもたらすことはできない。」（モーサヤ 3：17）

わたしたちは間もなく、自分の信じるもののために命をささげようとしているアビナダイと出会います。

「しかしながら、復活は実際にあるので、墓は勝利を得ず、死のとげはキリストにのみ込まれてしまう。

キリストは世の光であり命であられる。まことに、決して暗くなることのない無窮の光……であられる。」（モーサヤ 16：8 - 9）

アルマは、贖罪と正義と憐れみが命とどうかかわるかという教義を美しく書き残しています。「さて、憐れみの計画は、贖罪が行われなければ成し遂げることができなかった。したがって、神は憐れみの計画を成し遂げるため、正義の

要求を満たすため、また御自分が完全に公正な神、憐れみ深い神であり続けるために、御自分で世の罪の贖いをされるのである。」（アルマ 42：15）

やがてわたしたちは救い主がリーハイの子孫を訪れられた劇的な光景に出会います。わたしたちもまた、救い主の愛、慈しみ、教え、そして御自身の証を感じます。

「わたしがあなたがたに告げた福音とは、次のとおりである。すなわち、父がわたしを遣わされたので、わたしは父の御心を行うために世に来た。

父は、わたしが十字架に上げられるようにと、わたしを遣わされた。十字架に上げられた後で、わたしはすべての人をわたしのもとに引き寄せた。わたしは人々によって上げられたが、そのように人々は、父によって上げられてわたしの前に立ち、自分の行いが善いか悪いかによって、行いを裁かれるのである。」（3 ニーファイ 27：13 - 14）

最後にモルモンとモロナイがこう訴えています。「すべての罪と不義を悔い改め、イエス・キリストを信じなければならぬことを知りなさい。イエス・キリストは神の御子で〔あられる。〕」（モルモン 7：5）「まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と意思と力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。」（モロナイ 10：32）



イエス・キリストの現れ



モルモンとモロナイの最後の訴え

家族の中で形成されるもの

イエス・キリストこそ真に約束のメシヤであるという、この霊的に力ある確固とした証は、家族の歴史の中で形成されてきます。その証とは、イエスが油注がれた神の御子であって、全人類の復活をもたらす、悔い改めてキリストに従う者に霊的な清めをもたらすために地上に送られたという証です。

モルモン書は一つの家族、父と母、息子たちと娘たちの物語から始まります。彼らは、この世の物を後に残して主の勧告に従うようにという啓示を受ける預言者である父親の言葉に耳を傾けます。この書物は、イエス・キリストの約束とイエス・キリストへの望みを子供たちの心に植え付けようと努力する親たちの記録で満ち満ちています。あるとき、わたしは父親から息子への具体的な勧告の例を探して、ページをめくって書き出してみました。すると、52ページにも上ったのです。モルモン書には、親が子供にキリストを信じる信仰について、また、神の戒めに従うことについて教えた記録が残されています。幼いころから従順な子供もいれば、行くべき道を見いださなければならない子供もいます。時には一つの家族に両方のタイプの子供がいる場合もあり、そのような中で親が子供を教えています。この書物は、わたしたちの時代のための教え、わたしたちの子供のための教え、そしてわたしたちの家族のための教えなのです。

女性や娘が果たした具体的な役割について、記載されている部分はわずかですが、これは古代の記録では普通のことです。しかし、記載されてはいなくとも、女性の担った永遠で不滅の影響を見取ることができます。例えば、女性や母親の感性を語った「神の御前にあって非常に感じやすく、清く、繊細である。」(モルモン書ヤコブ2:7) また、青年兵士たちの立派な行動は、義にかなったその母親たちの影響であったというヒラマンの記述がそうです。

「まことに、彼らはすべての号令に従ってそのとおりに行うように努めたのです。そして、実に彼らの信仰に応じて、そ

2冊の書物、1つの永遠の家族

夫は帰宅する途中、通りで紙袋を拾いました。驚いたことに、中にはモルモン書が1冊入っていたのです。夫はその袋を持ち帰り、わたしに見せました。夫はしばらくモルモン書を読んでいました。興味深い本だと思ったようですが、結局はどこかに片付けてしまいました。

程なく夫は亡くなりました。わたしは慰めを求めて、また、命というものが死後も続くのか知りたいと思って、いろいろな教会を転々としました。たくさんの疑問を持ちながら何も答えられず、猜疑心だけが募っていきました。

そんなある日、職場に向かって歩いていると、歩道で1冊の本が目にとまり、モルモン書だと分かりました。わたしはそのモルモン書を拾って持って行きました。愛する夫の思い出がよみがえってきたからです。このモルモン書との出会いを人に話すと、読むべきだと言われました。

何日か過ぎ、ある晩、わたしは妹を訪ねて行きました。妹は末日聖徒です。妹の家には専任宣教師が来ていて、「神の子です」という賛美歌を歌ってくれました。そのとき分かりました。この宣教師たちならわたしの疑問に答えることができること。

宣教師から福音を学び、証を得たわたしはバプテスマを受けました。現在、ジョセフ・スミスが御父と御子イエス・キリストにまみえたことをはっきりと証することができます。

夫もわたしもそれぞれモルモン書と出会ったということは、決して偶然ではなかったのだとわたしは信じています。夫は存命中にバプテスマを受けることはできませんでしたが、神殿の儀式を受けることで、夫とわたし、そしてかけがえのない二人の娘が永遠にわたって家族として一緒にいられ、わたしは幸福な気持ちになっています。モルモン書がわたしたちを一つに結びつけ、わたしたちの心に平安をもたらしてくれたのです。

マリア・マッシュ(グアテマラ)

「初めあなたがたが信じておられることを覚えておいてください。」(ルカ福音書16:1)

モルモン書には、
イエス・キリストの
約束と
イエス・キリストへの
希望を
子供の心に
植え付けようと
努力する
親たちの記録で
満ち満ちています。



のようになりました。そのことでわたしは、彼らが母親たちから教わったと言ってわたしに話してくれた言葉を思い出しました。……

わたしの述べてきたこれらの者たちは、これを信じていました。彼らは若いながらも考えはしっかりしていて、絶えず神に頼っています。……

……彼らは母親から、疑わなければ神が救ってくださると教わっていたのです。

そして彼らは、わたしに母親たちの言葉を告げて、『わたしたちは、母たちがそれを知っていたことを疑いません』と言いました。(アルマ 57:21, 27; 56:47-48)

皆さんにはぜひ以下の質問について深く考え、モルモン書の教えを皆さんの家族に当てはめてほしいと思います。

- モルモン書の中で、子供は親の信仰に高潔さや義を見いだす必要があると教えている聖句にはどのようなものがありますか。
- モルモン書の中で父親が子供に与えた勧告で、わたしたちも自分の子供に伝えたいと思う勧告にはどのようなものがありますか。
- 現在従順ではない子供に対するわたしたちの努力について、どのようなことが学べますか。
- モルモン書に登場する親は、どのようにしてその深い信仰を子供に伝えたでしょうか。
- 信仰が世代から世代に伝えられることについて、どのようなことが学べますか。

人に伝えるものの中で、主イエス・キリストを信じる信仰以上に重要なものはありません。その信仰により、わたしたちはこの世の生涯における課題について、幸福と苦難について、そして来世の永遠の命について、理解を深めることができるのです。

世の中には、この最も重要な信仰から、わたしたちや家族を引き離そうとする影響が数多くあります。一方モルモン書は、わたしたちや家族に主イエス・キリストを信じる信仰を持つよう勧め、わたしたちが良い家族を築くのに役立つ様々な原則を教えています。

わたしは、モルモン書が真実の書物であり、まさに現実に主イエス・キリストの指示の下に天使モロナイによって預言者ジョセフ・スミスに渡されたものであることを証します。この書物は、わたしたちの時代のために、わたしたちの子供や孫のために書かれたものです。毎日信仰をもってこの書物を開くとき、主の御霊がとどまり、家族が永遠に祝福されることを約束します。■

古代の出来事、現代への応用

わたしはいつもモルモン書の中に答えを見つけることができます。モルモン書を研究することで数多くのことを学んでいます。そして、それによって自分が良い方に変化していると感じます。

最近のことですが、6人の子供を育てているわたしは、今何をしたらいいのか考えていました。天の御父は何をお望みなのだろうかとあれこれ考えたのです。

いつもの聖文学習で、たまたまモルモン書の中の戦争の記述を読みました。家族を守るために、何を置いてでも行動を起こすべきだと語るモロナイの呼びかけに衝撃を受けたのです(アルマ46:12参照)。ニーファイ人は家族を守る決意を固めました。わたしは、この物語を読みながら、何があっても家族のために戦うという、同じ目的を自分でも抱こうと決意しました。それは個人的で、愛に満ちた体験でした。

モルモン書がわたしたちの時代のために書かれたものであることを知っています。人生の導きをこの書物に求められることに感謝しています。この書物はまことに鉄の棒です(1ニーファイ8章参照)。

ウンジョン(韓国)



信仰・家族・扶助

疑わなければ

この資料を学び、必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。質問を使うことによって、訪問先の姉妹を強め、あなた自身の生活の中で扶助協会を生かすようにしてください。

モルモン書には、非常に雄々しく、勇敢で、力強かった模範的な青年たちについて書かれています。「まことに彼らは神の戒めを守り、神の前をまっすぐに歩むように教えられていたので、誠実でまじめな者たちであった。」(アルマ 53:21) この忠実な青年たちは、彼らの模範であり教師であった母親たちをたたえています。

ヒラマンの兵士の母親たちが生きた時代は、わたしたちの時代とよく似ていました。彼らは困難で危険な状況にあり、若人は物理的および霊的な自由を守るようにとの呼びかけを受けていました。わたしたちが生きている今日の世界においては、「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、^心もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦い」です(エペソ 6:12)。

困難な時代に切に必要とされるのは、ヒラマンの兵士たちが知っていた真理を、すなわち「疑わなければ神が救ってくださる」ことを教える確固とした親であり、模範です(アルマ 56:47)。今日、この真理を教え、その模範を示すには、絶えず目を覚ましていることが求められます。しかし、恐れる必要はありません。自分が何者であり、神がどのような御方であるかを知り、その神と聖約を交わしていることを覚えるとき、わたしたちは兵士の母親たちと同じように、善へと誘う大きな影響力を持つことになるでしょう。

恐らく、ヒラマンの2,060人の兵士はそれぞれが母親の影響を受けていたことでしょう。でも、彼らの母親は独りで務めを果たしたわけではありませんでした。義にかなったほかの男女と信仰を一つにし、皆で模範を示すことによって、聖約の力を教えたに違いありません。当時の若人は自分たちの親が戦わないと聖約していたことを理解していました。そして愛にあふれた天の御父は、たとえ不可能だと思われたときでさえも、彼らの親たちが聖約を守れるように、そして自由を守れるように道を開かれました(アルマ 56:5-9 参照)。わたしたちも同じように聖約を尊ばなければなりません。そうすれば子供たちや青少年たち、すなわち自分自身の子供たちと、ワードや支部、近隣、そして地域社会の子供たちが、

何ができるでしょうか?

1. 担当の姉妹が若人に影響を与える力があることに気づき、その力を発揮できるように、どのような助けができるでしょうか。
2. 現在直面している問題に対処するために、モルモン書からどのような^{あひだ}霊感が得られるでしょうか。

聖約を守ることに理解し、支持するようになるでしょう。

わたしたちが聖約を尊ぶとき、天の御父はわたしたちのために道を備えることがおできになります。わたしたちは聖約を厳密に守って生活するべきです。例えば、祈りや聖文研究を行い、有効な神殿推薦状を持ち、慎み深い服装をし、安息日を尊ぶことに関して厳密であることができます。そうするときに、子供たちは次のことを知り、こう言うことができるでしょう。「わたしたちは、母たちがそれを知っていたことを疑いません。」(アルマ 56:48)

自分の力の源が主の贖いにあることを認めている末日聖徒の女性は、困難で、希望のうせそうなときでもあきらめません。聖約を守るとき、わたしたちは子供や青少年をうまく支え、養い育て、守ることができます。そしていつの日かこの若者たちについて、「わたしはこれまでこのような大いなる勇気を一度も見ることがありません」と言うことができるでしょう(アルマ 56:45)。■

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック

詳しくは
www.reliefsociety.
lds.org [英語] を
ご覧ください。

聖文から——

アルマ 53 章:56 - 58 章



に せん にん へい し
 二 千 人 の 兵 士 た ち

力強く ♩ = 96-100

詞：ボニー・ハート・マーレー
 曲：ジャニス・カップ・ペリー

1. ち か ら あ ふ れ る に せ た ん に ん の へ
 2. は は の お し え を に う た が わ ん に り お
 3. ヒ か う マ オ ン と か も ら に ひ う と け つ と す な す り み し
 4. か み の ち か ら に を う け て す な す み ひ

い し が た た か い の こ え を き き 「か
 こ し な が と た か い の こ え を き き か
 ん こ り も と う し な わ れ た る す こ さ と な て く か
 と こ り も と う し な わ れ た る す こ さ と な て く か
 ち

み は わ れ ら と と も に あ る と お
 な ら ず か ら み と は も に ら る と か
 を な が さ ず よ と ま も ら る と か
 ん こ う に よ り じ つ よ め ら る と か
 た

そ れ す しゅ の た め た ち あ が っ た た
 た 一 く し しゅ の た め た ち あ が っ た た
 み と か し しゅ の た め た ち あ が っ た た
 ね に しゅ が と も に お た れ か た か

©2009 Bonnie Hart Murray and Janice Kapp Perry. 版權所有。
 教会あるいは家庭における一時的または非常利目的の使用に限り、複製することを許可する。
 複製の際はこの通知部分を含めること。

アルマ 53 章：56 - 57 章

わたしたちの時代のための教え



主はわたしたちを心に留めておられる

「モルモン書のエテル書にある主の御言葉を思い出します。主は言われました。『わたしが海の波と、吹きつける風と、寄せ来る多くの水に対してあなたがたを備えさせなければ、あなたがたはこの大なる深みを渡るできない……。』」

〔エテル2:25〕 兄弟姉妹の皆さん、主はわたしたちを備えてくださっています。主の御言葉を心に留め、戒めを守って生活するならば、わたしたちはこの放縦と邪悪の時代を生き抜くことができるでしょう。この時代はあたかも破壊的な力を持つ海の波や風、洪水のようです。主はわたしたちをいつも心に留めておられます。主はわたしたちを愛しておられるので、正しいことを行うならば祝福してくださいませ。」

トーマス・S・モンソン大管長
「閉会に当たり」
『リアホナ』2009年11月号、
109



イエスはキリストであられる

「モルモン書はわたしたちが手にしている書物の中で、イエスがキリストであられることを最も力強く証している書物です。聖霊を受け取るための土台として、ニーファイは何を挙げているのでしょうか。主イエス・キリストを信じる信仰です。では、モルモン書を時々読むことで、主イエス・キリストを信じる信仰を確実に得られるでしょうか。もしニー

ファイの言葉を注意深く読むなら、そうは思わないでしょう。ニーファイは、これは『神を熱心に求めるすべての人に……与えられる賜物である』と述べています。『熱心に』とは間違いなく『定期的に』を意味します。また、深く考え、祈ることを意味します。そして祈ることには、真理を知りたいと熱烈に懇願することが間違いなく含まれます。それ以下であれば熱心とは言えないでしょう。それ以下であれば、皆さんにもわたしにも十分ではありません。」

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長
"Going Home,"
in *Brigham Young University*
1986 - 87 Devotional and
Fireside Speeches
(1987年), 77-78



福音の宣言

「福音の教えの核となる要素は、あらゆる聖文で述べられていますが、モルモン書と預言者ジョセフ・スミスへの啓示の中で、それが最も明確に述べられています。そこでは、イエス御自身がその教義と福音について分かりやすく宣言されています。神の子供たちは、『永遠の命を得る』ためにそれに従う必要があります（教義と聖約14:7）。」

大管長会第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ管長
「喜んでよい理由はないだろうか」
『リアホナ』2007年11月号、19

昔の預言者たちは、モルモン書には今の時代にわたしたちを教えるために残された「分かりやすくて貴い」事柄がたくさん載っていると教えています（1 ニーファイ 13：40；19：3 参照）。これらの真理はイエス・キリストの完全な福音を明瞭にし、より深い理解をもたらし、モルモン書を学ぶ人が希望と強さをもって人生の困難を乗り越えられるように助けてくれます。以下は、これらの重要な教えについて証する現代の預言者たちと使徒たちの言葉です。

二つの木が一つになる

生まれたときから聖書を持っていると言ってもよいくらいですが、モルモン書をもらうまでは、福音のすべての原則を十分に知っていたわけではありませんでした。この第二の「木」がもたらず知識があつて初めて、イエス・キリストの完全な福音が分かることを知りました（エゼキエル 37：15－17 参照）。わたしの手もとで二つの木が一つになったとき、人生を変えるような経験をすることができました。自分が何者であるかについて、そして自分が神の永遠の家族の一員になる可能性を秘めていることについて、理解が深まったのです。こうして「これらはあなたの手で一つになる」（17 節）という預言が成就したわけですが、これも二人の忠実な姉妹宣教師がわたしを心にかけて、第二の木を置いていってくれたおかげです。以前はろうそくの光で歩いていましたが、今は完全な福音の祝福によって隅々まで明るく照らされています。再出発の機会をもらった気分です。

アリー・サラ
(カナダ、
ブリティッシュコロンビア州)



幼い子供たちのバプテスマ

「幼い子供たちは罪のうちに宿され、生まれながらにして墮落した状態で生を受けると〔信じている人がいます〕。この教えは間違っています。

モルモンは次のように書いています。『もしわたしの聞いたことが事実であれば、あなたがたの中には、幼い子供たちのバプテスマについて論争があったということである。』（モロナイ 8：5）

そしてモルモンは、その論争は『大きな過ち』であると述べて、こう書いています。

『あなたがたの贖い主、あなたがたの神であるキリストの言葉を聴

きなさい。見よ、わたしがこの世に来たのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。健康な人には医者には要らない。要るのは病人である。幼い子供たちは、罪を犯すことができないので健康である。したがって、アダムののろい

は、わたしによって彼らから取り去られており、彼らを支配する力を持っていない。……」聖霊がこのように神の御言葉をわたしに明らかにしてくださったので、愛する息子よ、わたしは、幼い子供たちにバプテスマを施すことが、神をひどくあざける行為であることを知っている。』（モロナイ 8：7－9）……

どうかモルモンの書簡を全部読んでください。これは真実の教義です。」

十二使徒定員会会長
ボイド・K・バックー会長
「幼き子ら」
『聖徒の道』1987年1月号、
18 参照



モルモン書からの警告

「モルモン書は、戦争の原因と結果、またはどのような状況においてであるかを教えています。権力と利益を得るために作られた秘密結社の、悪と危険性について教えています。また、サタンが実在し、どのような手段で人を惑わすかについて述べています。富の適切な使い方についても教えています。福音の分かりやすくて貴い

真理を教え、イエス・キリストが実在し、神であられ、全人類の贖罪の犠牲となられたことを教えています。終わりの時におけるイスラエルの家の集合についても教えています。伝道の目的と原則についても教えています。さらに、高慢、無関心、引き延ばし、誤った伝統の危険性、偽善、不貞について警告しています。

今やモルモン書を研究し、その原則を学び、生活の中で実践するかどうかは、わたしたちにかかっているのです。」

十二使徒定員会
L・トム・ペリー長老
「モルモン書を読むことから
得られる祝福」
『リアホナ』2005年11月号、8

家族は永遠です

1995年にバプテスマを受けて以来、モルモン書はずっと読んでいます。でもリーハイの息子たちがエルサレムを往復した旅について読むことが自分自身の家族という観点からわたしにとって意義深いものとなったのは、結婚してからのことでした。

主はリーハイに永遠の家族を築くように望んでおられたと思われ

ます。最初に、主はリーハイにすべてを後に残して家族を約束の地に連れて行くことによって**現在の**家族を救うように言われました。彼らがまだ荒野にいたとき、主はリーハイに息子たちを送り返して、**過去の**家族の記録を手に入れるように告げられました。その後、主はイシマエルとその娘たちを連れて来るために彼らをお遣わしになりました。これは**未来の**家族への備えでした。

十二使徒定員会の
そのほかの会員による
モルモン書についての証は、
今月号の10、28、32、
38、80ページで
読むことができます。



すべてのものが 回復される

「モルモン書には、復活の様子とその普遍性が見事に記されています。預言者アミュレクはこう教えています。

『キリストの死は将来この肉体の死の縄目を解き、すべての人がこの肉体の死からよみがえる。

霊と体は再び結合して完全な形になり、手足も関節も、ちょうど今のわたしたちのような、その本来の造りに回復される。……

さて、この復活は、老いた人にも若い人にも、束縛された人にも自由な人にも、男にも女にも、悪人にも義人にも、すべての人に与えられる。そして、髪の毛一筋さえも失われることはなく、すべてのものが……その完全な造りに……回復される。』（アルマ11:42-44）

アルマもまた、復活について、『すべてのものが本来の完全な造りに回復される』と教えています（アルマ40:23）。……

体の不自由なすべての人が『本来の完全な造り』に復活できるとは、何という慰めでしょうか。」

十二使徒定員会
ダリン・H・オークス長老
「復活」
『リアホナ』2000年7月号、
17参照



秘密結社の脅威

「モルモン書が教えているように、犯罪にかかわる秘密結社は、個人や家族だけでなく、文明全体にまで深刻な影響を及ぼします。今日の秘密結社には、暴力団や麻薬組織、マフィアなどがあります。現代の組織には、モルモン書の時代のガデア

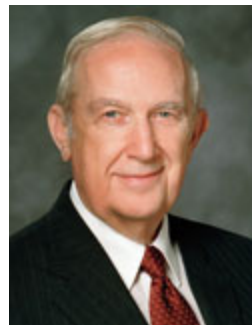
ントンの強盗たちと似通った機能があります。……彼らの目的は、『国の法律にも神の律法にも背いて人を殺し、略奪し、盗み、みだらな行いをし、あらゆる悪事を行うこと』なのです〔ヒラマン6:23〕。

わたしたちが気をつけなければ、現代の秘密結社は、モルモン書の時代とまったく同じように、迅速かつ完璧に、権力と影響力を手にすることができでしょう。」

十二使徒定員会
M・ラッセル・バラード長老
「真理と正義を守る」
『聖徒の道』1998年1月号、43

自分の永遠の家族に属する現在と過去と未来の人たちをつなぐことは、リーハイと同じように、わたしが尊ぶべき重要な責任です。恐らくこれらの経験はリーハイにとって、命の木の示現を受け、永遠の家族の中に神の愛がはぐまれるべきであることを理解する備えとなったことでしょう。

サロテ・マラニ・マイウィリウィリ (アメリカ合衆国, ハワイ州)



人生における問題を解決する

「モルモン書の中には誤った言い伝えの影響を正し、全き人生を享受するための教えが神の知恵によって取められています。モルモン書は、現代のわたしたちが直面している問題や試練の解決法を教えてください。……〔主は〕生活上の深刻な過ちを正す方法を示されました。しかし、書物自体が閉じられたままで読まれることがなければ、そうした導きも価値のないものになってしまいます。」

十二使徒定員会
リチャード・G・スコット長老
「引き上げてくれる真の友」
『聖徒の道』1989年2月号, 78



聖約を思い起こさせるもの

「モルモン書は、バプテスマとは『神に贖われ、第一の復活にあずかる人々とともに数えられて永遠の命を得られるように、いつでも、どのようなことについても、どのような所^{ところ}にいても、死に至るまでも神〔と神の王国〕の証人になる』という聖約であることを思い起こさせてくれます(モーサヤ18:9, 強調付加)。」

十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老
「バプテスマの聖約——
王国にあって王国のものとなる」
『リアホナ』2001年1月号, 7



従順がもたらす祝福

「モルモン書には数多くの場面で、民は『もし彼らが戒めを守れば』その地で栄えると約束されています〔1ニーファイ2:20; 2ニーファイ4:4参照〕。この約束にはたいてい、もし神の戒めを守らなければ御前^{みまへ}から絶たれるであろうという警告が伴います〔アルマ36:30参照〕。」

十二使徒定員会
クエンティン・L・クック長老
「あのね、大変だったんだよ」
『リアホナ』2008年11月号,
104

光を掲げて前進する

エテル書の第2章には、ヤレドの兄弟が船の中に光がないことを心配した話がかかれています。この件についてヤレドの兄弟が主に尋ねると、主は次のようにお尋ねになりました。「光があるように、あなたがたはわたしに何をしてもらいたいか。」(25節)

この主の問いに対してヤレドの兄弟が取った行動について、わたしはずっと考えてきました。まずヤレドの兄弟は山に登り、「一つの岩から十六個の小さな石を溶かし出し」ました(エテル3:1)。それから石を持って山の頂上に行き、祈りました。初めに主の前にへりくだり、憐れみを求め、主が自分の祈りにこたえる力をお持ちであることを認めました。その後、信仰を示して言いました。「わたしたちはあなたがたいなる力を示されることを存じています。」(エテル3:5) ヤレドの兄弟は主に、石に触れて、石が船の中を照らすようにしてくださいと頼みました。

この聖句のおかげで祈り方が変わりました。以前はよく、「お父様、わたしに何をしようお望みですか」と祈っていました。でも実際は多くの場合、まず自分で考え、利用できる手段について検討し、案を考え出す必要があるのです。その後、御父のもとに行き、その案でよいか尋ねます。それから自分では起こすことのできない奇跡を祈り求めるのです。

エレナ・ゴメス・デ・サンチュリオン(ウルグアイ)





エズラ・タフト・
ベンソン大管長
(1899 - 1994 年)

モルモン書—— わたしたちの宗教の かなめ石

1985年11月10日、エズラ・タフト・ベンソンは第13代大管長になりました。

ベンソン大管長は、モルモン書が持つ力に対して確固とした証^{あかし}を持ち、
日々の聖文研究や伝道活動、福音の教授にモルモン書を活用することの大切さを強調したことで知られています。
今年は、この説教が語られた1986年10月の総大会から25年目に当たります。

今 日わたしは、現代のわたしたちに与えられている中で最も大切な賜物^{たまもの}について話したいと思います。わたしが考えている賜物とは、産業革命や技術革命が生み出したいかなる発明品よりもずっと重要なものです。人類にとって、現代医学に見られる多くの躍進よりもずっと偉大な価値があり、飛行機の発達や宇宙旅行よりも、人類にとってずっと意義のある賜物です。わたしが話している賜物とは、156年前に人類に与えられたモルモン書のことです。



この賜物は1,000年以上にわたり主の手によってつづられ、その後、主によって隠されました。わたしたちの世代の人々のために、純粋なまま保存されたのです。この近代の聖典については、主御自身の言葉以上にその重要性を証するものはありません。

主は御自身の言葉をもって次のことを証しておられます。
(1) それが真実であること(教義と聖約17:6)、(2) 真理と神御自身の言葉が載っていること(教義と聖約19:26)、
(3) 高い所からの力により翻訳されたこと(教義と聖約

20:8)、(4) イエス・キリストの完全な福音が載っていること(教義と聖約20:9;42:12)、(5) 霊感によって与えられ、天使たちの働きによって確認されたこと(教義と聖約20:10)、(6) 聖文が真実であることを証していること(教義と聖約20:11)、
(7) 信仰をもってこれを受け入れる人は永遠の命を受けること(教義と聖約20:14)。

モルモン書が大切なものであることについての第2の強力な証は、主が福音の回復の過程において、モルモン書をいつ登場させられたかということです。モルモン書に先立ったのは最初の示現だけでした。その驚くべき現れの中で預言者ジョセフ・スミスは、神の性質と、神が自分のなすべき業を備えておられることを知りました。モルモン書がもたらされたのはその後でした。

これはどういうことなのでしょう。モルモン書がもたらされたのは神権の回復の前でした。その出版は、教会が組織される数日前でした。栄光の3つの階級や日の栄えの結婚、死者のための儀式といった大切な教義に関する啓示が与えられる前に、聖徒たちはモルモン書を渡されて読み

モルモン書は、主の御言葉の宝庫であり、神の御霊の賜物です。主の御言葉は、わたしたちの救いの道を示し、わたしたちを神の御国へと導きます。主の御言葉は、わたしたちの心を慰め、わたしたちを神の御愛へと導きます。主の御言葉は、わたしたちの魂を救い、わたしたちを神の御国へと導きます。主の御言葉は、わたしたちの心を慰め、わたしたちを神の御愛へと導きます。主の御言葉は、わたしたちの魂を救い、わたしたちを神の御国へと導きます。



預言者の証

「〔モルモン書〕は神の言葉であり、キリストについての第2の力強い証です。臆い主を愛するまことの信者であれば、だれでも間違いなく、このもう一つの証言を喜んで迎え入れるはずで

す。靈感あふれるこの書物は、権限のない翻訳家や偏見を持った神学者によって書き換えられることなく、歴史記録者と要約者の手から直接に、純然なまま世に出されました。試されているのはこの書物ではなく、それを読む人々です。」

スペンサー・W・キンボール大管長
(1895 - 1985年)
*The Teachings of
Spencer W. Kimball,*
エドワード・L・キンボール編
(1982年), 133

ました。神権定員会や教会が設立される前にもたらされたのです。このことは、主がこの神聖な書物をどのように御覧になっているかを物語っているのではないのでしょうか。

モルモン書に対する主の思いが分かれば、その受け入れ方について主が嚴重な警告を与えておられることも驚くには当たりません。信仰をもってモルモン書を受け入れ、義を行う者は、永遠の栄光の冠を受けると言われた後で(教義と聖約20:14参照)、主は、「しかし、不信仰によって心をかたくなにし、これを拒む者は、そのことによって自分の罪の宣告を招くであろう」と警告されました(教義と聖約20:15)。

1829年、主は神聖なものを軽んじないようにと聖徒たちに警告されました(教義と聖約6:12参照)。確かにモルモン書は神聖なものです。にもかかわらず多くの人がこれを軽んじています。言い換えれば、モルモン書を軽視し、つまらないもののように扱っている人が多くいるということなのです。

1832年、初期の宣教師たちが伝道地から帰って来たとき、主は彼らがモルモン書を軽々しく扱ったことを叱責なさいました。そのような態度であったために、彼らの心は暗くなることがあったと主は言われました。この神聖な本を軽々しく扱ったために彼ら自身から光が失われたばかりではなく、教会全体、果てはシオンのすべての子らまでが罪の宣告を受けたのです。主は「彼らが悔い改めて、新しい聖約、すなわち『モルモン書』……を思い起こ〔す〕まで、彼らは依然としてこの罪の宣告の下にある」と言われました(教義と聖約84:54 - 57)。

モルモン書は、出版されてから1世紀半以上たつからとって、今日のわたしたちにとって価値が下がったりするのでしょうか。わたしたちはモルモン書が新たな聖約だということを心に留めているのでしょうか。聖書には旧約聖書と新約聖書があります。この「約」〔取り

決め、契り〕に当たる英語の *testament* という言葉は、*covenant* (聖約)とも訳すことのできるギリシャ語に由来しています。主はモルモン書を「新しい聖約」と呼ばれましたが、実際そのような意味で言われたのではないのでしょうか。モルモン書は、イエスについてのもう一つの聖約、すなわち証なのです。最近、モルモン書の標題に「イエス・キリストについてのもう一つの証」という言葉を付け加えたのはそのためです。

初期の聖徒たちがモルモン書を軽々しく扱ったために叱責されたとしたならば、同じようなことをするわたしたちも同様の罪の宣告を受けるのではないのでしょうか。モルモン書には永遠の価値があると主は証しておられます。わたしたちの何人かがこの神聖なものを軽んじたために教会全体が罪の宣告を受けることもあるのです。裁きの場で主の前に立ち、主の探るようなまなざしを受け、この新しい聖約を忘れた者として数えられた場合に、わたしたちは何と云えばよいのでしょうか。

末日聖徒はモルモン書を生涯にわたって研究する必要がありますが、それには3つの大きな理由があります。

その第1は、モルモン書はわたしたちの宗教のかなめ石だからです。それは預言者ジョセフ・スミスの言葉にあります。ジョセフ・スミスは「モルモン書はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である」¹と証しています。かなめ石とはアーチの中央に置かれる石のことです。ほかの石を支える働きをしているので、取るとアーチは崩れ落ちます。

モルモン書は3つの点でわたしたちの宗教のかなめ石です。それはキリストに対する証のかなめ石であり、わたしたちの教義のかなめ石であり、証のかなめ石です。

モルモン書はイエス・キリストに対するわたしたちの証のかなめ石であり、キリスト御自身はわたしたちが行うすべてのことの隅石となる



御方です。モルモン書は力強く、しかも明快にイエスが実在の御方であることを証しています。多くの写本家や翻訳家、内容に手を加えたよこしまな宗教家たちの手を通してきた聖書と異なり、モルモン書（英文）は記録者から読者に渡るまでの間にわずか一つの翻訳の段階を経たにすぎません。したがって、そこにある主の証は明快かつ純粹で、力があります。そればかりではありません。今日キリスト教界の多くは救い主の神性を否定しています。主の奇跡的な生誕や、完璧な生涯、栄光ある復活の真実性に疑いを抱いているのです。モルモン書はそれらがすべて真実であることを分かりやすく、誤解の余地のない言葉で教えています。また、贖いの教義をこれほど完璧に説明している書物はほかにありません。確かに、神から与えられたこの靈感あふれる書物は、イエスが救い主であられるという、世の人々に宣べ伝える証のかなめ石なのです。²

モルモン書はまた、復活の教義のかなめ石でもあります。前にも触れましたが、モルモン書に「イエス・キリストの完全な福音」が載っているとされたのは主御自身です（教義と聖約 20：9）。

モルモン書には救いに必要な完全な教義が収められています。そして、その教義は分かりやすく簡単で、子供でさえも救いと昇栄の道を学ぶことができます。

それはすべての教え、これまでに明らかにされたすべての教義が載っているということではありません。そうではなく、モルモン書には救いに必要な完全な教義が収められていることなのです。そして、その教義は分かりやすく簡単で、子供でさえも救いと昇栄の道を学ぶことができます。モルモン書は救いの教義をより深く理解させる内容に満ちています。モルモン書がなかったならば、ほかの聖典で教えられていることも、とうてい「分かりやすくて貴重」ものではなかったことでしょう。

最後に、モルモン書は証のかなめ石です。かなめ石を取り外したらアーチが崩れ落ちるように、この教会のすべては、モルモン書が真実かどうかにかかっています。教会の敵はそれをよく知っています。彼らがこのモルモン書の誤りを立証しようとあらゆることをするのはそのためであり、もしモルモン書の信ぴょう性を揺るがすことができれば、預言者ジョセフ・スミスもともに倒れるからです。神権の鍵や啓示、また回復された教会についてのわたしたちの主張もそうです。しかし逆に、もしこのモルモン書が真実であるならば（事実、これが真実だという御霊の証を受けたと証する人は何百万人にも上ります）、回復やそれに伴うすべてのことを受け入れなければならなくなります。

そうです、愛する兄弟姉妹の皆さん、モルモン書はわたしたちの宗教のかなめ石です。わたしたちの証のかなめ石であり、教義のかなめ石であり、主なる救い主に対する証のかなめ石なのです。

さて、モルモン書をわたしたちの研究の中心としなければならない第2の大きな理由は、このモルモン書がわたしたちのために書かれたものだからです。ニーファイ人にも、古代のレーマン人にもモルモン書はありませんでした。まさにわたしたちのためのものなのです。モルモンはニーファイ人の文明の末期にこれを書き記しました。すべてを初めから見ておられる神の靈感の下に、モルモンはわたしたちのためになる物



預言者の証

「モルモン書は、ほかのどの書物にも見られない内容を持つ神聖な記録です。主はわたしたちに、永遠の福音の真理を主のすべての子供たちと分かち合うよう命じられました。その真理は、主が子供たちを日の栄えの王国に備えさせるために明らかにされたものです。……

モルモン書が確かに神の言葉であることが分かるだろうという約束は、よく祈って〔モルモン書〕を読むすべての人、それが神の言葉であるかどうか知りたいと望むすべての人に、ジョセフ・スミスでもほかのだれでもなく、天の御父から与えられています。このことを思うにつけ、わたしの心は喜びに満たされます。」

ジョージ・アルバート・スミス大管長
(1870 - 1951年)
Conference Report,
1936年4月, 13 - 14, 15

語、話、出来事を選んで、何世紀にもわたる記録を短くまとめたのでした。

モルモン書の記録者は口をそろえて、後世の人々のために記したことを証しています。「主なる神は、わたしが書き記すこれらのものが保存され、残されて、代々わたしの子孫に伝えられると約束してくださった」とニーファイは言っていますし(2 ニーファイ 25:21)、跡を継いだ弟ヤコブも次のように書いています。「ニーファイは、彼の民の歴史は彼のほかの版に刻まなければならないこと、そしてこの小さい版はわたしが保存して、代々わたしの子孫に伝えなければならないことを告げた。」(モルモン書ヤコブ 1:3) エノスとジェロムも同様に、自分たちの世代のためではなく、後の世代のために書いていと述べました(エノス 1:15-16; ジェロム 1:2 参照)。

モルモンは自ら「イスラエルの家の残りの者よ、わたしはあなたがたに述べる」と言っています(モルモン 7:1)。そして靈感を受けた最後の記録者モロナイは、実際にわたしたちの時代を見て次のように言いました。「見よ、これらのことがあなたがたの中に起こるその時代に、間もなく必ず出て来るものについて、主は大いなる驚くべきことをわたしに示してくださいました。」

見よ、わたしはあなたがたがここにいるかのように語っているが、あなたがたはまだこの世にいない。しかし見よ、イエス・キリストがわたしにあなたがたを見せてくださったので、わたしはあなたがたが行うことを知っている。」(モルモン 8:34-35)

彼らがわたしたちの時代を見、わたしたちのためになることを選んでくれたとしたならば、なおさらモルモン書を研究する必要があるのではないのでしょうか。「これを記録するように主がモルモン(モロナイあるいはアルマ)に靈感をお与えになったのはなぜだろうか、現代の生活への教訓として何を学べるのだろうか」と絶えず自問する必要があります。

そして、その問いに対する答えの例は数限りなくあります。例えばモルモン書を読めば、主の再臨に備える方法が分かります。この書物はキリストがアメリカ大陸に来られる前の数十年間の記述に多くの部分を割いています。その時代のことを注意深く研究すると、主の降臨に先立つ恐ろしい裁きの場で、ある人々は滅ぼされ、別の人々はバウンティフルの地の神殿で主の手足の傷に触れることができたのはなぜかが分かります。

モルモン書を読めば、キリストの弟子たちが戦争の時代をどのように生きたかが分かります。背筋が寒くなるような生々しい描写から秘密結社の悪事についても分かります。迫害や背教に対処するための教訓を見だし、伝道の進め方についても多くのことを学べます。そしてモルモン書は、物質主義やこの世のものに心を奪われることの危険性をほかの何よりもよく教えてくれています。この書物がわたしたちに向けて書かれたものであり、そしてこの中に偉大な力と慰めと守りがあることを、だれが疑うことができるでしょうか。

モルモン書が末日聖徒にとってそれほど価値がある第3の理由は、先ほど引用した預言者ジョセフ・スミスの言葉にあります。彼は言いました。「わたしは兄弟たちに言った。『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」これがモルモン書を研究する第3の理由です。つまり、わたしたちを神に近づけてくれるものだからです。わたしたちには、神に近づきたい、日々の行いの中で神のようになりたい、絶えず神の存在を感じたいと願う気持ちが心の奥深くにあるのではないのでしょうか。そうだとするならば、モルモン書はほかのどの書物よりもその助けとなるものです。

モルモン書は確かに真理を教えています。それがただけではありません。モルモン書は



確かにキリストを証していますが、それだけでもありません。それ以上のものがあるのです。モルモン書には力があって、真剣に読み始めるやいなやその力は読む者の人生に流れ込み、誘惑に打ち勝つ力となります。またそれは欺きを避ける力となり、細くて狭い道にとどまる力となります。聖文は「命の言葉」と呼ばれていますが（教義と聖約 84：85 参照）、モルモン書ほどその言葉にふさわしいものはありません。命の言葉に飢え渇くようになればなるほど、ますます豊かに命を見いだすのです。

わたしたちの愛するマリオン・G・ロムニー管長は、……モルモン書を読んで研究する人の生活にどのような祝福がもたらされるかについて次のように証しています。

「家庭において、両親が自分たちで、また子供とともに、よく祈って定期的にモルモン書を読むならば、その家庭はこの偉大な書物からわき出る特別な力で包まれ、家族一人一人がその力強い影響を受けることでしょう。家庭の中はこれまで以上に敬虔な雰囲気けいけんに包まれ、一人一人が互いに尊敬し合い、関心を持つようになると思います。そして、いがみ合うようなことがまったく

この書物が
わたしたちに向けて
書かれたものであり、
そしてこの本の中に
偉大な力と慰めと
守りがあることを、
だれが疑うことができ
るのでしょうか。

なくなります。また両親は愛と知恵の中で子供たちを諭すようになり、子供たちは以前にも増して両親の勧めに快く従うようになります。義は増し加えられ、信仰と希望、キリストの純粋な愛が家庭や日常生活に満ちて、平和と喜びと幸福がもたらされることでしょう。」³

これらの約束——家庭に愛と一致が増し、親と子はいっそう尊重し合い、霊性と義の面で高められること——はむなしい約束ではありません。モルモン書は人を神に近づけると語った預言者ジョセフ・スミスがまさに言わんとしていたことです。

兄弟姉妹の皆さん、皆さん個人にとって、また教会全体にとって、モルモン書がいかに重要かをぜひとも真剣に考えてください。

もう10年以上も前になりますが、わたしはモルモン書について次のように述べました。

「永遠の結果は、ほんとうにこの書物に対するわたしたちの態度にかかっているのでしょうか。そうです。祝福も罪の宣告もモルモン書に対するわたしたちの態度にかかっています。

末日聖徒はすべて、生涯この書物を学び続けるべきです。さもなければ、自分自身を危険にさらし、生涯にわたって信仰と知識の一致をもたらすものをなおざりにしていることになるのです。確かに、モルモン書を通してキリストの岩を基にして立ち、鉄の棒にしっかりつかまっている改宗者と、そうでない改宗者との間には大きな隔りがあります。」⁴

今日この点を再度強調します。主がわたしたちに授けてくださったこの偉大な、かつすばらしい賜物を軽々しく扱うことによって、罰や裁きを受けて罪の宣告を招くことのないようにしましょう。むしろ、心にその言葉を蓄えることに結びついた約束を勝ち得ようではありませんか。

教義と聖約第84章54節から58節には次のように記されています。

「また、不信仰のために、また自分の受けたものを軽々しく扱ったために、あなたがたの思いは過去に暗くなることがあった。



モルモン書には
力があって、
真剣に
読み始めるやいなや
その力は
読む者の人生に
流れ込みます。

この虚栄と不信仰は全教会に罪の宣告を招いた。

この罪の宣告はシオンの子ら、まことにすべての者のうえにある。

彼らが悔い改めて、新しい聖約、すなわち『モルモン書』と、わたしが彼らに与えた以前の戒めを思い起こし、そしてただ口にするだけでなく、わたしが記してきたものに従って行動するまで、彼らは依然としてこの罪の宣告の下にある。

これによって、彼らが父の王国にふさわしい実を結べるようにするためである。そうでなければ、シオンの子らのうえに注がれる懲らしめと裁きが残る。」

前回の大会以来、モルモン書を読んで研究するというチャレンジを受け入れたという手紙が、年齢を問わず世界中の聖徒から届きました。

そうした決意によってどれほど生き方が変わったか、どれほど神に近づくことができたかなどについて知ることができ、大変うれしく思います。そのようなすばらしい証が、モルモン書は「わたしたちの宗教のかなめ石」であり「人がその教えに従って最も神に近づくことのできる書物」であるという預言者ジョセフ・スミス

の言葉をいっそう確信させてくれるのです。
モルモン書がわたしたちの生活のかなめ石になりますよう、祈ります。■

原文〔英語〕においては、つづり、大文字は現代の用法に修正。

注

1. モルモン書の序文
2. モルモン書のタイトルページ参照
3. マリオン・G・ロムニー「モルモン経」『聖徒の道』1980年9月号、102参照
4. エズラ・タフト・ベンソン「モルモン経は神のみ言葉である」『聖徒の道』1988年5月号、7

古代の出来事、現代への応用

わたしは1965年以来ずっと忠実な教会員でしたが、ほかの何よりも1986年のある一つの出来事が、回復された福音に対するわたしの証を堅固にしました。

その年の10月、わたしはイングランドのコーンウェルの礼拝堂に行って総大会の放送を見ました。そこでエズラ・タフト・ベンソン大管長の「モルモン書——わたしたちの宗教のかなめ石」という歴史的な説教を聞き、もっとモルモン書を読む努力をした方がいいことを知りました。

その晩帰宅すると、ひざまずいて祈り、これからは二度とモルモン書を軽々しく扱わないと主に聖約しました。それから25年たちますが、1日たりともモルモン書を読まなかった日はないと報告することができます。

この決心のおかげで、数え切れないほどの祝福を受けてきました。モルモン書には、ほかでは見いだせない特別な御霊があります。ほかの聖典にさえ見いだすことができません。わたしは聖霊を身近に感じ、そのおかげで、人生で試練に遭っても、常に安らかな気持ちでいることができました。特に、2007年2月に50年近く連れ添った妻に先立たれたときはそうでした。

リスター・ジョセフ・ウェルシュ (スコットランド)

神聖な書物

デビッド・A・ファイツ

ある夜、同僚とわたしは一人の若い男性の部屋のドアをノックしました。彼は、ロンドンの数ある大学の一つに通う外国人学生でした。中に招かれたわたしたちは、自分たちが末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師であると伝えました。彼が福音の回復についてもっと知りたいように見えたので、わたしたちは預言者ジョセフ・スミスと、モルモン書と呼ばれる、天の御父からの神聖な書物について証あかししました。この書物が神聖なのは、イエス・キリストについて証しているからだ、と力を込めて説明したのです。

心この書物が真実であることを自分で知ることができると説明し、1冊渡そうとしました。しかし、モルモン書を手渡そうとすると、彼はいすから立ち上がり、何も言わずに部屋を出て行ってしまいました。モルモン書を手にしたまま、わたしはどうしたらよいのか分からず、同僚と言葉もなかった顔を見合わせていました。わたしはモルモン書をテーブルに置きました。

この若い友人が台所で手を洗い、清潔なタオルでふいているのが見えました。彼は部屋に戻るとテーブルからモルモン書を取り上げて言いました。「わたしの国では、神聖なものに触るときはいつも手を洗うんです。」この若い男性が初めてモルモン書を開き、清い手で神聖なページをめくっているのを見ていたわたしの目に涙があふれてきました。

アルマは聖文が神聖なものであり、人を救いに導くために保存されると教えました。息子のヒラマンにこう告げています。「神がこれらのものをあなたに託されたということを覚えておきなさい。これらのものは神聖であり、神はこれまでこれらのものを

彼はわたしたちが
教えたことは
何でも
受け入れました。
それなのになぜ、
モルモン書を
受け取ろうと
しなかったの
でしょうか。

神聖に保ってこられた。そしてこれからも、御自分の力を後の時代の人々に示せるように、御自分の内にある賢明な目的のためにこれらのものを保存し、守られるであろう。」(アルマ 37:14)

わたしは、回復されたイエス・キリストの福音を教えるという使命を受けて遣わされたのですが、手を清めるという行為を通して、わたしの方がこの若い男性に教えられました。わたし自身の文化を含めて多くの文化では、聖文を読む前に手を洗うことは求められていません。しかし、敬意を表す彼の素朴な行為は、慎み深く、そして力強く、モルモン書が神聖であることを思い出させてくれたのです。■





七十人会長会
ウォルター・F・
ゴンザレス長老

ほんとうに
知りたいのなら、

モルモン書に対する

わたしの感謝の気持ちは永遠です。

モルモン書はわたしの人生を永遠に変えたのです。

皆さんの人生も変える力があると確信しています。

分かるようになります

わたしは18歳のときに教会員になりました。そのとき重要な役割を果たしたのがモルモン書です。当時わたしは、自分を取り囲む世界を説明できる新しい考え方を求めています。大学の教授たちの教えは、かなり唯物論的な見方をしていることを覚えています。神の存在について、わたしは不可知論的な考えに傾倒していきました。

ある日、その6年ほど前に二人の宣教師が家に置いていった空色の本があるのに気づきました。モルモン書でした。宣教師はモルモン書と一緒に預言者ジョセフ・スミスについてのパンフレットを置いていき、神に祈る方法も教えてくれていました。

わたしはモルモン書を読み始めました。ニーファイ第一書をほんの数節読んだところで、何か違うものを感じました。感情と知性がぶつかり合いました。そこで、わたしは神に祈って尋ねることにしました。

生まれて初めてひざまずいて祈りました。それはわたしの人生で最も神聖な経験の一つとなりました。圧倒されるほどの幸福感に満たされ、モルモン書がただの本ではないことを知

りました。それは神によってもたらされた本でした。神の言葉に違いありません。そのときの感情が、モルモン書が真実であること^{あかし}を証する御霊^{みたま}だったことを後で知りました。

同じような経験をした人もいますが、モルモン書が真実であることを知る方法は様々です。

知る方法

1. 聞いて知る。あなたは、この本が教えていることに耳を傾けるだけで分かる人かもしれません。モルモン書には、モーサヤの息子たちがイエス・キリストの福音を教えるのを聞いて「主に帰依した」人が何千人もいたと書かれています(アルマ23:5-6参照)。今日宣教師たちはモルモン書に書かれている同じ福音を教えています。モルモン書の教えをほかの人から聞くだけで、それが神の言葉であると分かる人もいます。

2. 読んで知る。あなたは、真理を知りたいという純粋な思いでモルモン書を読むだけで分かる人かもしれません。わたしの妻がそうでした。妻は12歳のとき、その本を最初から最後まで読み通しなさいと教えられたことを真



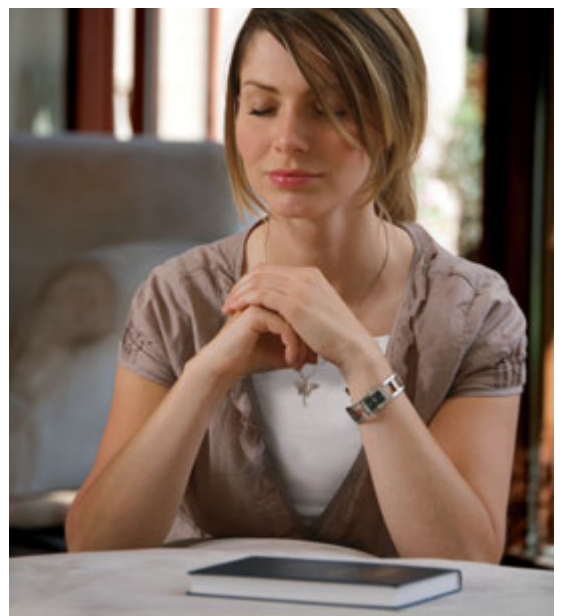
剣に受け止めました。妻はそのとおり実行し、モルモン書が真実であることを知りました。そのときの感情はとても強く、読みながら、これから救い主に永遠に従おうと決心したのです。それ以来妻は、そのときの気持ちにずっと忠実です。

3. 実践して知る。あなたは、この書物が教えることをただ行うことによって分かる人かもしれません。ある人たちは、行うことで証を得ます（ヨハネ7：17 参照）。モルモン書に登場する預言者ニーファイはこの原則をよく理解していました。「主なる贖い主を信じるようさらに十分に勧めるために、……すべての聖文を自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益となり、知識となるようにするためであった」と書いています（1 ニーファイ 19：23；強調付加）。モルモン書の教えを自分たちの生活に当てはめる、つまり生活で実践することによって、これが神から来たものであることを知ることができるでしょう。

4. 神に尋ねて知る。あなたは、モルモン書を読み、その後この書物が真実かどうか祈って天の御父に尋ねることで分かる人かもしれません。わたしがそうでした。モルモン書のもう一人の預言者モロナイはすばらしい約束を与えています。「見よ、わたしはあなたがたに勧めたい。……あなたがたはこれを読むときに、……これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてください。」（モロナイ 10：3 - 4）モロナイの教えに従ってモルモン書を読み、それについて祈るならば、その書物が真実のものであることが分かるようになることを証します。

分かるようになるという神の約束

もしほんとうに知りたいのであれば、モルモン書が真実であることが分かるようになるで



モロナイの約束

モルモン書の最後に、モロナイという名の預言者の約束があります。モルモン書を読むとき、心の中でそのメッセージについてよく考え、それが真実かどうか祈って神に尋ねるならば、神は聖霊の力を通して答えてくださる、という約束です（モロナイ 10：3 参照）。

個人の啓示はあくまで個人的なものです。主の御心xに応じて、わたしたち一人一人にそれぞれ違った方法で、異なった時に与えられます。これから挙げる原則を理解するならば、これを自分で知ることができるようになるでしょう。

1. 考える

モロナイは、祈るよう勧める前に、深く考えるようにとっています。深く考えるとは、心の奥底で思い巡らすということです。次のように自問してください。モルモン書を読むとき、どのような気持ちになっているだろうか。どうしてそのように感じるのだろうか。何を学んだだろうか。それは良いことだろうか。

主はこの原則をオリバー・カウドリに教えられました。「あなたはわたしに求めさえすれば、何も考えなくてもわたしから与えられると思ってきた。しかし見よ、わたしはあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならぬ。」（教義と聖約 9：7－8 強調付加）

2. 熱心に祈る

考えをまとめたり、聖霊の静かな答えを聴くために神経を集中するには精神的努力が必要です。モルモン書に出てくるエノスが祈りを「神の前〔の〕……苦闘」と言った理由は一部そこにあるのでしょう（エノス 1：2）。

読み、深く考え、祈るとき、できるだけ気が散らない時間と場所を見つけてください。集中しやすい姿勢を見つけてください。声に出して祈ると、考えを集中しやすくなります。

3. 正しい質問をする

主はオリバー・カウドリにただ聞くのではなく、自分の考えていることが正しいかどうか尋ねるように言われました。特に天の御父から答えを受けることに慣れていないときには、単なる「はい」か「いいえ」を聞く質問に対する答えの方が理解しやすいことがよくあります。

「よりよい祈りへの鍵は、正しい質問ができるようになることです」と十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は教えています。¹

4. どんな決意をしているか

モロナイの約束を実現に導く鍵の一つは、祈りの答えに従うという「固い決意をもって」尋ねることです。14歳のジョセフ・スミスが森に行き行って祈ったときのことを大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は次のように語りました。「ジョセフ・スミスはただ単に……聞くだけでなく、それに従うつもりで祈りました。……その忠実さのゆえに、それからの日々、年々歳々、彼の祈りは光と真理が洪水のように注ぎ込まれることによってこたえられました。」²

5. 見逃さない

啓示とは華々しいものばかりではありません。夢や示現、天使の訪れを受ける人はいます。しかし、多くの人が経験するのは、温かく平安な感情といった静かで捕らえにくいものです。

「目を見張るようなことを期待していると、絶えず与えられているにもかかわらずその交信を感知することができません」と第12代大管長であるスペンサー・W・キンボール大管長（1895－1985年）は教えています。³

注

1. リチャード・G・スコット「祈りという天与の賜物を用いる」『リアホナ』2007年5月号、8
2. ヘンリー・B・アイリング「祈り」『リアホナ』2002年1月号、18
3. 『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』241



預言者の証

「モルモン書は神の言葉です。このすばらしい記録を読むことをお勧めします。現存する中で最も優れた

書物です。丹念に、祈りをもって読んでください。そうするならば、モロナイが約束したように、神はそれが真実であるという証を与えてくださいます。」（モロナイ 10：4 参照）

ハワード・W・ハンター大管長
（1907－1995年）
The Teachings of Howard W. Hunter,
クライド・J・ウィリアムズ編（1997年）、54



預言者の証

「わたしは主から〔モルモン書を含む回復〕が真実であることに関して最も強い啓示を受けた者です。この

明らかにされたことは何時間も強くわたしの心にとどまりました。そして、人生でどのような状況に陥ろうとも、この記憶がある限りこの完全な知識がわたしからなくなることはありません。」

ロレンゾ・スノー大管長
（1814－1901年）
Conference Report, 1900年10月、61

しょう。神は、心から真理を求める人にはそれが分かるかと約束されました。神は「真理の神であり、偽りを言われることはありません」(エテル 3:12)。

また、モルモン書に登場する別の預言者アルマは、神が次のように約束なさったことを息子に教えました。「神は、御自分の力を後の時代の人々に示せるように、御自分の内にある賢明な目的のために〔この書物〕を守ろうと、わたしたちの先祖に約束された。さて見よ、神はすでに一つの目的を達せられた。何千人ものレーマン人が再び真理を知るようになったのである。そして、神はこれらの記録によって御自分の力を示された。神はまた後の時代の人々にも、これらの記録によって御自分の力を示されるであろう。そのために、〔この書物〕は残される。」(アルマ 37:18 - 19)

同じ確信を得させる力が、この1冊の聖典の中にあります。そして主は、心から知りたいと

望む人にはだれにでもそれを示してください。わたしが教会について学んでいたときを振り返って、確信をもってそう言うことができます。モルモン書には確信を得させる力があるので、今日わたしは、モルモン書が神の言葉であり、イエスがキリストであり聖なるメシヤであることを証します。この書物は、主の福音が確かに回復されたことと、ジョセフ・スミスが神の預言者であるということの目に見える証拠なのです。

もしあなたが心から真理を求めている人であれば、真理を知るようになると主は約束しておられます。あなたはこの書物の教えを聞くだけで真理を知ることができるかもしれませんが、あるいはこの書物を読むことによって、その教えを実践することによって、この書物が真実かどうか祈ることによって、または、これらの方法を組み合わせることによって分かるかもしれません。あなたはとにかく知るようになるのです。■

わたしはこうして知りました

わたしは9歳でバプテスマを受けましたが、家族は活発な教会員ではありませんでした。しかし13歳のとき、宣教師に誘われて教会に行きました。セミナリーにも出席しました。そのときの教科課程は教義と聖約で、わたしには分かりにくいコースでした。特に分かりにくかったのはジョセフ・スミスとモルモン書でした。神を見たいと思いましたが、どうすればいいのか、どこでそれができるのか分かりませんでした。

それからしばらく、わたしは宣教師と交わした会話についてずいぶん考えました。セミナリーのことを考えました。ほかのキリスト教会の人と話したことについても考えました。時々何が正しいのか知るために祈りましたが、それは真剣な問いというより一時的な思いつきのようなものでした。そしてある晩、「固い決意をもって」祈ろうと決心したのです。

わたしは、自分が御父を知りたいと願っていること、そして、まことの教会の一員になりたいと思っていることを天の御父に伝えました。「もしジョセフ・スミスが真の預言者で、モル

モン書が真実であることをわたしに知らせてくださるのでしたら、御父が望まれることは何でもいたします。もし末日聖徒イエス・キリスト教会がまことの教会であるなら、教会の教えに従い、決して教会を離れません。」

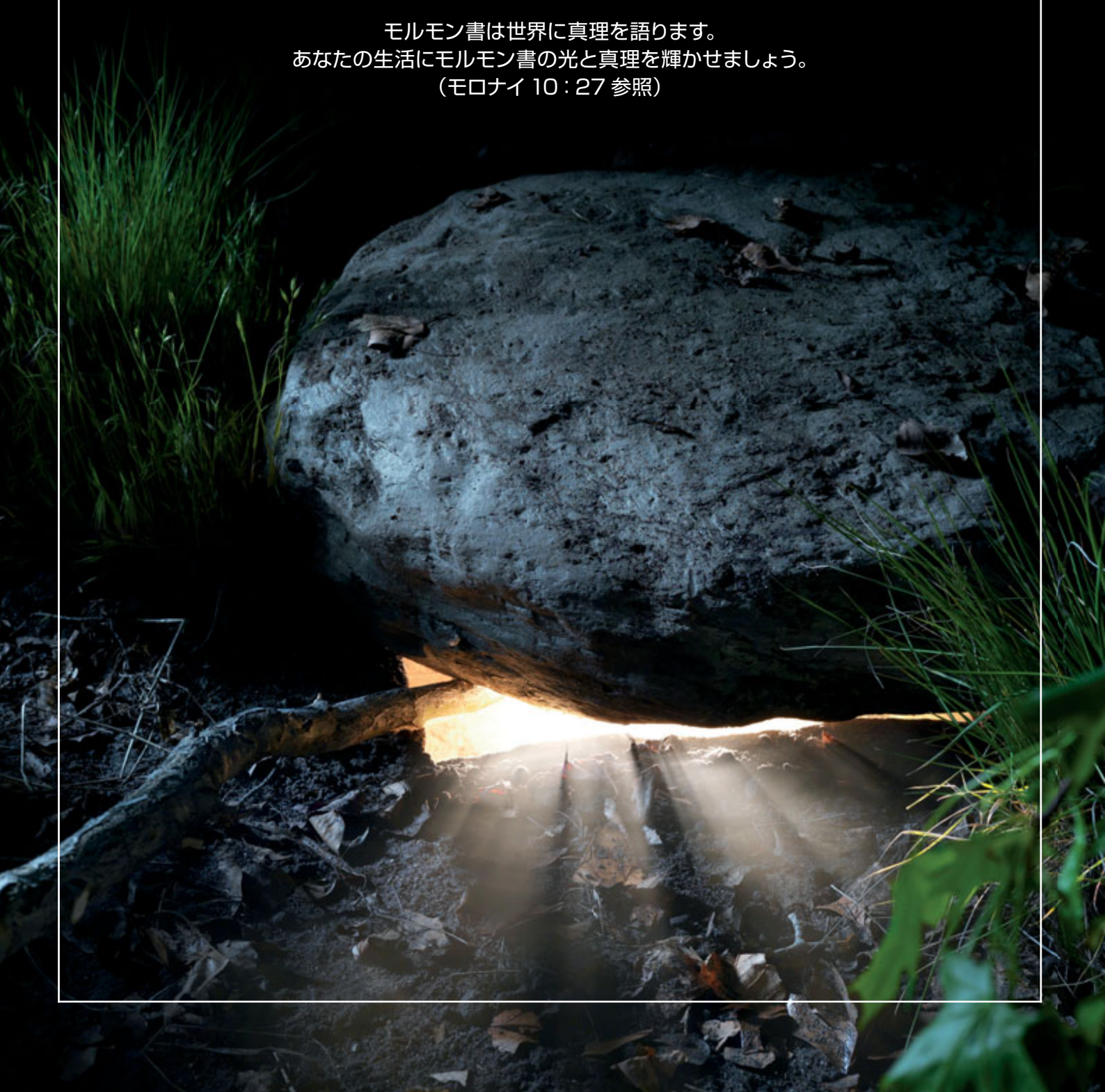
強烈な示現は何もありませんでしたが、わたしは平安を感じて床に入りました。数時間後に目を覚ましたとき、わたしにははっきりと分かりました。「ジョセフ・スミスは真の預言者である。モルモン書は真実だ」という思いです。そして信じられないほどの平安を感じました。そしてまた眠りに就きました。その後目覚めたときにも、まったく同じ思いがあり、同じ気持ちを感じました。

そのとき以来、ジョセフ・スミスがまことの預言者であることを疑ったことは一度もありません。これが救い主の業であることを知っています。天の御父がわたしたちの真心からの願いにこたえてくださることを知っています。

ドルフォ・アルマンド・ベレス・ボニリヤ(エルサルバドル)

地の中から語る 声

モルモン書は世界に真理を語ります。
あなたの生活にモルモン書の光と真理を輝かせましょう。
(モロナイ 10 : 27 参照)



心に 燃える火

エドゥアルドにとって、
字を読めるようになった日が
モルモン書とその力について
証を得た日でした。



妻のマリアと写真に収まるエドゥアルド・コントレラス。
彼にとってモルモン書は読む能力への扉でした。
「モルモン書を開いて読む度に御霊を感じます」と彼は言います。

教会機関誌

マイケル・R・モリス

「『ひとかどの人物になりたかったら、字が読めな
きゃだめだ』と祖父はよく言っていました。
祖父は間違っていないでした。」 こう話す
のはエドゥアルド・コントレラスです。

しかし、エドゥアルドにとって、字が読めるようになるまで
は長い道のりでした。アルゼンチンのコルドバ市で5人きよ
うだいの一人として、夫を亡くした母親に育てられました。
8歳で学校を辞め、家族を支えるために働きに出ました。

「とても貧乏でした」とエドゥアルドは当時を振り返って
言います。生計を立てるために靴磨き、レンガ作り、ジャガ
イモの収穫、新聞売り、その他の雑多な仕事をし、青年に
なってようやく市役所で正規職員の職を見つけました。

年月がたって結婚し、エドゥアルドは自分の家庭を構える
ようになりました。5人の子供のほとんどが家を出る年にな
っても、彼はまだ字を読むことができず、読めるようにな
るとも思っていないでした。しかしある日、それが変わった
のです。家の前で二人の末日聖徒の宣教師に汚い言葉を
投げかけていた数人の近所の少年を追い払い、宣教師を中
に招き入れました。程なくして、彼は妻のマリアとともに
レッスンを受けるようになりました。

「宣教師たちはほとんどスペイン語が話せなかったので、
何を言っているのかなか理解できませんでした。でも
彼らは、救い主と、聖なる森にいるジョセフ・スミスの写真
が載っているパンフレットを見せてくれました。見せてくれ
た写真は美しく、彼らの教えもすばらしいと思いました。」

その後すぐ別の宣教師に代わり、一人はスペイン語を母
国語とする人でした。数年前に生まれて間もない娘を亡くし
ていたエドゥアルドとマリアは、「家族は永遠に」という教
会のビデオを見て感動し、その後すぐにいちばん下の息子オ
スパルドとバプテスマを受けたのです。

1987年にバプテスマを受けたとき、モルモン書を読んで
証を強めたいという望みがエドゥアルドに芽生えました。
「どうやったら読めるようになるだろうか」と妻に聞きました。
マリアは夫に、文字を見たらそれを頭の中で一つにまとめ
て、それから声に出して読んでみるよう言いました。練習す
れば必ず最後には読めるようになるかと断言したのです。

そのときエドゥアルドは45歳でした。読み方の分かる文
字はたくさんありましたが、40年近く前に学校を辞めてか
ら読んでみようと思ったことはありませんでした。



靈感と力の源

「皆さんにとってモルモン書はどのような意味を持っていますか。人生における靈感と力の源となっていましたか。これからもそうですか。」

もしまだ純粋な真理の泉から十分に飲んだことがないのなら、今、実行するよう心からお勧めします。怠ることなくいつもモルモン書の研究をしよう、と思うだけで一度もきちんと実行できなかったことがない、などということのないようにしてください。今日、始めてください。」

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老
“The Power of the Book of Mormon in My Life,”
Ensign, 1984年10月号, 11

火が燃えるのを感じました

ある夏の暑い日に裏庭の日陰に腰を下ろし、心の中で祈りながら言いました。「よし、やってみるぞ。」

マリアはそれから何が起こるのか、とても想像できなかったと言います。エドゥアルドはアルファベットを一つずつ声に出し、次に単語として読もうとしていました。彼女は台所で仕事をしながら、途切れ途切れに聞こえてくるその声に耳をそばだてていました。「突然、彼の読み方が速くなったんです。わたしは耳を澄ませて聞きました。そして彼が読んでいるのだと分かりました。それも流暢に。30分もたっていないのに、彼は読んでいたんです！」

エドゥアルドはあまりに一生懸命読もうとしすぎて、自分が読んでいることに気がつかなかったのです。「読んでいるとき、心の中で火が燃えているのを感じました。」そのときのことを彼はこう話しています。突然のことに怖くなって、彼は妻を呼びました。「マミ、ほくは一体どうなっているんだ？」

「それは主の御霊よ。」マリアは答えました。「あなた、上手に読んでいるわ！」

そのときの経験を振り返り、マリアは言います。「主の御霊の助けがあったことは否定できません。」

エドゥアルドも「字を読むことを覚えたその日は、わたしがモルモン書とその力について証を得た日でもありました」と語ります。

それ以来、エドゥアルドは朝4時に起き、仕事に出かける前にモルモン書を読むようになりました。次に教義と聖約、そして聖書を読みました。1987年までほとんど本などなかったコントラス家でしたが、今では本棚が家を飾っています。

エドゥアルドとマリアの福音の知識が増すに伴い、証も増していきました。2001年に息子のオスバルドが交通事故に遭い、その後亡くなりました。しかし、自らの証と、祈りの中や、息子オスバルドが結び固められたアルゼンチン・ブエノスアイレス神殿の中で受けた力強い霊的な経験に助けられて、二人は息子の死に立ち向かうことができました。

エドゥアルドは言います。「そんなとき、半狂乱になる親もいることでしょう。でもわたしたちは、『あなたの息子は大丈夫です』と語りかける静かな声に穏やかな気持ちにな

りました。もちろん、泣きましたよ。良い息子でしたから寂しいです。でもわたしたちは神殿で結び固められていて、彼がどこにいるのか知っていますから。」

読み書きの能力が持つ光

ワードの会員が教えてくれたおかげで、エドゥアルドは書くこともできるようになりました。「以前は署名することすらできなかったのです」と彼は言います。

読み書きの能力が持つ光により、エドゥアルドは祖父の言葉が正しいことが分かるようになりました。

「わたしたちが地上にいるのは、毎日少しずつ成長するためです」と彼は言います。読み書きを勉強することで、学び、向上し、神が望んでおられる人物になるのに遅すぎることはないことを子供や孫に見せている、とも話してくれました。「字が読めるので、毎日何かしら新しいことを学んでいます。」

今コントラス兄弟は読みたいものは何でも読むことができます。子供のころ、字が読めないまま売っていた新聞も今は読めるのです。聖典、特にモルモン書は今でも彼の好きな書物です。これまで8回読み通しました。

コントラス兄弟は「モルモン書はわたしにとって扉でした」と言い、読み書きができるようになったことと福音が人生を変えたことに今でも感謝しています。「モルモン書はわたしにとってすべてです。ほんとうにすべてなのです。モルモン書を開いて読む度に御霊を感じます。」■

どこに答えがあるのでしょうか

わたしが21歳のころに住んでいたロシアのある地域では、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師が英語教室を開いていました。最初、わたしは英語を学ぶために足を運んでいましたが、間もなく授業の後も残って長老たちの霊的な話を聞き質問をするようになりました。

わたしは自分の国の一般的な宗教の中で育ちましたが、まだ答えを知らない宗教上の疑問がたくさんありました。宣教師や教会の会員たちは、それまでだれからも満足 of いく答えを得られなかった数々の疑問に対する答えを知っていました。

ある日、英語の授業が終わるとわたしは思い切って宣教師に、教会の書籍、つまりモルモン書が欲しいと申し出ました。しかし、家に帰ると読まずに棚に置きました。

しかし、棚に長く置いたままにはなりませんでした。英語の授業に出席していた教会員から、聖典の中に様々な問題の解決策があると聞いていたからです。それからは困難や問題にぶつかると、わたしはモルモン書を棚から引っ張り出して読むようになりました。常に答えが見つかりました。まさにわたしが知りたかったことを教えてくれたのです。

そのとき、わたしは教会なしには生きていけないと感じ始めました。教会は自分がいたい場所であり、自分の居場所であるように思っただけです。

それでもなお、神に尋ねることにより確信を得たいと思いました。問題は、1部屋しかない小さなアパートに年老いた家主の女性と同居していた



ある夜、わたしは部屋から少し隔てられた台所にそっと行き、この教会が真実かどうかを天の御父に尋ねました。

ため、独りきりになって祈れるような場所がないことでした。しかし、ある夜わたしは部屋から少し隔てられた台所にそっと行き、この教会が真実かどうかを天の御父に尋ねました。すると、何をすべきか自分は知っている、という非常に強い気持ちを感じました。

程なくわたしはバプテスマを受けました。以来、教会員として過ごす日々は、わたしの人生の中で最も幸せなと

きとなっています。以前は疑問がありましたが、今は答えがあります。以前はむなしかったわたしが、今は満ち足りています。

天の御父が答えのないままわたしたちをほうっておかれなかったことに感謝します。天の御父が祈りと聖文の両方を通してわたしたちに語りかけられることを知っています。■

オルガ・オフチャレンコ
(ロシア、スヴェルドロフスク州)

心の内が燃えました

わたしは子供のころ、アメリカ合衆国ミシガン州の家の隣にあった教会の日曜学校に通いながら育ちました。イエス・キリストに対する愛でわたしを満たしてくれる、すばらしい先生に教えてもらいました。

先生は毎週、救い主が地上で務めを果たされている間に起こった様々な出来事を描いたカードを配ってくれました。イエスがお教えになった原則やイエスが起こされた奇跡などが描かれていました。毎週わたしはそのカードをスクラップブックにはり、お話を今度は聖書から読みました。大きくなると、新約聖書から引き続き福音を学びました。

何年もたった1968年の夏、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師がわたしの家族の家を訪れました。家族は教会について学ばないかという長老の誘いを断りましたが、宣教師をわたしの家に送ってくれました。

最初のレッスンで、イエス・キリストが設立された教会からの「背教」が起こったと宣教師から教わりました(2テサロニケ2:3参照)。宣教師が教えてくれた内容はわたしが個人的に研究していた内容と一致していたため、もう一度訪問してよいかという宣教師の問いにわたしは同意しました。

次に宣教師が我が家を訪れたとき、わたしは幾つもの質問をしました。末日聖徒は水に沈めるバプテスマを行うのか。末日聖徒は神権の権能を信じているのか。末日聖徒は病人の癒しを信じているのか。宣教師の答えは、わたしが新約聖書から学んだ内容を立証するものでした。訪問の終わりに、宣教師はある本を置いていきま^{あかし}した。イエス・キリストについて証している本だと宣教師は言いました。

わたしはその本をテレビの上に置き、寝ました。しかし、真夜中に強い気持ちを感じて目が覚めました。後から、それが聖霊であったと知りました。その本を読み始めるべきだという促しを感じたので、1時間半読んでからベッドに戻りました。少しすると、また同じ気持ちを感じて目が覚め、さらに読み進めました。

この一連の出来事がその後2晩続きました。わたしはモルモン書の内容が大変気に入る、モルモン書がイエス・キリストについて証する書物であることが分かりました。

わたしは導きを神に願い求めることにしました。生まれて初めて、わたしはひざまずいて祈りました。心を感じる、この燃えるような思いにどう対処すべきか教えてほしいと天の御父に願い求めました。祈り終わると、わたしは第三ニーファイ第9章に記されているレーマン人の改宗の話をもう一度読むべきだと感じました。そこには、次のように書かれていました。レーマン人は、「火と聖霊によるバプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らなかった。」(20節)

「彼らはそれを知らなかった」という部分がわたしに語りかけ、わたしは「イエス・キリストの教会がほんとうに地上に存在するんだわ」と思いました。わたしは読んだ内容と自分が知ったことを宣教師に話したくてたまらなくなりました。でも、宣教師がわたしの質問に答えバプテスマを受けるよう招くと、わたしは「受けられない」と言いました。夫の理解が得られないと思ったのです。

ところが、その節についてずっと考えているうちに、「打ち砕かれた心と悔いる霊」という犠牲をささげるべきだというわたしへの明確な

指示がその聖句に含まれていることに気づきました。わたしは天の御父に祈り、助けを求めました。すると、天の御父は助けてくださいました。夫は宣教師のレッスンを聞いた後、わたしがバプテスマを受けることに同意してくれたのです。

若い母親であるわたしが、モルモン書を読んでこの尊く力強い経験ができたことを、愛に満ちた天の御父に言い尽くせないほど感謝しています。この経験によりわたしは回復されたイエス・キリストの福音に導かれました。その結果、1968年の夜に感じた聖霊の影響力は、今では常にわたしとともにある賜物^{たまもの}となりました。その賜物こそ、教会員として過ごした40年以上もの間わたしを導いてきてくれたものです。■

クラウディア・ウィリアムズ
(アメリカ合衆国、フロリダ州)

わたしはその本をテレビの上に置き、寝ました。しかし真夜中に、その本を読み始めるべきだという促しを感じました。



モルモン書が語りかけてきたのです

末の子供のアマンダは、2歳のときに白血病だと診断されました。難しい症例で、化学療法をしても癌は寛解しませんでした。そこで、骨髄移植を受けなければならなくなりました。

9月から1月上旬までの間、夫と二人の息子はユタ州の自宅に残り、わたしはアマンダと別の州で過ごしました。家族でクリスマスを過ごすことはできませんでしたが、追加治療が終わるとわたしたちは自宅に戻りました。

帰宅して初めて検診のために病院に行く時、医師はまたアマンダの血液中に白血病細胞を見つけました。移植が失敗したのです。知らせを聞いて、わたしは奈落の底へ突き落とされたような気持ちになりました。家族はこれまで非常に心配し、苦勞し、離れて暮らし、つらい時期を過ごしてきました。それにもかかわらず、今娘を失おうとしているのです。

その午後、わたしは二人の息子の

待つ自宅に戻りました。夫が仕事から戻って来るのを待っている間、わたしたちはモルモン書を取り出して読み始めました。ちょうどニーファイ第二書の第9章を読んでいるところでした。読んでみると、次の言葉がわたしに語りかけてきました——

「わたしがこれらのことをあなたに話すのは、主なる神があなたがたの子孫に授けられる祝福のことで、あなたがたが喜びを味わい、とこしえに頭を上げていられるようにするためである。

わたしはあなたがたが、すなわちあなたがたの多くが将来のことを知ろうとして、大いに探し求めてきたことを知っている。その結果わたしに分かるのは、わたしたちの肉体は必ず衰えて死ぬけれども、将来わたしたちが肉体にあって神にまみえることを、あなたがたが知っているということである。……

死がすべての人に及ぶようになった

ので、大いなる創造主の憐れみに満ちた計画を成就するためには、復活の力が必ずなければならない。……

おお、神の慈しみの何と深いことか。わたしたちがこの恐ろしい怪物に捕まらないように、神は逃れる道を備えてくださっている。まことに、その恐ろしい怪物とは死……であ[る]。……

神は、神の声に聞き従うすべての人を救うために、この世に来られる。見よ、神はすべての人の苦痛、まことに男女、子供の区別なく、アダムの家族に属する、生けるものすべての苦痛を受けられる。

神がこれを受けられるのは、復活がすべての人に及び、大いなる裁きの日に、すべての人が神の御前に立つようにするためである。」(2 ニーファイ 9:3-4, 6, 10, 21-22)

これらの言葉を読んでいるうちに、聖霊が部屋に満ちました。わたしは、その日わたしがどんな知らせを聞かされたかを天の御父は御存じであると感じました。預言者ヤコブが2,000年以上前に書き記した言葉が、その日の自分のために書かれ、救い主から直接与えられたものだと感じたのです。救い主は、娘が死んでしまうと聞かされてわたしが感じた苦痛や悲しみを御存じでした。そして、傍らでわたしたち家族を慰めてくださいました。いつの日か復活の力を通して「肉体にあって神にまみえる」ことができるよう主は道を備えてくださったという主の約束により、慰めてくださったのです。

アマンダはそれからおよそ1年生きましたが、わたしはモルモン書の言葉が自分の必要にこたえてわたしに語りかけ、主が希望と慰め、主の計画への理解をわたしに与えてくださった日のことを忘れたことはありません。■

ジーナ・ベアード (アメリカ合衆国, ユタ州)

この言葉を
読んでいるうちに、
聖霊が部屋に
満ちました。
わたしは、
その日わたしが
どんな知らせを
聞かされたかを
天の御父は
御存じである
と感じました。



モロナイの約束を 試してみました

数年前、ある身なりの良い二人の若い男性に友人の家で出会いました。二人は末日聖徒の宣教師だと名乗りました。救い主をすでに信じている人たちが改宗させるためにわざわざイタリアまで来るなんて、変わった人たちだと思いました。

後でわたしは自宅に彼らを招きました。「もしよければ、文化交流のために我が家に来てください」とわたしは言いました。「でも、宗教を変えるつもりはありませんから。」

次の夜会うと、宣教師はモルモン書について話しました。わたしは、今までにモルモン書のことを聞いたことがないのは不思議だと思いました。わたしはまた来るよう誘いましたが、2回目の訪問以降、妻のアンナ・マリアは「あの二人は変だ」と言いレッスンの間家を出ることにしました。わたしも宣教師はどこか普通ではないと思いました。宣教師の話に興味があったので会い続けました。

ある晩、宣教師と永遠の結婚について話しているところにアンナ・マリアが帰って来ました。妻はわたしたちの話を聞いてとても興味を持ち、また一緒にレッスンを聞くことにしました。アンナ・マリアは聖典について豊かな知識を持っており、いつもたくさんの質問をしました。長老たちが質問にすぐに答えられることもありました。家に帰って調べなければならないこともありました。毎週、長老たちは必ず答えを携えてやって来ては、アンナ・マリアがまたほかの質問をたくさんするのでした。

レッスンは終わって間もなく、アンナ・マリアは驚いたことにバプテスマ



わたしは天の御父に尋ねました。「モルモン書は真実ですか。もし真実ならいつバプテスマを受けるべきですか。」

の許可をわたしに求めました。彼女が心から改心したのであれば反対しないとわたしは言いました。1995年3月5日、わたしは彼女のバプテスマ会に出席し、そこですばらしい気持ちを味わいました。

わたしは教会についての書物を幅広く読み続け、宣教師はわたしを励まし続けてくれました。ついにわたしはモロナイの約束を試すことにしました（モロナイ10：4-5参照）。モルモン書が神から来たものなのか、それともただの小説なのかを知りたいと思ったのです。

1995年6月のある日、家に独りでいたときに、ベッドの足もとにひざまずき天の御父に尋ねました。「モルモン書は真実ですか。もし真実ならいつバプテスマを受けるべきですか。」突然、心と思いにこう告げる声をはっきりと感じました。「モルモン書は真実です。」そして、バプテスマを受けるべき時がはっきりと分かりました。1週間後にもう一度祈ると、

同じ答えが返ってきました。わたしの心は喜びでいっぱいになりました。神がわたしに語りかけてくださったのだとそのとき分かりました。モルモン書は神の靈感による書物であり、ジョセフ・スミスは真実の預言者だと語りかけてくださったのです。

ついに、1995年9月17日、わたしはバプテスマの水に入りました。宣教師と初めて会ってから1年半後のことでした。間もなく、娘のアバ・キアラも教会に関心を持つようになりバプテスマを受けました。1997年1月、わたしたち家族はスイス・ベルン神殿で結び固められました。

わたしたちは、この教会が預言者と神権を通してイエス・キリストにより統治されている真実の教会だと知っています。わたしたちは主の愛に感謝しています。宣教師のもとにわたしたちを導き、福音の知識を授けてくださったことを主に感謝しています。■

フランチェスコ・フェラレーシ
(イタリア、ロンバルディア)

あらゆる国語の民、 民族に

教会機関誌

ライア・マクラナハン

モルモン書の預言者アルマは、民の記録を息子ヒラマンに託したとき、主は「ある賢明な目的」があってその記録を残されるということを知っておくよう息子に命じました（アルマ 37:12）。アルマはその記録について次のように語っています。「この版はあらゆる国民、部族、国語の民、民族に明らかに示され……るようになるときまで、……代々保存され、伝えられ、……残されることになっている。」（アルマ 37:4）

1827年、ジョセフ・スミスは、それらの記録を手にし、1829年までに神の賜物と力によって英語に翻訳しました。この書物は、1830年に出版され、イエス・キリストの福音が真実であることを読者に確信させる力強い

伝道の道具となりました。第1刷は5,000部出版されましたが、当時、モルモン書を「あらゆる国民、部族、国語の民、民族」に伝えるのは、まだ遠い先のことのように思われたかもしれません。

それでも、1833年、主はジョセフ・スミスにこの預言を改めて確認され、「すべての人が自分の言葉と自分の言語で完全な福音を聞く」日を予告されました（教義と聖約 90:11）。モルモン書は、「……イエス・キリストの完全な福音が載って」おり、この預言を成就するに当たって中心的な役割を担っています（教義と聖約 20:9）。

1800年代中期、宣教師は福音をヨーロッパへと携えて行きました。1851年にモルモン書のデンマーク語版が出版され、それに続いて、



モルモン書の第1刷は
5,000部出版されました

1852年には、フランス語版、ドイツ語版、イタリア語版、ウェールズ語版が出ました。今日、完訳のモルモン書は82の言語、抜粋版は25の言語で入手可能になっています。すべての人が自分の言葉で福音を聞くという預言は、翻訳と伝道の業が前進するのに伴い、年を追うごとに成就しています。

翻訳の業

モルモン書を英語から新たな言語に翻訳し終えるまでに、何年もかかることがあ

ります。この作業過程は、大管長会と十二使徒定員会から企画の承認を受け、該当する言語を母国語とし、翻訳者として奉仕することのできる十分な数のメンバーがそろわなければ始まりません。翻訳者と校正者は細かい指針を与えられ、御霊を受けやすい状態を保ちながら翻訳するように指導を受けます。翻訳が終了すると、原稿は教会的な観点から個別の校正過程を踏みます。

出版後、会員は配送センターを通して新版を注文することができます。これらの会員の中には、以前は、自分の言語で書かれたモルモン書の抜粋版しか持っていなかったという人が大勢います。また、宣教師の話しか聞いたことがないという人もいます。

モルモン書と伝道の業

ある地域で伝道の業が開始された場合、言語の壁が大きな問題になることがあります。その地域の言語で印刷された教会の資料がなければ、宣教師はその言葉を学び、御霊によって証しなければなりません。世界には、第2言語を話す人が大勢いる地域もあり、そのような場合、宣教師はその第2言語で書かれたモルモン書を渡



預言者の証

「モルモン書は100年以上の間、わたしたちの前に存在し、様々な理由であざけられてきたにもかかわらず、その間ずっと試しに耐えてきました。主の助けがなくては、だれもこのような書物を世に出すことはできなかったことを、なぜ知性ある人々が考えられないのか、わたしには理解できません。ジョセフ・スミスが主の手に使われて翻訳したその書物は、今日燦然と輝きを放っています。今日、それはこの福音を宣べ伝えるための最も偉大な宣教師です。モルモン書に比べられるものはほかにありません。」

ヒーバー・J・グラント大管長
(1856 - 1945年)
Gospel Standards,
G. ホーマー・ダーハム編
(1941年), 15

することができます。例えば、モルモン書がモンゴル語に翻訳される前、モンゴルの会員の多くはロシア語版を研究していました。

しかし、福音は、分かりやすく慣れ親しんでいる母国語で学ぶとき、最もよく理解することができます。エリック・ジェメルは、2001年から2003年までスロベニア・リュブリャナ伝道部で伝道しましたが、会員や求道者が母国語のモルモン書を持つことで大きな違いが生まれることを、目の当たりにしました。伝道に出て最初の1年半、スロベニア語のモルモン書が出版されていないからです。

伝道は大変でした。教会の最初の支部が開設されて、わずか10年しかたっていないからでした。当時、スロベニアは独立を果たしたばかりで、それ以前の国語であるセルビア・クロアチア語の使用を廃止しようとしているところでした。宣教師は学校でも教えられているセルビア・クロアチア語と英語で書かれたモルモン書を携えていました。しかし、モルモン書を受け取ってもらえないことがよくありました。どちらの言語も理解できなかったからです。モルモン書が大切で素晴らしい書物であることを証しながらも、彼らの言語で書かれたモルモン

書がないことを告げなければならぬときのむなしい気持ちをエリックは今も覚えています。

エリックが帰還する6か月前に、スロベニア語のモルモン書を積んだ最初の船荷が到着しました。支部では集会が開かれ、会員と宣教師はそれぞれ1冊ずつモルモン書を渡されました。「その場には特別な御霊がありました。」エリックはそう思い返します。そのように貴重、待ちに待った書物を手にしたときの気持ちを、「金版そのものを手にしたようだった」と記録しています。集会后、宣教師は残りのモルモン書を伝道に使うために



翻訳が進められる中で、全世界の会員は、スロベニアのリー・ロトリックやフローラ・ロトリックのように、母国語で書かれたモルモン書を初めて手にする喜びを味わっています。



預言者の証

「モルモン書には力があって、真剣に読み始めるやいなやその力は読む者の人生に流れ込み、誘惑に打ち勝つ力となります。またそれは欺きを避ける力となり、細くて狭い道にとどまる力となります。」

エズラ・タフト・ベンソン大管長
(1899 - 1994年)
「モルモン経——
私たちの宗教のかなめ石」
『リアホナ』1987年1月号, 6参照

翻訳の完了後、その言語を
母国語とする教会員に、
原稿を校正してもらいます。
左から——

グアテマラのコバンで
ケクチ語版モルモン書の
校正を行う
ウォルター・バリラス・ソト、
マイク・ベック、
スレニー・ルビー・ククル・シエラ、
ジョン・プリングハースト、
ジョセフィーナ・ククル・ティウル。

持って行きました。エリックと同僚は、胸の高鳴る思いで、アパートに戻ると、箱を開け、モルモン書を部屋中に広げ、その出来事を記念して写真を撮りました。宣教師は一刻も早くこの書物の人々と分かち合いたいと思いました。スロベニア語のモルモン書を手にしたことで、宣教師は人々に対してより効果的な働きかけができるようになりました。しかし、それだけではありませんでした。教会に活発でなく、何年も教会に来ていなかった会員の証を再び燃え立たせるための方法も与えられたのです。

帰還する前の6か月で、エリックはスロベニアの会員の証がすばらしい勢いで成長するのを目の当たりにしました。彼は次のように語っています。「母国語で書かれたモルモン書を手にしたとき、彼らはこの書物をほん

とよく理解しました。内容が心の奥底までしみ渡ったのです。」以前は、教会の集会で、話者や教師がセルビア・クロアチア語で聖文を読んだときは、だれかに通訳してもらったり、言葉の一部を説明してもらったりしなければなりません。エリックはこう回想します。「外国語からの借り物の言葉に翻弄^{ほんろう}されているような気がしました。」モルモン書を母国語で読み始めた会員についてエリックは次のように述べています。「福音に対する彼らの理解は即座に深まりました。」

彼ら自身の言葉で

モジカ・ゼレスニカーは、スロベニア語のモルモン書がなかったころにスロベニアで教会に入った会員の一人です。宣教師の話聞き、クロアチア語と英語のモル

モン書を研究することによって福音の証を得ました。モジカは、スロベニア語の翻訳が完成したとき、翻訳された文章を読み、母国語の言葉が持つ力を感じました。彼女はこう回想しています。「真理がはっきりと分かりやすく、完全に純粋なままで、目の前に広がったように感じました。まるでわたしの言語、母が話してくれた言葉で救い主が語りかけてくださっているようでした。」

母国語のモルモン書を手にするとき、世界中の会員が同様の気持ちを経験しています。2003年、モルモン書がグアテマラとベリーズのマヤ族が話すケクチ語に翻訳された後で、翻訳者が何グループかの地元の会員とともに翻訳の校正を行いました。一人の翻訳者は次のように振り返ります。「わたしたちは開拓者の会員グループを、読み合わせのためセナウの集会所に集めました。文章を一つ一つ完成させていく中で、皆が敬虔^{けいけん}な気持ちになり沈黙が部屋全体に流れました。理解は完全でした。そして、力強い御霊^{みたま}がその場に注がれていました。それは神聖な経験でした。」

その集會に出席していた会員の一人エルビラ・ツイーは、ケクチ語版のモルモン書





預言者の証

「〔ジョセフ・スミスが〕神の賜物と力によってこの書物（モルモン書）を金版に刻まれた元の言語から、わたしたちが現在読んでいる言語に翻訳したことを知っています。この書物には永遠の福音が完全な形で収められています。モルモン書は人々を導いて真理の知識を得させます。それによって人々は救われ、神の前に連れ戻され、神の栄光と終わりのない命にあずかることができます。」

ジョセフ・F・スミス大管長（1838 - 1918年）
『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』、42 参照

によって、次世代の若者が数々の祝福を受けられることに感謝を表しています。この翻訳のおかげで若い会員は「主の言葉を完全に理解し、主が求めておられることを重んじる」ようになると彼女は語っています。

教会の会員にとって、自分の言語でモルモン書が研究できるということは、数えきれないほどの祝福を受けられるということです。大管長会はこう語っています。会員が「祈りの気持ちで聖文から学び、教えるとき、彼らの証は成長し、知識は増し、家族と周囲の人々に対する愛は広がり、人々に奉仕する能力は高まり、誘惑に打ち勝ち、真理と正義を守るためのより大きな力を授かることでしょう。」¹

広範囲に及ぶ祝福

モルモン書を研究する人は生活の中で豊かな祝福を受けます。その結果として、周囲の人とモルモン書を分かち合いたいという強い動機を抱くようになり、預言がさらに成就されるでしょう。会員と宣教師がイエス・キリストの証を一人一人と分かち合うことで、毎年約400万部のモルモン書が100以上の言語で全世界に届けられています。全世界にモルモン書が行き渡り、一人一人の生活が変わるとき、古代にアルマが語った「賢明な目的」が明らかにされていくのです。■

注

1. 大管長会の手紙、2008年10月15日付

利用可能な形式

モルモン書は印刷物以外の形式でも入手することができ、研究し学ぶための様々な方法が可能となっています。

インターネットおよび携帯版

現在、モルモン書はインターネット（scriptures.lds.org）や携帯機器（mobile.lds.org）で読むことができます。オンライン版は21の言語で利用することができ、間もなくさらに多くの言語が追加されます。オンライン上での相互参照や検索の機能によって、これまでとは違う方法による聖文研究が可能となり、新たな理解が得られるでしょう。

音声版

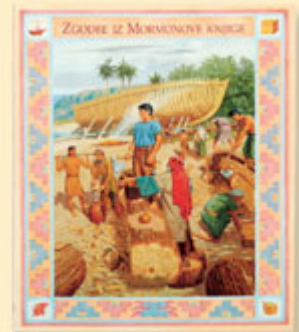
現在、英語、日本語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語でモルモン書の音声版があります。録音をscriptures.lds.orgから無料でダウンロードしたり、配送サービス（store.lds.org）を通じてCDを購入したりすることができます。カッチケル語、マム語、ナバホ語、キチエ語、ツオツイル語でオーディオ録音された抜粋版も入手することができます。ほかの言語でも音声版の制作が進行中です。



その他の版

色鮮やかなイラストと平易な言い回しを特徴とする『モルモン書ものがたり』は、読む能力を身に付けようとしている子供の視覚学習に重点を置き、現在、70以上の言語で印刷されています。『モルモン書ものがたり』のオンライン版は、scripturestories.lds.orgにアクセスすることによって、視聴することができます。

また、配送センターを通じて入手可能なものとして、アメリカ手話や大型活字版（英語、ポルトガル語、スペイン語）のDVDセット、および英語点字版があります。



モルモン書に関する よくある質問



モルモン書って何ですか、聖書と比べてどのような違いがありますか。

モルモン書は、聖書に似た聖典で、イエス・キリストを証するもう一つの書物です。¹ 聖書はおもに古代イスラエルの民の生活や教えを取めたものですが、モルモン書には、紀元前600年にエルサレムを脱出した一家をはじめアメリカ大陸にやって来たそのほかの集団が書き留めた記録が収められています。この人たちもまたイスラエルの家の末えいでした。このように、聖書とモルモン書は、書き留められた場所は異なるものの、同じ血統の人々によって書かれたものです。

聖書と同じく、モルモン書は単なる歴史書ではありません。モルモン書には、「イエス・キリストの完全な福音」(教義と聖約20:9)、すなわち、父なる神とその御子イエス・キリストを証する教えと教義、預言が記されています。

預言者ジョセフ・スミスは、モルモン書について次のように説明しています。「〔モルモン書は〕わたしたちに、救い主が復活後にこの大陸〔アメリカ大陸〕に御自身を現されたこと、またこの地に完全な福音を、そのあらゆる豊かさや力と祝福とともに確立されたことを告げています。また、この地に使徒、預言者、牧者、教師、祝福師がいて、東の大陸の

友達、家族、
教会にほんとうに
興味のある人、
あるいは
敵対心を持つ人など、
いろいろな人たちから
モルモン書について
質問を受けることが
あります。
以下にその答え方の
例を紹介します。



民が享受していたのと同じ秩序、同じ神権、同じ儀式、^{たまもの}賜物、力、祝福をこの地の民が得ていたこと、……民の中にいた預言者たちの最後の一人が、彼らの預言や歴史などを短くまとめたものを書き記して地中に隠すように命じられたこと、そして神の目的を成し遂げるために、それが終わりの時に出て来て聖書と一つになることを告げています。』²

教会員は聖書とモルモン書の両方を学びます。そして、日曜学校の教科課程の4年間のうち2年間は、聖書を学ぶことに充てられています(この件に関して詳しくは、本書の16、24、52ページ参照)。



モルモン書はだれが書いたのですか。

古代の預言者のニーファイ、ヤコブ、モルモン、モルモンの息子のモロナイなどがおもな筆者です。モルモンは、民の歴史や預言、教えについて預言者たちが残した記録を編さんし、抄録しました。また彼自身の体験も記録に残しています。モルモンは、金版として知られる金色をした金属板を束ねたものにその記録を彫り込みました。

モルモンの死後、モロナイがその記録を完成させ、わたしたちの時代まで保存するために、ある丘の地中にその記録を埋めました。1823年、モロナイは天使の姿でジョセフ・スミスに現れ、記録を埋めてある場所を教えしました。4年後、記録を掘り出すことを許されたジョセフ・スミスは、古代文字で書かれていたその記録を「神の賜物と力によって〔英語に〕翻訳し〔ました。〕」³そしてモルモン書を出版し、世に広めたのです（詳しくは、本書の22、72ページを参照）。

ほかに金版を見た人はいますか

元の記録の金版はどうなりましたか。

1827年9月にその金版を手に入れたジョセフ・スミスは、1829年の春までそれを手もとに置いていました。1838年に書いたジョセフ・スミス—歴史の中で、彼はその金版がどうなったかを説明しています。「そして、前もって定められたとおり、使者〔モロナイ〕がそれらを取りに来られたとき、わたしはそれらを使者に引き渡したのである。そして、千八百三十八年五月二日の今日まで、その使者がそれらを管理しておられる。」（ジョセフ・スミス—歴史1:60）

ほかに金版を見た人はいますか。

ジョセフ・スミスのほかに、数人の男女が金版を実際に見て、それが確かに存在することを証しています。特に3人の証人と8人の証人として知られる11人の人は、金版を見たという証を記録に残しています。さらに8人の証人は、金版を実際に手で触れたことを証しています。彼らの証は、モルモン書の冒頭に掲載されています。



これらの人たちはモルモン書の力強い証人で、彼らの一部が「ジョセフに対して一時は敵意を抱いていた」ことを思えば、その証はいっそう真実味を増すと、ジェフリー・R・ホランド長老は力強く述べています。離反したにもかかわらず、彼らは「自分たちが天使を見て、金版に手を触れたことを生涯にわたって証しました。『それがわたしたちに示されたのは人の力ではなく神の力による』『したがって、わたしたちはこの書物が真実であることを確かに知っている。』と彼らは宣言しています。」⁴



モルモン書が真実であるという物理的な証拠がありますか。

わたしたちの信仰は物理的なものを基にしているわけではありません。しかし、言語学的、歴史的、考古学的にモルモン書の真実性を証明するものはあります。例えば、金属板に文字を残すという発想はかつてはかかげられていると思われていましたが、近年、金属板に聖文を彫り刻んだもの（石箱に納められていたものも含め）が数多く発見されています。

言語学者によると、モルモン書に用いられている言葉や言い回しは、英語にするときこちなく聞こえますが、ヘブライ語やモルモン書に登場する民が用いていたと思われる言語に照らして

みると完璧な表現だということ。若いジョセフ・スミスは、そのことを知る由もありませんでした。

しかし、わたしたちはこれらの証拠に基づいてモルモン書の真実性を確信しているわけではありません。信仰と個人的な啓示によって、この書物が真実であることを信じているのです。

モルモン書が真実であることをどのようにして知ることができますか。

唯一確かな方法は、聖霊の力を通して個人的に知ることです。モルモン書の最後の章には、モルモン書を読み、よく思い図り、それが真実かどうか分かるようにイエス・キリストの御名によって天の御父に真心から願うようにという、すべての人に向けられた勧めがあります。そうするならば、聖霊の力によって、この書物が真実であることが分かることでしょう（モロナイ 10：3－5 参照）。多くの教会員が祈り、聖霊の証を通して、モルモン書が真実であると知っています（詳しくは、本書の 4、60、80 ページ参照）。

モルモン書についてさらに学ぶ

インターネット上には、モルモン書をさらに学び、家族や友達に情報を分かち合うのに役立つ数多くの情報が、数か国の言語で掲載されています。

- インターネットでモルモン書を読むには、scriptures.lds.org/bmを開いてください
- モルモン書についてさらに学びたい人や質問がある人、あるいは宣教師とチャットをしたい人は、mormon.org/book-of-mormonを開いてください。
- モルモン書を無料で手に入れたい場合は、mormon.org/free-book-of-mormonを開いてください。
- さらに情報や記事、解説が必要な人は、lds.org/study/topics/book-of-mormon?lang=engを開いてください。



黙示録第 22 章 8 節から 19 節には、神の言葉に何も付け加えてはならないと書かれています。このことに矛盾を感じます。

神は今までも常にその御心を地上の子供たちに明らかにされており、今後もそれは変わらない、というのがわたしたちの主要な信条の一つです。わたしたちは、聖書が神の言葉であると信じていますが、神がこれまでに与えられた啓示や、今後預言者に与えられる啓示がすべて聖書に収められているとは考えていません。今日も神は、末日聖徒イエス・キリスト教会の礎である生ける預言者と使徒を通じて、その御心を明らかにしておられます（エペソ 2：20 参照）。

使徒ヨハネが黙示録を書いたとき、それは聖書の最後の書ではありませんでした。旧約聖書と新約聖書が一つになって現在の聖書と呼ばれる 1 冊の聖典にまとめられたのは、紀元 3 世紀になってからです。

同じように、旧約聖書の最初の方にある申命記第 4 章 2 節にはモーセの言葉に何も付け加えてはならないと記されていますが、これが聖

書の残りの部分を無効にするものではありません。モーセもヨハネも、その時点でまだ存在していない箇所を後日付け加えることを意味したのではなく、福音の真実の教えを変えることに対して警告を発しているのです。

完全な福音を取めたモルモン書は、神の言葉を変えているわけではなく、その価値を改めて是認しているのです（詳しくは、本書の24、38ページ参照）。

モルモン書の初版が出版された後に変更が加えられたと聞いています。どんな変更が加えられたのですか。またそれはなぜですか。

この質問の答えを導き出すには、まずモルモン書の翻訳、出版の過程について少し理解する必要があります。

1. ジョセフ・スミスが神の力によって金版を翻訳する際、筆記者がそれを書き留めていましたが、筆記者はジョセフの口述翻訳を書き留める際に、つづりの誤りや文法的な間違いを犯しました。例えば、ニューファイ第一書第7章20節に“were sorrowful”（悲しみ）という言葉がありますが、筆記者は“ware



モルモン書が真実であることをどのようにして知ることができますか

sarrafal”と書き記しました。これは、筆記者に教養がなかったというわけではなく、当時はつづりが統一されていなかったためです。

2. 手書きの翻訳原稿は、印刷に回すためにさらに新たに手書きで書き写されました。このとき、つづりや文法的な誤りがある程度訂正され、句読点が付け加えられました。しかし、書き写す際にも間違いが生じたために、新たな誤りが生じてしまいました。

3. 印刷に携わった人は正確に植字できるように最善を尽くしましたが、それでも時々さらに間違いが起きました。例えば、アルマ書第57章25節に“joy”（喜び）という語を誤って“foes”（敵）と植字していました。

4. 預言者ジョセフ・スミスは、モルモン書の最初の3版を注意深く読み返して、推敲し調整を図りましたが、それでも何件かの間違いを見逃して、後日訂正されることがありました。アルマ書第16章5節の誤りが訂正されて、最終的に“whether”が“whither”（どこへ）に置き換えられたのは1981年のことです。その結果、預

言者が金版から翻訳した当初の正確な表現に一致させることができました。

5. 引照のほかに、新たに章や節の句切りや脚注に変更が加えられました。

モルモン書を分かち合う

人々からモルモン書についてどのような質問を受けた場合でも、最良の回答手段となるのはモルモン書です。皆さん自身がこの書物について証し、モルモン書を分かち合い、その真実性について各自で祈るように勧めるのです。その人が真心をもって、この書物が真実であるかどうかを知りたいと心から望むならば、主は「これが真実であることを、聖霊の力によって〔その人に〕明らかにしてください」（モロナイ10：4）。■

注

1. 例として、ボイド・K・パッカー「モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証」『リアホナ』2002年1月号、71を参照してください
2. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』64
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』60
4. ジェフリー・R・ホランド「魂の安寧」『リアホナ』2009年11月号、88-90

あかし

証, 聖約, 証人

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド長老



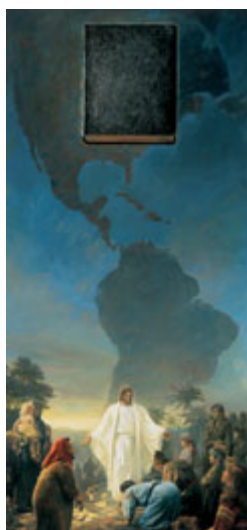
わたしは若いとき、モルモン書を読んでいる最中に、救い主と回復された主の教会について神聖な確信を初めて得ることができました。この神聖な記録を読んでいるときに、何度も何度もその真実性を証してくださる聖霊のささやきを耳にしました。わたしはそれをどうしても否定することができませんでした。

モルモン書を読み始めたことで、わたしに光がさし始めました。モルモン書を読むことによって、神が生きておられ、神が天の御父であられること、またわたしのために幸福の計画が永遠の見地で備えられていることを、霊的に初めてはっきりと知ることができたのです。それは聖書や教会のそのほかの聖典を愛することにつながっていきました。モルモン書はわたしに、主イエス・キリストを愛し、その慈悲深い愛に心を留め、主の贖いの犠牲の偉大さと慈しみをよく考えるよう教えてくれました。

モルモン書はイエスがキリストであられることを真に証するもう一つの書物であり、新たな聖約であることを学んだことで、ジョセフ・スミスが昔も今も変わらず神の預言者であることをわたしは知りました。教会が回復された初期の時代に曾祖父はこう言っていました「悪人にこのような本は書けない。この書物が真実であって、神から命じられるのでなければ、善良な人も書くことはできないのだ。」¹

このような確信に続いて、そのほかのあらゆる瞬間や神聖な啓示を得ることにより、今日のわたしの人生に深い意義があることを悟り、人生の目的を見定め、しっかりと証の基礎を築くことができました。

ところで、わたしは、ヤレドの兄弟とともに海を渡ったわけではありません。天使が告げた教えをベニヤミン王が語るのを聞いたわけでもありません。復活された主の傷口に触れたニーファイ人の群衆の中にもわたしはいませんでした。



わたしは、
モルモン書が
新世界から
全世界に向けて
発信された
新たな聖約であり、
イエス・キリストを
証する
もう一つの書物
であることを
証します。

一つの文明が完全に滅びていくのを見てモルモンとモロナイとともに涙を流したわけでもありません。それでも、わたしはこの記録について証します。この記録が聖霊のささやきを通して人の心にもたらす平安は、モルモン書に登場する人々が経験したと同じように力があり、鮮明です。3人の証人は天使モロナイに会い、8人の証人は金版をその目で見て実際に手で触れたことを証しています。わたしは彼らとともにその場にいたかのごとく確かに、この書物が真実であることを証します。

モルモン書が神聖な書物であり、またこの書物が証しているように主イエス・キリストが神聖な御方であられることを心から受け入れて初めて人は、この末日の書物を真心から信じ、現代にあって完全な平安と慰めを得られることを証します。最も困難を強いられた時期にモルモンがモロナイに語ったように、この大変な時代にわたしも次の言葉を残したいと思います。「キリストに忠実でありなさい。……天の高い所にある王座に着いておられる父なる神の恵みと、……神の右に座する主イエス・キリストの恵みが、とこしえにあなたとともにあるように。」(モロナイ 9:25 - 26)

モルモン書は、キリストが人類と交わされた最後の偉大な聖約を神聖に証するものです。モルモン書は、新世界から全世界に向けて発信された新たな聖約であり、イエス・キリストを証するもう一つの書物です。わたしは主の光に従って歩んでいます。主の証人として世に出て行くとき

に、主は慈しみと威厳をもってわたしや皆さんを導いてくださいます。■

注

1. ジョージ・キャノンの言葉, "The Twelve Apostles" で引用, アンドリュー・ジェンソン編, *The Historical Record*, 第6巻, 175に収録



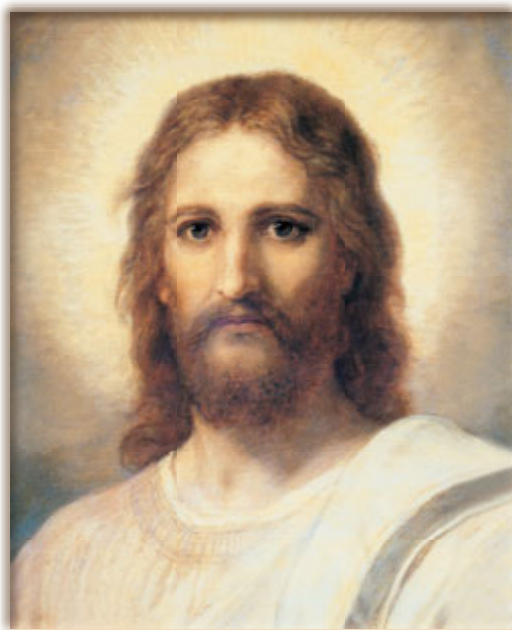
「主は、彼らをことごとく癒いよされた」 ゲーリー・カップ画

「あなたがたの中に病気の者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。……

……あなたがたの信仰がわたしから癒しを受けるのに十分であることも、わたしは知っている。」

さて、イエスがこのように言われると、群衆はこぞって、病気の者、

苦しんでいる者、足の不自由な者、目の見えない者、口の利けない者、そのほかどんなことでも苦しんでいる者たちを伴って前に進み出た。するとイエスは、御自分のところに連れて来られた者をことごとく癒された。」(3 ニーファイ 17:7-9)



「さて……地の果てに至るすべての人よ、これらの言葉を聴き、キリストを信じなさい。また、これらの言葉を信じなくても、キリストを信じなさい。キリストを信じれば、これらの言葉を信じるようになるであろう。これらの言葉はキリストの言葉であり、……これらの言葉は、善を行わなければならないことをすべての人に教えている。

これらがキリストの言葉でないかどうか、判断してもらいたい。キリストは終わりの日に、力と大いなる栄光とをもって、これらが御自分の言葉であることをあなたがたに示されるであろう。」(2 ニーファイ 33 : 10 - 11)

JAPANESE



09690-300